

丹生ダムかわら版 2

第2号 発行/「丹生ダム対話討論会」

ホームページアドレス

<http://www.biwako.ws/seibi/>

平成15年12月20日（土）、第2回「丹生ダム対話討論会」が開催されました。

2回目の丹生ダム対話討論会が行なわれました。前回に引き続き、同じメンバーのグループで（3グループ）前回の議論を踏まえ、もう一步踏み込んだグループ内の議論が行なわれたようです。

今回の討論は、各グループで違った展開を見せたようです。議論の方法に議論の時間を費やしたグループ。一つ一つテーマを決め進めていったグループ。前回の意見を調整しながら意見を膨らまし、より深く議論に入ったグループと様々な熱い議論が展開されました。

今回の対話討論会で、どんな決着を目指すか久先生の私案として冒頭に先生から方向をご説明いただきました。



ファシリテーター久先生

① 丹生ダムに関わる論点を整理しましょう <第2回前半>

第1回で出された意見に第2回目で意見の補足をおこなったあと、それらの論点を整理します。その際、目的と方法をきちんと仕分けすることが大切です。

② 論点の構造を考えてみましょう <第2回後半>

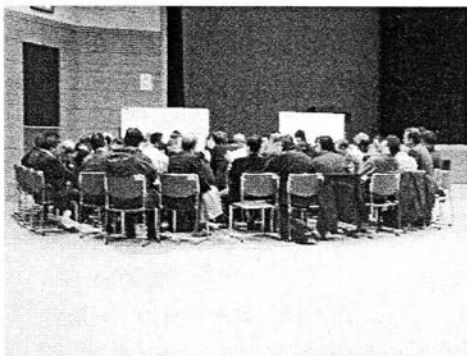
出されたそれぞれの論点がどのような関係になっているのか、その構造を整理してみましょう。ある程度整理ができれば、論点として漏れはないかをチェックしてみて、さらにそれらを深めていく、あるいは広げてみましょう。

③ 論点をつめていくために必要なことは何であるかを考えてみましょう <第3回>

論点同士の調整が必要である部分はどこにあるのか、を考え、それを煮詰めていくには今後どんなことが必要なのか、考えてみましょう。データによる説明が必要なのか、シミュレーションが必要なのか、あるいは、利害調整のための話し合いが必要なのか、いろいろなことがあると思います。この時点でも、ダム建設の是非を問うところまで議論が

まらないと思います。また、是非を考えるためには、データやシミュレーションなどが必要になります。今回の3回の対話討論会では、ダム建設の是非を考える次の段階の対話討論会に必要なさまざまなデータを準備するために、国土交通省としてどのような調査検討作業が必要かを整理するための意見を整理できれば、と考えています。

第3回目の終了後、すぐに国土交通省としてすでに実施されている調査に加え、どのような調査検討が必要かを、対話討論会の内容を十分に尊重しながら調査検討の計画づくりに入ってもらいます。調査検討項目一定整理ができた段階で、再度みなさんに集まっていただき、対話討論会の内容をきちんと受けとめた計画になっているかどうかを評価してもらう機会を設けたいと思います。



第1グループ討論風景



第2グループ討論風景



第3グループ討論風景

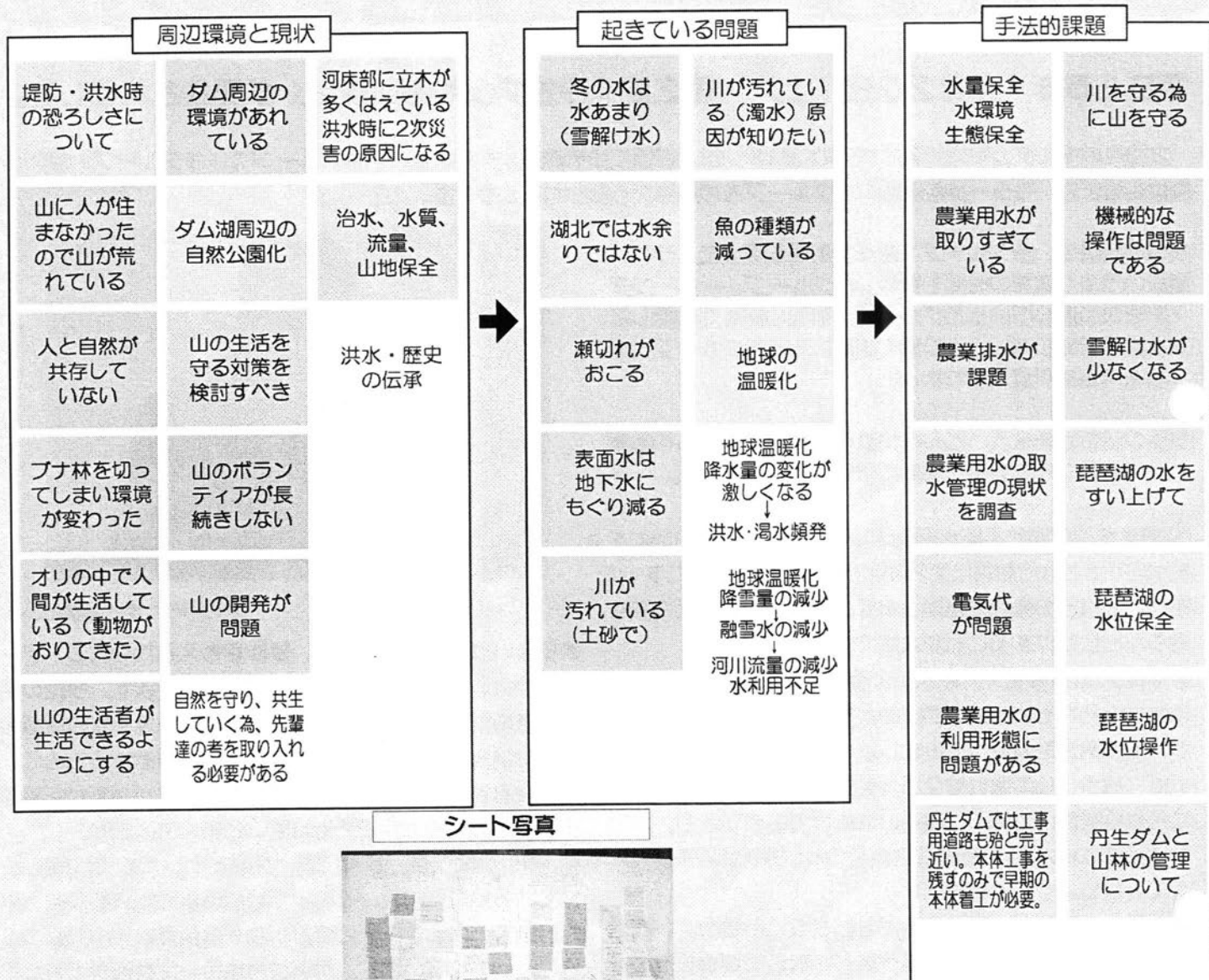
第1グループ

【 討論参加者 】

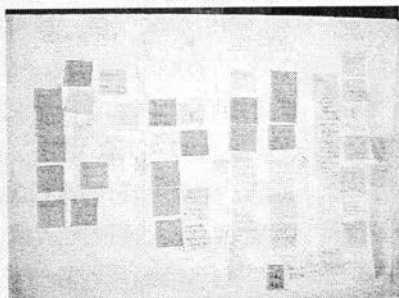
・鳥塚五十三・岸上 広 ・轟保幸 ・野村東洋夫
・河合亮二 ・三國昌弘 ・石山一光・谷口浩志 （敬称略）

グループファシリテーター： 横山 葵 （有限会社 エイライン）

第2回完成 シート



シート写真



第2回 討論風景



グループファシリテーターの意見

1回、2回目で広範囲で様々な御意見が参加者の皆様方からいただきました。まず、第1段階の区切りの会になる次回を全員が議論のしやすい場にするために、今までの御意見を拾い出しテーマごとに分類したのを使いながらいろいろな角度から議論を深め、第一段階の到達点である調査検討の為の意見項目を一つでも多く参加者の方々の意見が詰まったものにしていきたいと考えています。

◎ダム周辺環境の現状について

1. 治山
2. 利水
3. 環境

- ・ 山全体の保水能力低下が起っている。
- ・ 伐採等が原因で川が汚れている。
- ・ 山の環境の変化で動物達が里山に下りてくる。

◎洪水と瀬切れ

- ・ どのように考えていくかが重要である。
- ・ 農業用水についての議論があった。

検討課題

環境水の確保	安全に生活 できる環境を	水余りについて 調査 ダム建設の費用 ・水量・水質	3つのゾーン に分けて 考える
河川維持用水 水量の確保 ・ 雑用水、 ・ 魚類の遡上降 下に必要な水量	丹生ダムの 「環境改善容量」 (琵琶湖)	自然の営みに 対して謙虚な 姿勢・考え方 を持つべき	淀川 から 琵琶湖
・ 高時川で確保 ↓ 琵琶湖・淀川 にも役立つ	流量に対する 対策を検討する	ダム建設の意 思決定におけ る住民のかか わり方	ダムサイド 上流
河川環境 ・ 心の安らぎを 与える ・ 水と緑がある ・ いつも水が流 れている ・ 魚等が住んで いる	他の方法で対応 することはでき ないかを十分に 検討されたか、 確認する必要がある	淀川下流部の 水余り	高時川河口 から ダムサイド
・ 魚類には砂、 小石が必要	影響の及ぶ範囲 をできる限り広 く深く識り、考 えることが大切	水余りについ て今までの水 源県と下流府 県とのやりと りを知りたい。	
討論会・意見 交換の場作り、 対立の解消	河川の流量が 絶対的に減少し ている。理由は 何か。厳密なデ ータ収集が必要	需要水余りに ついて調査	
ハザードマップ、 防災訓練、 防災への伝承、 ソフトの強化	高時川の 環境保全	管理者は水 需要につい て調べる。	
地域住民の 思い (ダム周辺)		一般の水需 要について 調べる。	

討論中に出た意見

- ・ 事業が環境などに影響を及ぼすことについて考える必要がある。
- ・ ダム以外の他の方法で対応していくということが十分に反映されているか。
- ・ 事業に対して納得させてほしい。
- ・ ダム湖周辺の自然環境について考えるべきである。
- ・ 地域住民の思いを分かってほしい。
- ・ 高時川の歴史を知ってほしい。
- ・ 総合的に考えてひとつのことを決めていくべきである。
- ・ 治水水質と流量について十分検討する必要があり、同時に隣地保全も行なうことが必要である。
- ・ ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
- ・ 治水の歴史を広めてほしい。
- ・ 討論会の仕組みを充実させる。
- ・ 対立の構造を取っ払っていろいろな意見を聞くべきである。
- ・ 望ましい川の実現。
- ・ 環境水（河川維持用水、水量の確保、雑用水の確保、魚の遡上に必要な水の確保）の確保。
- ・ 川のあるべき姿、心の安らぎを覚える、魚が住んでいる、川底に魚が産卵できる石がある。
- ・ 地球温暖化。降水量の変化が激しくなるのではないかな。
- ・ 日本は雨の多いほうになるのだという話が出ているため現状で考えるのではなく未来に向けて考える。
- ・ 琵琶湖に流入する川の流量を確保すると琵琶湖や琵琶湖から出て行く川に影響があり、このバランスをとることが重要である。
- ・ 雪が少なくなってきた。北湖の水は、雪解けの水によって循環し、生態系が保たれてきた。
- ・ 雪解け水は、自然のダムの役割を果し、その水は、農業の灌漑用水期まで確保されていた。
- ・ 農業優先の水利用になってきている。
- ・ 琵琶湖の水位操作によって環境など障害が出ている面を考える。
- ・ 環境面で考えると、人間がコントロールしている地点でその上下で何が起きているのかを把握し、個々に議論し全体を考えるべきである。
- ・ 高時川にいつも水のある状態を作るには、どうするのか。
- ・ 冬の水は、琵琶湖ではあまり、夏場は水が足りない。
- ・ 100点の答えはない。
- ・ 姉川の産卵流量は、大変減っており、瀬切れが生態系に起こす影響が大きい。
- ・ 瀬切れが起こらなくても、姉川の産卵流量は回復していない。
- ・ 7月末から11月22日まで瀬切れのままであった。
- ・ 琵琶湖の水位操作でも環境がかわる。
- ・ 琵琶湖の湖底部に水が入っていくなど、現在起こっている不自然な環境に対しては、人為的な操作が必要である。
- ・ 民間公共など周辺環境での乱雑な工事（環境破壊）をしてしまっていることに配慮されていない。
- ・ 姉川は、南風の影響を受け、高時川は、北風の影響を受けている。
- ・ 山の崩落が進んでいる。ブナの木を切ったのは、大きく影響をしている。
- ・ 琵琶湖や高時川の魚の種類が減っている。
- ・ 集落に、サルやくまが降りてきて逆に人間が檻に入って生活しているのは、山に（上流に）人間が住んでないからではないか。
- ・ 人間と自然が共存していた時代に生きていた現在の70才から80才の人たちにノウハウを今のうちに聞いておく必要がある。
- ・ 川を守るには、山を守るべきである。
- ・ 琵琶湖の環境にとっては、農業廃水が課題である。
- ・ 皆が恩恵を受けたが、土地改良事業にも問題があった。

- ・ 山を守るための試みがいろいろあるが、ボランティア活動等は限界にきている。生活収入を得る状況を作るべきである。
- ・ 治山治水に尽きる。
- ・ 瀬切れ防止にポンプアップの仕組みが有効。
- ・ 電気代がかかる。
- ・ 高時川も、姉川も流量が多かった頃には、農業用水としてとられても大丈夫であったが、その頃と自然環境が変わってきている。
- ・ 夜も昼も水量が同じで農業用水が出て行くことは、この操作の原点を見直すべきである。
- ・ 頭首工で水を取るのではなく、琵琶湖の逆水をポンプアップして使うと金がかかる。
- ・ 高時川は扇状地であるので表流水が地下水に変わる量が多い。これの利用はないのか。
- ・ 質の問題の中で大きく向上するように考えるべきだ。
- ・ 機械的な操作で水量だけ満たしても生態系には、悪影響を及ぼす。

第2グループ

【 討論参加者 】

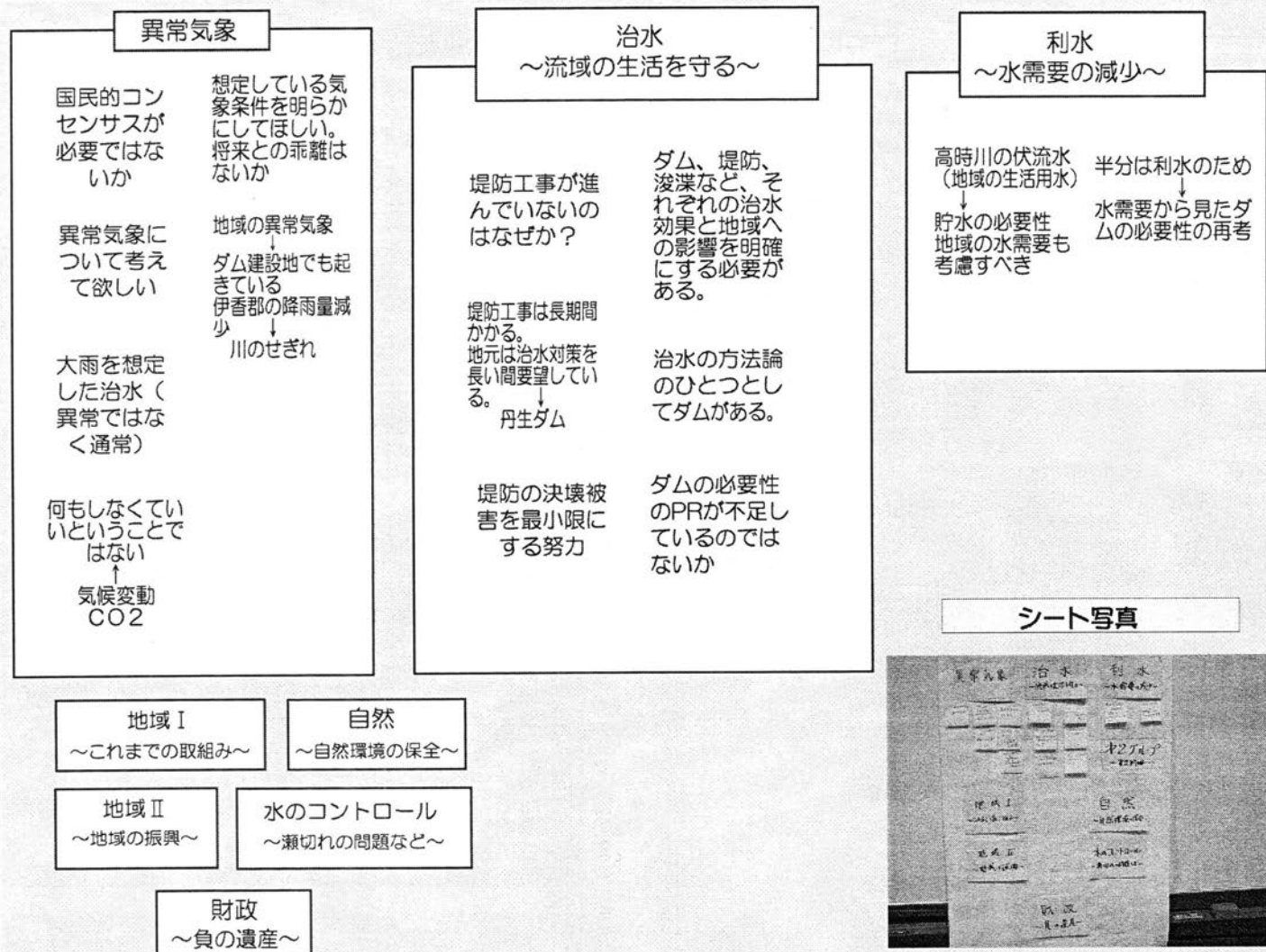
・丹生善喜・浅見勝也・コ玉博之・千代延明恵

・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博

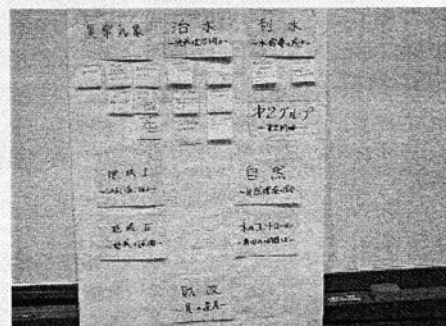
(敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第2回完成 シート



シート写真



第2回 討論風景



第2回 全体報告

報告者： 南部厚志

○異常気象について

- ・異常気象について考えてほしい。
- ・何もしなくてもいいということではない。
- ・対応していくには国民的なコンセンサスが必要である。

○治水について

- ・堤防工事はなぜ行われないのか?
- ・治水対策事業の効果を明確にする必要がある。

○利水について

- ・水需要からみたダムの必要性を再考する必要がある。
- ・地元からみた水需要も考える必要がある。

討論中に出た意見

- ・ 異常気象は現在世界的な問題になっている。
- ・ 異常気象への対応については、国民のコンセンサスがなければ、実施には結びつかないのではないか。
- ・ 異常気象の原因は、都会での人間活動にある。
- ・ 人と環境がどのようにかわっていくべきか（環境倫理、環境道德の観点）を考えなければならない。
- ・ 田舎の人は、環境倫理、環境道德を大切にしている。
- ・ 異常気象は人間のエゴで起こっている。人間はもっと謙虚になるべきだ。
- ・ 高月町では過去に降雪量は2～3mあった。現在では、降雪量、降雨量ともに減っている。このせいで、高時川に異変（瀬切れなど）が起こっているはずだ。
- ・ ダムを建設して水を貯水することで、川の問題の向上であったり、利水の向上であったりが実現できるはずだ。
- ・ 今後、今までに経験したことのない異常気象による大規模な災害が起こることもありうるのではないだろうか。それについて専門的な意見を加味して、ダム建設の是非について検討していくべきである。
- ・ ダム建設を異常気象対策のためとして作るのは、国民の新たなコンセンサスを得てやらないと、地域のエゴになる。
- ・ 国民は健全に暮らす保障（法のもとの平等）が憲法で明記されている。
- ・ 地方に住む弱者の生活を保障すべきだ。
- ・ 利水や治水のように現実に近い問題を議論していくべきじゃないだろうか。
- ・ 異常渇水時にある量を確保するための貯水量は計画されている。
- ・ 治水は第一に考えられるべきことである。
- ・ 高時川は大雨があったら、洪水が起こる可能性が高い。
- ・ 堤防強化するという案もある。しかし、それを全ての川岸で実現するには長い年月がかかり困難である。
- ・ 地元は堤防強化を求めているのに、なかなか国は実現してくれない。
- ・ 結論として、水量調節がいいのではないかと思う。
- ・ ダム建設と堤防強化両方やられていくべきである。
- ・ ダム建設・堤防強化などの効果を明確にして、取り決めをしていくべきだ。
- ・ 流域委員会では、堤防決壊した場合の被害をできるだけなくそうと考えている。対策許容量以上の水量で洪水が起こるなら仕方ない。
- ・ 400年前の堤防を現在もつかっている。
- ・ 国は地元の要望を聞いてくれない。
- ・ ダムに替わる代替案は、地元の要望を満たすのだろうか。
- ・ ダムの予算をまわせないのだろうか。
- ・ 堤防の方が予算がかかる。
- ・ ダム建設は過去短絡的に決定されてきたのではないだろうか。
- ・ 対策事業の治水効果の明確化が必要。
- ・ 堤防強化事業が行われない理由の明確化が必要である。
- ・ 日本の地形（急な勾配な土地柄）を考える。
- ・ ダムの建設が容易な地形である。
- ・ ダム建設がもたらす弊害についても明確にする必要がある。
- ・ ダムに対する水の需要は減っているのは間違いない。
- ・ 工場で循環水を利用するようになった。
- ・ 水需要は減るだろう。
- ・ 利水にかかる費用が大きい。（琵琶湖にたまる泥水を循環して利用しているから）
- ・ 大都会の思いで、田舎が振り回されている。
- ・ 田舎の人は、下流にきれいな水を流したいと思っている。
- ・ 水需要は、湖北では工業用水ではなく生活用水がメインである。
- ・ 高月町は地下水を上水として使う。
- ・ 湖北の水需要のためには、貯水が必要。
- ・ 大阪の人は琵琶湖があるから、水の大切さをあまり感じてはいないのではないだろうか。
- ・ 下流域民の水需要は足りている。
- ・ ダム建設が20年30年以上先の批判にも耐えられるのかどうか。
- ・ 減反政策で、農家離れが進んだ。
- ・ 元の方針が通っていくのがよいと思う。
- ・ 水需要から見たダムの必要性の明確化。
- ・ 地域の水需要の明確化。
- ・ ダムの必要性について、役所のPRが不足しているのではないか。
- ・ 地域の将来を考えた価値判断も取り入れるべきだ。

グループファシリテーターの意見

第1回討論会で抽出した8つの論点について、順に討論を進めた。「異常気象」については、予想される変動を十分に認識して対応を行っていくべきだ、との意見が出された。これに対して、異常気象は日本全体で起こっており、丹生ダムでの対応には国民的コンセンサスが必要だとの意見があった。「治水」については、洪水で苦しんできた流域の状況や今日なお脆弱な堤防のもとでの不安な生活、堤防改修に対する地元の強い要望にもかかわらず対応がなされなかった不満が語られ、その経過のなかでダム建設が選択されたことが述べられた。ダムは治水対策のひとつであり、ダム、堤防、浚渫などの治水対策事業のそれぞれの効果を明確にする必要性について合意された。また、堤防決壊した場合には、その被害を最小限にする取り組みが必要との意見があった。「利水」については、下流域での水需要が減少しているなかで、利水からみたダムの必要性について再考すべきだとの合意がなされた。また、長期的な水需要や地元の水需要という点から、ダムの必要性について意見があった。進行のまずさもあって、以上の3つの論点で時間切れとなってしまった。「これまであまり議論されなかった残りの論点についての討論が重要である」との意見も最後に出された。次回も活発な討論を期待したい。

第3グループ

【 討論参加者 】

・澤村宗一郎・近藤齊伸・西尾新治・立見安弘・泉良之

・澤村繁　・川地勲　・井口賢一・小梶猛（敬称略）

グループファシリテーター：　中村伸之（ランドデザイン）

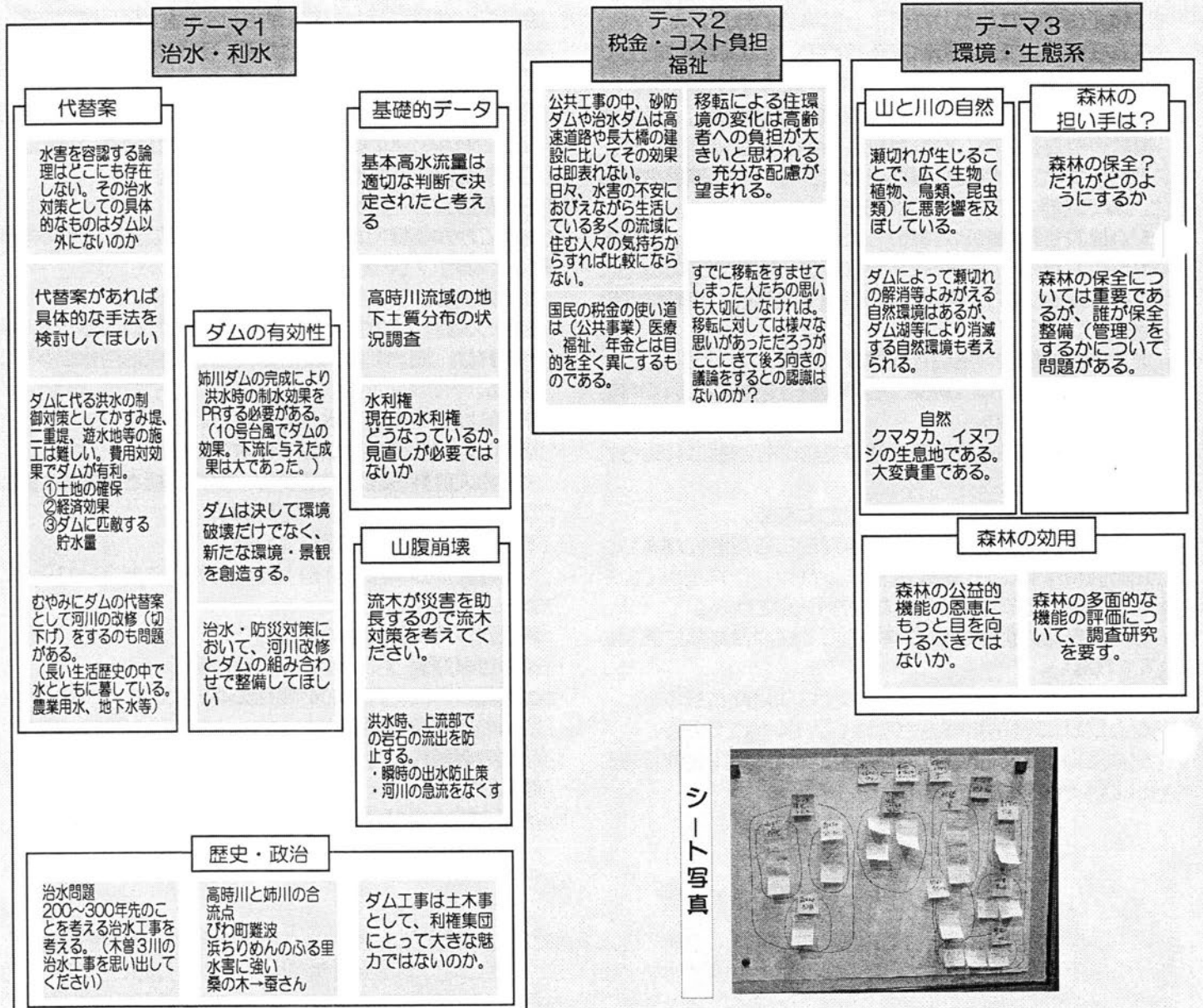
第2回完成 シート

●話し合いの流れ

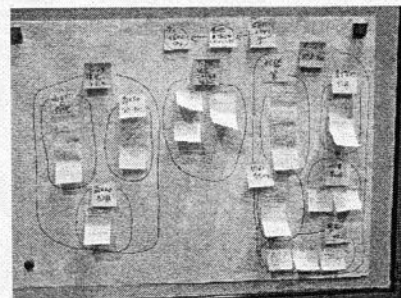
前回の
おさらい

気になる項
目をピック
アップ

少し
深めてみる



シート写真



第2回 全体報告

報告者：西尾新治・小梶猛

5つのテーマで議論。

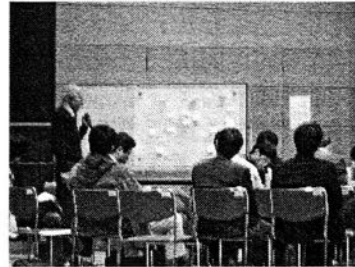
◎河川改修の困難性→ダムの必要性（高時川は天井川で流域も開発されていて、災害が起こりやすい）

→水利権など。流下能力を考えて、ショートカットやかすみ堤の指摘も。

◎水害の恐ろしさ →ダムによって不安解消 ◎ダムにかわるものはないかそれが行われていないとの批判。

◎渇水対策（生態系への影響）

◎コスト面での提案（住民負担）、税の考慮→他事業との関連。



討論中に出た意見

- ・治水代替案とも関連するが、かすみ堤については、十分調査検討されたのか。
- ・堤防のかさ上げについて、洪水時に高い水位が続き、万一堤防が決壊したときの浸水域が広い。全てをかさ上げすると非常に費用がかかるが他の代替案にくらべると安価である。
- ・遊水池については330万m³の治水を考えると1km²で深さ5、6m規模で6箇所ほど必要になってくる。1箇所では2.5km×2.5km（深さ5、6m）必要になってくる。高時川、河川周辺の高度利用を考えると遊水池の設置は難しいのではないかと。（用地取得を考えると）膨大な費用がかかる。
- ・堤防強化について、現状の堤防は材質がいいかげんなものが多い、また良質でできていても地盤が弱いので意味をなさないのである。また地盤改良にしても費用がかかりすぎると思う。
- ・河床掘削については天井川をなくすという点で有効であると考えられるが、残土処分の問題もある。今の河川改修は小規模にしてダムを作るべきであると思う。
- ・かすみ堤は戦国時代からの手法である。堤防の左右の高さが違うのは、用地争いから起こったことである。片側から水を逃がす役割があったが、今の時代に周辺住民はこれを納得するのか。
- ・ダムの安全弁・放水路を作ってください。
- ・公園が行なったものには水路があるので、それとつなげばいいのではないかと。
- ・水質は姉川にダムができてから汚れているだろう。
- ・下流域に住んでいる者にとっては、豪雨の時は三日間くらいすごい悲惨な環境になっていた。
- ・毎年水害で悩まされている。
- ・ダムが治水のための一番有効な手段であるか疑問である。
- ・自然がつくったものをダムでコントロールできるのか。
- ・雨の時はいつも川を眺めている。
- ・姉川をみるとダムで水位が調整できているのは確かである。雨の時も川の水位が荒れない。
- ・ダムに替わるほかのものはあるが、天井川の暮らしの中で、いろんな影響があるのでダムはすごい。
- ・上流で石が流され、橋脚にあたったこともある。そのときの音はすごい音である。土石流を流さないようにしなければいけない。
- ・代替案には具体的にはどんな物があるのか。
- ・治水の立場から考えるとダムが全て悪ではない。
- ・全て環境問題を起こしているわけではない。
- ・高時川の堤防構造（地質）を調査して、本当に治水効果があるのか調査してもらいたい。
- ・ダムをつくる方向で考えてほしい。
- ・どういうメカニズムで湧水が発生しているのか調査してほしい。（天井川周辺地域）
- ・堤防決壊の要因は3つある。（越流・洗掘・漏水）
- ・堤防強化に関してはスーパー堤防（下流域）、洗掘されない被覆を行なうなどがあるだろう。
- ・姉川ダムの効果をもっと報道してほしい。いつも被害があった時だけである。どれだけ被害を間逃れたのか。
- ・ダムの耐久年数はどれくらいなのか。
- ・ダム本体、堆砂、地耐力、それとも全てなのか。
- ・すごい自然林が残っていたのに、間違ったスギ・ヒノキが植林されている。全て雪で曲がったり折れたりした。
- ・森林の公益的思想をもっと認識すべきである。
- ・河川を掘り下げる時には、琵琶湖との関連もあり、どれくらい効果があるか調査しなければいけない。
- ・河川改修とダムの両立が必要であろう。
- ・ダムで全てを守ることはできない、ただし（治水）全てを河川改修でやるというのはむずかしい。
- ・治水対策から考えたときには河川改修（掘削）は必要であると思う。
- ・流量の設定が大きく見積もりされているという発言が前回あったがどういうことか聞いたかった。
- ・移転集落について、かなり抵抗があったと思うが話を元に戻すのはどうか。
- ・環境がかわったことによる（移転住民の）ケアを考えなければいけない。
- ・住民負担は国民負担である。（一般会計でおこなっている）税金である。
- ・治水以外の目的と比べたときの評価の仕方について（医療・介護）問題である。
- ・ここの議論と国・県との関係がよくわからない。
- ・知事はダムでいくと発言しているので、ここの議論の意味がなくなるのでは。
- ・利水容量の改定、治水対策容量の規模の設定によってはダムを変えることもある。
- ・環境改善においては帯状の裸地を可能な限りなくすることが重要になってくると思う。
- ・国土交通省の検討項目になる。
- ・そのときは土木的な調査にとどまらないだろう。
- ・瀬切れ防止は重要である。魚だけでなく動植物に対しても必要であろう。
- ・環境悪化を考えていかなくてはならない。
- ・森林の保水機能だけでは、ダムでコントロールするようなことはできない。
- ・ある段階までは森林の保水力は認められるが、洪水対策まではいかない。
- ・治水時において、森林は蒸発散するために流量が少なくなる。
- ・農水省の多面的機能について答申として出している。
- ・現時点でどれくらい森林保全をしているのか。
- ・森林の要素はわかる。これを誰が管理していくかが重要である。
- ・クマタカ、イヌワシの生息地であるので調査が必要。
- ・河川改修の水利権について、政治家が利権を握っているという。

グループファシリテーターの意見

今回の作業で、皆さんが関心をもたれているテーマがかなり絞り込まれたのではないかと思います。

次回はこれらを材料に、テーマどうしの関連・関係を探ってはいかがでしょうか。

「治水・利水」については、ある程度話が出尽くしたかと思いますが、治水と利水の関係がどうなっているのかを、さらに深めてはいかがでしょうか。「税金・コスト負担・福祉」のテーマでは、あまり意見が出ませんでした。移転住民も含めた地元へのケアは「福祉や地域振興」として考えられます。また、「誰のための治水・利水なのか」が「コスト負担」のテーマに関わってくるでしょうし、「山と川の自然」のバランスをいかに保つか、適正な治水事業を考える鍵になるような気がします。このように、各問題にその場で決着をつけるのではなく、相互の関係性やバランスを考えることで、今後、国土交通省がどのような調査検討を行なうべきかが見えてくるのではないのでしょうか。

傍聴者からの意見（第2回討論会アンケートより）

- ・会場設営について、グループ毎に会議室を分ける方がよい。
- ・異常気象の定義すらない中での討論は、時間の浪費と感じた。
- ・治水対策の討論の中で堤防の改修、強化、川底の浚渫そしてダム案それぞれについて建設者に検討案が無いことでは、ダムの必要性に疑問を感じた。
- ・主催者はもっと情報を開示提議することにより、片寄った議論が防げると感じた。
- ・もう少し意見交換の機会を増やす必要性を感じた。
- ・ダムの効果把握が必要との意見は重要であった。
- ・丹生ダムは平成12年度に完成予定のダム事業で大幅に完成が遅れている。
- ・討論内容を聞いている「これから計画するダム」のごとく初歩的議論が多い。「治水」「利水」「環境」の位置付けから「環境」についての議論は理解出来るが、全体的な運営に疑問を持つ。
- ・討論の人の人数が多いと思われる。
- ・それぞれの分野の代表者に議論してもらった方が論点が明確になる。
- ・ファシリテーターも無理やりにも整理する方向に持っていくけん引力が必要と思われる。
- ・3回でどのような検討結果がだせるのか疑問を持つようになった。
- ・様々な立場の人の意見を聞く事が目的であれば意味は大きい。
- ・傍聴者からの意見を聞く時間もほしい。
- ・色んな意見が出ており大変参考になったが論点をしぼっての議論をもう少ししてほしいと思った。
- ・地元の方の安全、安心を考慮した方向での取りまとめをお願いしたい。
- ・一傍聴者として、みなさんの意見をはっきり聞きとりたい。部屋を区切りマイクをしようしては。
- ・議論する中で論点となることに対してデーターの提供が必要。
- ・国土交通省は各論点をデーターにより説明する必要がある。正確な理解なしでの意見発表は意味がない。
- ・第1グループを傍聴した。課題を抽出して、その課題について議論をすることになり、課題は各人から提出された。
- ・丹生ダムの計画目的に対して、ダム反対者は目的そのものを必要ないと思っているのか、他に方法があると思っているのかを明瞭にすべきである。
- ・他の方法があると思っていれば、それはどのような方法かこれらの検討をしてほしい。
- ・ダムに対する、代替案が指摘されているが、ダム対代替案というのに、あれがいいこれがいいと「言葉」や「物」での討論がなされているが「数値的」「どちらがどれだけ形に表して効果的」なのか、考えるべきだ。
- ・具体的な討論がそろそろ始められてもいいのではと思った。
- ・対話集会の意見や、説明会での意見だけでなく、もっと一般の意見も聞く方法を探して欲しい。大多数の普通の住民は、わざわざ意見を言わないし、なかなか説明会にも行けません。
- ・原案があると聞く、なぜ提示しないのか。一原案づくりの対話会一なら効果がない。
- ・姉川、高時川の情報開示がなされていないのに討論するには問題が多い。計画流量・降雨データー・確率規模の設定・地形地質の問題等。
- ・事業担当者が住民参加案という形で出来ている原案を極一部訂正して終わってしまう。
- ・地図（会場案内図）がわかりづらかった。
- ・第1回目よりも話が前進していった。ダム問題に対して自分の知識もより深まったし、丹生ダム問題の今後の検討も、この討論会の意見が反映されれば（もしくは、反映されなくても検討されれば）、一般の人達のダム建設への理解が得られるのではと感じた。
- ・普段、ダム反対を伝えることの方が多いマスコミ関係者人達に聞いてもらいたい会だと思った。
- ・同じ行政的立場にいる者として、大変有意義な会と思って参加させて頂いております。身近なところからの意見の積上げでもう少しずつでもよりよい方向へ進んで行くように願っています。
- ・地図をもう少しわかりやすく使っていただきたい。
- ・グループ座席表をホワイトボードに貼ってほしいー最後の発表の時には外して構いませんので。
- ・進行役の方が瀬切れ問題は漁業者以外は関心がないですねと言って話を切られました。河川は水が流れて始めて河川であり、水はすべての生命の源です。川に水がないと言う事は生態系をこわし、琵琶湖の生態までこわす結果になると思います。なぜ瀬切れが起るのか頭着工の取水問題を含めてもっと真剣に取りくんでください。
- ・異常気象は現在は通常気象とみなすべきだとの事でした。とんでもない考えだと思います。世界各地で異常高温、大洪水のニュースが度々あります。現に今年は九州、四国地方は集中豪雨があり、東北地方は冷夏でした。簡単にけず真剣に議論すべきと思う。大洪水が起ってからでは遅いと思う。
- ・ダム建設を前提に用地買収、集落の移転、関連工事の施工（主に道路工事）等、500億円をこえる税金を使い、見直しなどと後向きの議論です。その他治水、利水、危険性を考えるとダムは必要だと思います。前向きの議論を願います。
- ・30数年間、姉川と琵琶湖にたずさわって生活して来ました。30年前と較べると水質の悪化はひどいです。このままだと近い将来死湖になると思います。原因は農業排水だと思います。淀川水系全部に影響する事です。何か機会があれば考えて下さい。大事な問題です。

第2回討論会アンケート集計

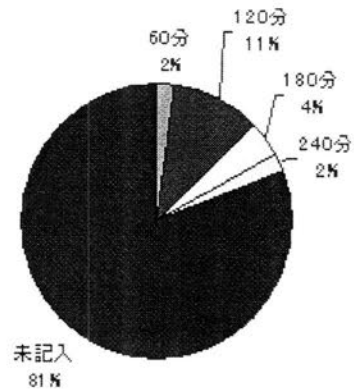
* アンケートについては、皆様方から頂いたご意見を紙面の関係上、簡略化させて頂いており、また、似ているご意見については、まとめさせて頂いております。

今回のグループ討論の運営への感想

- ・うまくまとめられていくと思う。
- ・良かった。
- ・ルールにのっとって、すすめている。
- ・もう少し論点整理をしてほしかった。

- ・時間を考えたまとめができていない→この時間ではむづかしいのでは。
- ・基礎原案に対する討論を深めるべきではなかったか。
- ・住民討論では、専門的手法は無理だ。
- ・議論のテーマを設定し、進行させたので話し易かった。
- ・他グループの声の方がむしろ大きかった。
- ・部屋を分けるのが当然である。
天井からの反響も障害となった。
- ・討論の話し声が傍聴者にはほとんど聞えなかった。
- ・これまでにおこなわれた議論を出発点にしていけないので、この種の討論をくり返しても到達できるレベルは大変低いのではないかと危惧する。討論の輪が広がるという効果はあろう。
- ・第3グループでは論点整理のための事務的作業という色彩が強く感じられ、期待を裏切られた。
- ・もう少し積極的に運営をリードしても良かったのでは。
- ・もう少し傍聴者が移動して各グループの様子を見られるようにしてほしい。
- ・本当は声がきこえない。
- ・会場が大きいため各グループの音が入り聞き取りにくい。
- ・反対・賛成、それぞれのプレゼンを見てみたい。
討論会の目的、課題を明瞭にしておかないと議論だけでまともならない。
- ・傍聴者は発言者の声が聞きとれない。
- ・1班と3班を聞いた。司会者が謝っていた？が、“基本原案を白紙にする”一参加者の信頼がゆらいでいた。
- ・討論の進め方に時間がかかりすぎて実際の討論が出来ていない。この方法なら討論時間を長くする必要がある。
- ・声が小さくて理解出来ない部分が多い。
- ・出来れば個室的な場所で出来ると良い（1グループごと）。
- ・現地調査も必要（川の上流）現場を知ること。
- ・テーマを設定し、何を明らかにするのかを条件としたので深い議論がされたと思う。
- ・グループ討議が充分聞えない。（会場設営がまずい）
- ・議論する方法がまとまらず、大半の時間を費やした。
- ・意味のない話、横へそれる話などファシリテーターは交通整理すべきだ。
- ・第1回、第2回で検討事項はまとまりつつあるようです。
- ・討論会の主旨を理解せず、自説の主張に貴重な時間を費やして討議者がいる。人選が悪い、前向の姿勢、建設的でないので、選考のやり直しが必要と痛感しました。
- ・実情を知らない（勉強不足）討議者は同じ人物である。
- ・議論をまとめ上げるのが非常に困難なのがわかった。
- ・自由討論と、まとめに向けてひっぱっていく、けん引力のかねあいがむづかしい。
- ・声を大きくして。
- ・流域委員会の討議会では、マイク設定など十分にされているのに、なんで今回、討論会ではないのか。せっかく周りで聞いていても何の話をしてるのか分からない。ワイヤレスイヤホンなどを考えてほしい。
- ・皆さんが意見集約などよく運営していたと思う。
- ・討論参加者の立場と意見の要約がほしい。
- ・グループごとに別室にした方がよい（聞きやすい）。
- ・河川管理者としての意見を述べるべきではないのか。（国土交通省として出席している人は、傍観しているだけのよう感じました。）
- ・話中の声が非常に聞きとりにくい。
- ・以前に話が出た事のくりかえしになっている。
- ・第3班においては、もう少しまとめて発表してほしい。

討論会時間について



- ・ダムができた時の問題点、できなかった時の問題点、他ダムでの問題点を他ダムの地域の方から聞いて取り入れていこう。
- ・討論参加者全員が意見を言えて良かった。
- ・対立の形ではなく各々の思いを発表する形が良かった。
- ・地元の方の体験に基づく事実関係の説明には、計り知れない説得力がある。これらの情報を会場以外の人々にも知っていただきたい。
- ・方向がずれた時の修正はあったが議論を集約する運営ではない。意見を聞いているだけ。
- ・グループによって討論内容が多種多様であるのは面白い試みであると思うが、一部のグループでそれぞれ全く別のことを言い合い、討論として成立していなかった点が見受けられた。又、発言する人が片寄っているグループもあり、「意見のぶつかりあい」が少ないところもあった。
- ・意見も出やすく、議論が図られるので、討論会の方法としては良い。ただし、最終的に3つのグループの意見のまとめをどのように行うかが課題。
- ・課題の整理が遅く、討論時間が短い。
- ・設営が悪い。聞えない。
- ・前半、余りに多様な意見が出て、第1回目と変わらないのでは？と不安に思ったが、現状→問題→手法→課題と後半整理していったことで、何が問題で私達はなにが知りたかったのか、ということがよく理解できた。
- ・終わってみれば、前半に出たたくさんの意見も全てこの討論会では必要なことだったんだ、としみじみ感じた。お疲れさまでした。
- ・第1グループは前半は「会」そのものに対しての意見が多く、賛成or反対の意見をもっている方のすれ違いが多いように感じられたが、後半は主旨にあった意見、課題等について活発に交わされていたと思います。
- ・次回の進め方についても確認し合ったことで、それぞれの立場から意見なり、知りたいこと、要望等が多く出されると思います。
- ・最近の広報誌や新聞には「中止」の記事が多い。
- ・誤報道に対して何か手を打っているのか。
- ・真剣な姿勢で運営していただき感謝しています。
- ・広く一般に向けて広報してほしい。

この対話討論会を通じて驚いたこと

- ・洪水や水害の恐ろしさを知っている人が少ない。
- ・ダムの必要性が共有されていない議論がなさすぎる。
- ・地元の人々がダムに寄せる期待には、非常に大きな重みがあること。
- ・ダム建設が自然を守るという認識。

この対話討論会を通じて気づいたこと

- ・利害関係がありむずかしい。
- ・流域周辺の意見が重要視されるべきはすなのに、関係外の意見が強い。
- ・ダム建設中止の理由事項を探っているみたい。
- ・女性の参加少ない。
- ・私も含め、議論がかみあうよう発言しなければ非効率である。
- ・丹生ダムの是非について議論すべきだ。
- ・ダム反対意見の方の参加が少なかった。
- ・様々な立場、意見があって、面倒でもこれらをきちんと整理、議論する必要があると思った。
- ・ハラを割った意見が出ていたのか？

この対話討論会の問題点は何が

- ・地域住民の生命・財産を守るのが重要なのか、環境破壊を防ぐのかどちらが優先か。
- ・どうしたら人と自然とが共生できるか。
- ・淀川水系委員会の「ダムは原則として建設しない」の提言が気になり、真剣な討議ができない。
- ・この討論会は水系委員会を組織するまでに開催しておくべきである。
- ・テーブルについている人のダムへの認識に差がある。
- ・「分科会」という訳でもなく、何となく3つのサブグループに分けてもあまり意味がない。例えば地域分けにするとか、テーマ別にすることが考えられる。
- ・討論の目的があまり明確ではなかった。
- ・開かれた会の運営になっていない。
- ・解決とは何か？そこを考えたい。

意見交換は十分にできたか

- ・総括論が話せていない。
- ・時間が少ない。
- ・時間がたりなかった。
- ・できた。
- ・設定されたテーマに対して、全てに議論ができずに終わってしまった。
- ・議論の時間が短く、工夫が必要である。
- ・時間が足りず残念。
- ・不十分。

今後の予定（対話討論会開催日）

第3回 2004年 1月17日（土） 13:00～15:30

長浜ロイヤルホテル 長浜市大島町38 TEL 0749-64-2000

※グループ内討論参加者名は、申し込み順で記載されています。御了承のほどよろしくお願いします。

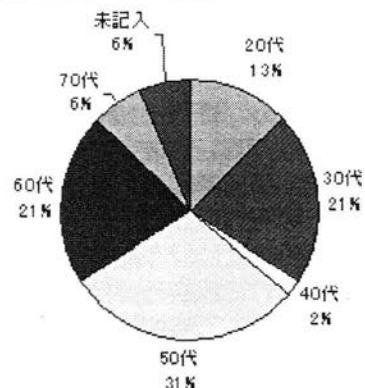
お問い合わせ先

〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-5-1

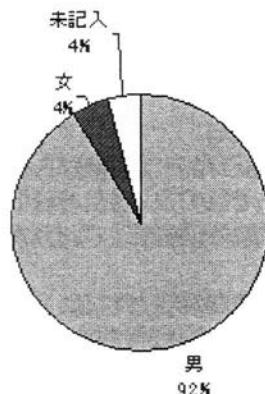
琵琶湖河川事務所 調査課内「丹生ダム対話討論会」係

TEL.077-546-0844（代表）

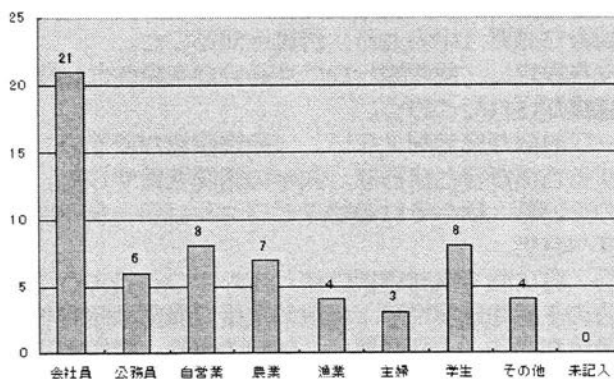
傍聴者・参加者 年齢別



傍聴者・参加者 男女別



傍聴者・参加者 職業別



丹生ダムかわら版 3

第3号 発行／「丹生ダム対話討論会」

ホームページアドレス

<http://www.biwako.ws/seibi/>

平成16年1月17日（土）、第3回「丹生ダム対話討論会」が開催されました。

3回予定していました討論会の最終回ということもあり、琵琶湖河川事務所の児玉所長の挨拶も会の最後にありました。3回の討論でしたが、様々な角度の“調査・検討項目”が提案されました。



ファシリテーター久先生

丹生ダムの対話討論会全体像

第1段階 今回（3回＋1回）

＜ 目的 ＞

- ・ 賛否を問う前段階問題は何か、どのあたりが論点か。を議論し、共有する。
- ・ 問題を解決する為にはどんな方策が考えられるか。を議論し共有する。
- ・ お互い比較検討する為には、どういうことが必要か。を共有する。
- ・ 代替案を用意するための素材を提供。
- ・ 調査項目、比較検討項目の素材情報の提供。

第1段階から第2段階にはいるまでの間

- ・ 参加者の意見を踏まえ、再度国土交通省の方で、2段階目に必要なデータを揃える。

第2段階 本格的な議論

所長の挨拶

3回に及ぶ丹生ダム対話討論会での熱心な議論並びに貴重な御意見をありがとうございました。

河川管理者として対話討論会でみなさんに議論していただいた内容を十分に踏まえ、すでに一部実施している調査検討に見落としがないかもう一度よく精査したうえで、調査検討を進めていきます。

まずは、今後1、2ヶ月を目途に調査検討項目の再整理を行い、それが今回の対話討論会の内容が反映されているかどうかを皆様に確認していただく会を催したいと思っています。その際には、是非、皆様方のご参加をお願いしたいと思います。

なお、今後の予定として、調査検討を進め、河川管理者としてダム計画の方針案を今後確定していく予定ですが、データ等が整理でき調査検討がある程度進んだ段階で次の対話討論会を行っていきたいと考えています。次の段階の討論会では、治水面、環境面でのダムの代替案との比較も含めて議論をお願いしたいと思います。

その節はまた皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願いします。3回に渡る熱心な討論本当にありがとうございました。



国土交通省琵琶湖河川事務所 児玉所長

久先生 総括

まだまだ結論に向かっては遠い道のりですが、少なくともそれぞれの皆さん方のお立場あるいは思いがどのあたりにあるかということをお互いに認識し合えたと思います。今までもいろんな意見交換の場でそれぞれのお話はお聞きになっていたかもしれませんが、膝をつき合わせて対話という形でお互いに話し合いができたというのは、今回が初めてだったのではないかと思います。そういう意味では、この対話がやっとスタートラインに着いたということで、今回の第1段階の対話討論会の成果であると思っています。まだまだこれから道のりは遠いですが、第2段階ではまた、ご協力をお願いしたいと思います。第2段階でもっと時間をかけて、回数も重ねて議論をしていきたいと思っています。今回、私も全体の進行役としてお引き受けする時に、ある意味で大変だなと思ったことがございます。何故大変かと言うかは、本当はこれは計画を始める段階に30年前にやるべき話し合いであったはずですが、それを今、やっているところの難しさというものがあるということをお自身も感じます。皆様方のご協力も頂きまして、シンシに議論が進んだことは皆様方にも感謝したいと思います。シンシというのは二つの意味で、一つは真面目にと言う真摯ですが、もう一つはジェントルマンの紳士ですね。非常に紳士的な態度で皆さん議論をしていただいたということは感謝を申し上げたいと思います。

という方向で方法でやろうかということでも事務局と一緒に悩みました。

どういう結論になるかわかりませんが、そのあたりのことも踏まえて、これからも考えていかなければいけないという、こういう丹生ダム独自の状況がございますので、このあたりでまた第2段階では議論を重ねて参りたいと思います。

再度2回目の討論会に入っていきたいと思っていますので、またその時は、お参加をいただきたいと思います。最後に、第2段階目でもですね、できるだけ聞くだけという方よりも、実際に自分も議論に参加をしたいという方が増えてくることを望んでおります。できるだけたくさんの方のお考え、あるいは評価を聞きたいというように思っておりますので、今傍聴におられる方々も、第2段階の時は是非とも手を挙げて戴いて、対話の輪の中で一緒に議論に加わって頂くことを、お願いをしたいと思います。とりあえずまとめではなくて、これまでの位置づけ、今後の話をさせて頂きました。

討論参加者

グループ1



河合亮二さん



鳥塚五十三さん



轟保幸さん



三國昌弘さん



中川泰三さん



谷口浩志さん



野村東洋夫さん



岸上広さん



石山一光さん



GF 横山葵さん



討論の様子



討論の様子

(GFはグループファシリテーターの略)

グループ2



寺村京子さん



鳩代利博さん



千代延明憲さん



児玉博之さん



鈴木秀利さん



丹生善喜さん



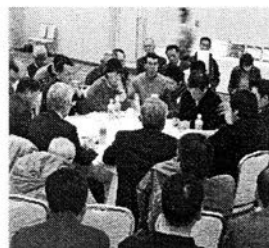
南部厚志さん



浅見勝也さん



GF森川稔さん



討論の様子



討論の様子

グループ3



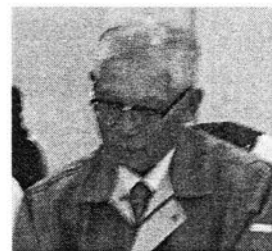
近藤斉伸さん



立見安弘さん



川地勲さん



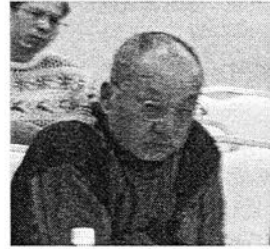
澤村繁さん



西尾新治さん



井口賢一さん



泉良之さん



澤村宗一郎さん



小梶猛さん



GF中村伸之さん



討論の様子



討論の様子

第3回 全体報告

報告者 : 野村東洋夫 サブ報告者 : 鳥塚五十三

◎水源地域の問題

- ・ダム中止の場合、水没予定地の計画、検討すべきである。
- ・ダム建設の話は下流圏の利水の要望が強かったから起きた問題であり、その約束はどうなっているのか知りたい。
- ・ダムの自然公園化について、渇水時にダムはきれいなものではない。ダムが大きさを考えると裸地が大きな面積をしめることが予想される。CGなどで景観を目に見えるように。

◎治水

- ・ダムをつくらない場合、どういう代替案があり、その効果を比較検討してほしい。合流点までの上流からショートカットも代替案として検討してほしい。
- ・異常気象などを考慮すると30年では短い。100年先までを見ずえた検討してほしい。

◎利水

- ・農業用水、全体を見ると必ずしも適正ではない。余っている場所足りないところがある。用排水を分離するべきである。農業従事者の減少によってきめ細かな管理ができていない。

- ・国交省は農林省と合同でこの問題にとりくむべきである。
- ・京都の利水調査をしてほしい。

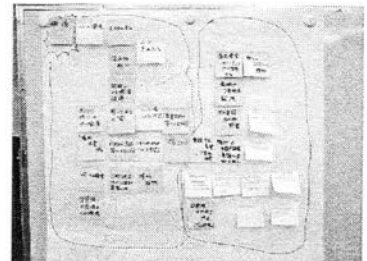
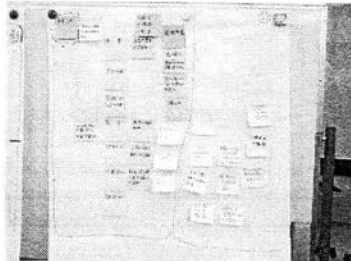
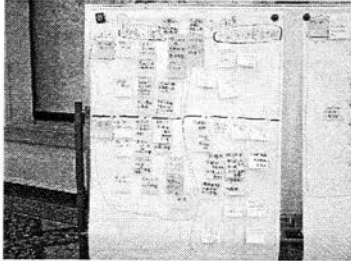
◎環境

- ・高時川のにごり。堆砂が進んでいるので、これらの調査をする必要がある。
- ・琵琶湖の環境改善は丹生ダムの1つの目的である。
- ・丹生ダムをつくらなくともなるのか。シミュレーションをしてほしい。

補足

- ・丹生ダムについてという建前上、原案での議論が出されていないこれは問題点はないのかという事になり、次は原案を勉強し検討していく。
- ・利水と環境を同時に深めないといけない問題が多い。
- ・高時川と琵琶湖をどうするのかという事も考慮し、生態等についても話し合う。

シート写真



討論中に出た意見

- ・第21回委員会資料を勉強し、調査検討項目にもれがないかどうか第4回までに考えておく。
- ・お互い認識しあう必要がある。
- ・地域の人の河川改修とダムの必要の認識を共有する必要がある。
- ・高時川の上流はそのまま、逆に下流は都市化を進めすぎた。
- ・上流と下流の約束があり、下流が水利権をほしいということが始まっている。
- ・下流圏と滋賀の信頼関係が大事。
- ・歴史の中で建設省が、地元ダムを頼んだ事が始まりである。
- ・下流のために、移転した人の心のケアをどうするのか。
- ・もし中止になった時の水没予定地を考える必要がある。
- ・ダムが作られるとした時にダム完成までの間も整備する必要がある。
- ・下流圏としては見直す事に責任を感じる。
- ・地域整備とダムを見直すことは切り離して考えるべき。
- ・中止になった場合でも整備について考えるべき。
- ・水没地域は納得するだけのケアはされている。
- ・水没地域は開発が決まったとき、30%の保証をもらった。業者は生活を追われてしまっている。
- ・移転した人々は納得したというよりも苦渋の選択をしたということを知って欲しい。
- ・既存のダムを見たがきれいではない。丹生ダムは治水容量がある。環境改善容量がある。全部出したら80m水位がさがり。裸地がでて、殺風景な光景が発生する。それが冬場まで続く可能性がある。景観についてCGなどで景観検討をする必要がある。
- ・治水、利水の枠内で考えず、人間の生活を豊かにするもの考えるべきでは。
- ・下流にも何年かに1回渇水、洪水はありえる。
- ・自然の脅威は大きい。我々は先人の知恵になるべきである。
- ・洪水には、様々なパターンがある。
- ・洪水は、7月～9月におこることが多い為、この時期の水田には、ダメージが強く、収穫に大きな影響を及ぼす。
- ・代替案としては河川改修、引堤、河床掘削などが考えられる。
- ・代替案としての遊水池は平野部では考えられない。
- ・水田利用は個人のものであるから遊水池としての利用はむずかしい。
- ・森林保全は治水には対応できない。
- ・ダムの容量にもよるが、異常気象に向けてダムだけに治水を頼ることは危ないのではないのか。
- ・治水はダムだけではなく河川改修もある。
- ・代替案としてダムだけではなく、溜池をつくる事も考えられる。
- ・水環境にはハード、ソフトの問題点がある。
- ・ダムは建設を反対したとしたら、災害が起きた場合の責任はもてない。
- ・1つだけに頼るのではなく、いろいろな方法に分散すべきである。
- ・いろいろな事を検討してから答えは出すべきである。
- ・治水について。丹生ダムをつくらなかった結果、代替案でいけるのか検討してほしい。
- ・堤防について、破堤するところとしないところを調査する必要がある。
- ・農業用水などの河川をつかって琵琶湖にショートカットできないかを検討してほしい。
- ・地下水路を何百kmもつくったのだからそれらを作ることができないか。
- ・水利権はふえてはいない。絶対量が減っている。
- ・高時川は瀬切れと洪水の繰り返しである。
- ・水利権と治山をほったらかした結果である。
- ・利水について、京都府はどうかを調べてほしい。
- ・琵琶湖の水位が低下している。琵琶湖のコイ科の産卵に影響。
- ・維持流量が必要である。
- ・異常気象などを考慮すると、30年ではなく100年は見て検討してもらいたい。
- ・農業用水がもたない使用法をしているのではないのか。
- ・上から下の田にまわしていないのではないのか。
- ・省庁がかわると水でも見方がかわってくるのでは困る。
- ・上から下に田んぼの水をまわしているので、田植えの時などは下の田に水が来ない所もある。
- ・農業排水が余っていて、その水を戻すことで濁水となる。
- ・農業政策に問題がありすぎる。
- ・林地保全。
- ・泥がそのままの工事は滋賀県も余呉町もまったをかけるべき。
- ・農業は大型化して水まで管理できない。
- ・ハルブがない田んぼでは、水のムダが発生する。
- ・環境の方がウエイトが高い。
- ・河床が高くなっている。5%±10%砂実際は20～30土。場所によって違う。
- ・砂利採集が必要である。
- ・下は砂がたまる。
- ・高時川上流の堆砂の原因調査。
- ・台風があるとマイナス水位でドーンと水がくると砂をもってくる。
- ・堆砂がたまると堤防を上げる。その繰り返しがこの環境を作ってきている。
- ・冬の北風の影響も知る必要がある。

第2グループ

【 討論参加者 】

・丹生善喜・浅見勝也・寺村京子・コ玉博之・千代延明憲
・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博 (敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第3回完成 シート

H8移転
地域の苦しみ
転居の苦しみを
考えるべきだ

・経緯の
再確認
明らかに
すべき

・地域振興策と
して、地元は
ダムを活用
したい
↑

・上下流の連携
ができないか

・ダムを生かした
観光は可能な
のか？
・事例を知りたい
・インフラ整備
(道路)は若者の流出
を促進させる

異常気象

治水
～流域の生活を守る～

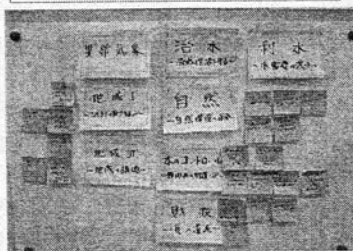
地域Ⅰ
～これまでの取り組み～

自然
～自然環境の保全～

地域Ⅱ
～地域の振興～

水のコントロール
～瀬切れの問題など～

シート写真



財政
～負の遺産～

第3回 全体報告

報告者：鳩代利博

5つのテーマについて議論をした。

「地域Ⅰ～これまでの取り組み～」

「地域Ⅱ～地域振興～」

- ・地元の大きな犠牲の上に成り立っていることを理解する必要がある。
- ・地元の人にも分かっているということもある。

「自然」

- ・自然とはどのような自然なのか。自然の定義は？
- ・ダム建設による自然環境への功罪を明らかにする。
- ・民間の乱開発が防げるということもある。

「水のコントロール～瀬切れ～」

- ・瀬切れの原因と影響(特に生態系)を明確にしていく。
- ・原因は、雨・雪の量の減少、地下水の低下、農業用水としてとられる、などが考えられる。

「財政」

- ・逼迫している。
- ・予算を圧縮する代替案の検討が必要である。
- ・費用対効果を考える。

討論中に出た意見

- ・安全性についての議論は特におこなってきた。
- ・水没地域の方々が平成8年には移転された。生まれ育った地域を離れた人は大変な苦しみを感している。
- ・ダム建設によって土地を離れた人たちの心情を理解しよう。
- ・利水は今の状況では必要ない。
- ・移転者の中の年寄りは大変である。
- ・今まで取り組みをしてきたことを皆が認識すべきだ。
- ・現在は財政や景気など時代は変わってきている。
- ・現状を正確に把握すべきではないか？
- ・過去までの取り組みは、将来のために必要だ。
- ・土地はすでに買収されている。(ダム建設のために)
- ・ほったらかしになる土地は、今後の取り組みで考えていくべきではないか？
- ・ダム周辺の住民の協力が今までの取り組みにはあった。
- ・人口はどんどん減っている。
- ・高齢化が進む。
- ・地域振興を考えて、今までの取り組みがあった。
- ・ダムを作って、補助金をもらおうという考えがおかしいのではないか？
- ・取り組みの経緯を明らかにしていくべきだ。
- ・ダム建設で水特法によって、福祉の向上がはかられる。
- ・36くらいの事業がおこなわれてきた。主にインフラ整備。

利 水 ～水需要の減少～

自然への功罪
を明らかにすべ
きである

ダム議論が
地元の自然を
見直すきっかけ
になる

どのような
“自然”を考えて
いるのか？

・民間の乱開発
を防げるのでは
ないか

ダムによる人工
的自然
いかなるもの
か？

瀬切れ現象を
明らかにする
べき
・原因と影響(特に
生態系)は？

琵琶湖水位低下
↓
南郷堰で
コントロール

農業用水のとり
すぎ？

・たりない地区もある
・余呉湖から補給

・財政がひっ迫し
ているので、建設
している場合では
ない
代替案を検討すべき

・地下水位の低下
↑
せ切れの最大原因
農業用水のコント
ロールが必要

・建設費を圧縮
すべき

瀬切れの原因
・降雪、降雨量がへった
・河川の生態系の変化

・費用対効果で
大きな効果
高時川流域
の安全

瀬切れ対策
↓
川に水を流す
↓
補給が必要→ダム

“負の遺産”で
はなく
“宝の遺産”

- ・過疎化地域において、ダム建設は観光資源になる。
- ・先行工事で道路建設がすすんでいる。ダムが建設されようがされまいが関係ないのでは？
- ・観光としてダムを使うのがよくわからない。琵琶湖もあるのに、観光として成立するのか？
- ・人口がどんどん減っている。
- ・地域は過疎化を防ぎたいという思いがある。
- ・過疎地域になにか拠点をつくるなければ。
- ・自然を楽しむ、釣りを楽しむなどソフト面での方策を考えている。
- ・成功事例をふまえないといけない。
- ・道路ができれば、過疎地域から若者が流出してしまう。
- ・インフラができればできるほど、過疎化は進行する。
- ・大企業を誘致でもしなければ無理ではないか。
- ・観光のためにダムを作るわけではない。
- ・部外者が議論するのはナンセンス。
- ・皆の認識が必要。
- ・余呉町だけで「観光」など考えていくべきではない。
- ・下流とどのようなやりとりができるのかを考えていくべきだ。
- ・明らかにすべきことは、上流と下流でうまく取り組めることはないだろうか。
- ・水特法にもとづく事業が展開されたことは明らかにすべきだ。余呉町はダム建設に伴う将来ビジョンがあった。
- ・成功事例は参考資料として必要ではないか。
- ・ダムがあるから、地域振興をするという考えがおかしい。
- ・地域自身が努力すべきだ。

自然環境

- ・ダム建設の議論が、破壊だけでなく、維持していくことを考えるきっかけになる。
- ・ダムは琵琶湖の水位低下を抑制する。
- ・水は自然に流れるべきだ。
- ・植生はきれいな水によって育まれる。

- ・すべては利点、欠点である。バランスを考えていくべきだ。
- ・土砂のどのくらいの量を下流に流れるようになっているのかは不明である。
- ・ダム建設に民間企業が入ってきている。民間の営利目的のために活動している。
- ・個人の山が民間の手に渡らないよう補償金等使って守っていくべきだ。
- ・自然は人との関わりでできる。
- ・自然にはすでに人の手が加えられている。
- ・自然に対しての利点と欠点をより明確にして示されるべきだ。
- ・ダムに頼らない取り組みを行うべきだ。
- ・今まで補助金を出してやせた山に手入れをしてきたが、山は荒れている。
- ・自然との共生をもっと考えていくべきだ。
- ・ダムがつくられた後の新たな環境を考えていくのも大切だ。
- ・動物に対しての環境を考えるべき。データがないから議論できない。

水のコントロール

- ・堰のコントロールを考えていくべきだ。
- ・瀬切れは何が原因で起こったのか？
- ・丹生ダムは水のコントロールの観点で不要だ。
- ・瀬切れは部分的に連続的に起こっている。
- ・S60年代はじめ頃におこってきた。
- ・降水量、降雨量の減少。
- ・瀬切れによって、川の生態系が破壊されている。
- ・琵琶湖の水位低下も生態系を破壊している。
- ・自然現象にまかせては瀬切れは解決できない。人工的な取り組みが必要。
- ・川には瀬切れをおこさないために水量が必要だから、丹生ダムが必要。
- ・農業用水をとりすぎではないかという点については、実際農業用水は足りていない。琵琶湖から水を引き上げている。
- ・地下水の低下が瀬切れを引き起こしている。
- ・高時川は天井川だから、水が地下に流れていく。
- ・農業用水の量はどのくらいかを明確にしてほしい。
- ・発生した時の影響をはっきりしてほしい。

財政

- ・現状は最低限の取り組みしかできない。
- ・今までやってきたからといって、やってしまうのは問題。
- ・予算を圧縮できるのでは？
- ・ほんとに負の遺産なのか？
- ・ダムはどんどん劣化していく。
- ・昔のような成長をしている現状ではない。
- ・琵琶湖計画当初に丹生ダムはあった。
- ・丹生ダムは洪水対策(治水)が第一であった。その後下流域の需要で、利水の観点が加えられた。
- ・金の問題ではない。地域住民の意志を尊重すべきだ。
- ・費用対効果は見込める。
- ・ダムによって、どうして洪水がおこらなくなるのか？
- ・堤防の決壊の方があふれるより被害が甚大。

議論を終えて

- ・ダムには反対。
- ・財政の点で反対。
- ・いろんな視点がダム建設には必要。
- ・堤防強化をしていこう。
- ・指標となるデータがほしい。
- ・楽しい議論ができた。そして、その大切を感じられた。
- ・ダムに頼らない町づくりをしていきたいと思う。
- ・住民の生活を守っていく大切さを実感した。
- ・もっと関心を集める必要性。
- ・丹生ダムは過去、現在、未来において正しいと思う。
- ・現在の問題は、ダム建設で解決できるだろう。

第3グループ

【 討論参加者 】

・澤村宗一郎・近藤齊伸・西尾新治・泉良之
・澤村繁・川地勲・井口賢一・立見安弘・小梶猛

グループファシリテーター： 中村伸之(ランドデザイン)

第3回完成 シート

テーマ1
「治水・利水」

総合的な治水 → バランスはどこにあるか

キーワード

ダム計画条件 の再チェック (治水・利水)	河床林の 伐採も必要	地域が必要と するダムとは 治水と利水の 再チェック	河床林が水の 流れを悪く する(県の管理)	ダム計画条件 の基本データ の再チェック
荒れた山を 何とかする (治山)	自然の山ならば 荒れない	ダムと河川 整備のバラ ンス	洪水の危惧 びわ町	計画高水流量 農業や農業用 水のデータは 本当か？
ハザード マップつくる	1月11日の 発表(毎日新聞) 治水ダム ならばOKか チェックする		山崩れ	洪水の不安

	洪水のピーク が早くなる よくにごる	二次林 原生林が 荒れてない山	台風10号 350mm 217mm 下流は危険 350mmでもOK	渇水
びわ湖の水位 漁業関係者	ピークの遅れ 12時間 ↓ 6時間	製紙会社 が撤退	洪水対策の ダム	総合的な治水 ダムー河川 (バランス)
水位調整の シミュレー ション	スキー場開発	植林によって 荒れた	新たな利水 ダムはつくら ない	利水 田んぼの水が なくなる
	無理のない 植林			ソフト面、 洪水ハザード マップを早急 に作成する
	水源の 荒れよう	姉川 夏では泳いだ 農村下水 小石に藻がつく	1/11の発表 治水ダムの 否定ではない	浸水被害を 想定し、避 難計画を立 てる

キーワード

水と生活の
かわり(農業、
防火、遊び)

産業よりも
生活用水と
しての地下水

文化、歴史、
民俗を調査
し残す

びわ町も
地下水

防火用水
の機能

総合的な
生活用水

第3回 全体報告

報告者： 泉良之、立見安弘

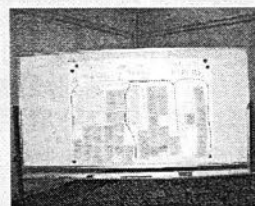
総合的な治水・利水

- 治水・利水。
ダム計画再チェック。
国交省→やらない。
丹生ダムは残せるのでは？
山荒れ→植林に問題。
ブナの植林。(民間が小規模に行う)
・ 河川林の伐採。
集中豪雨→水が一気に増水。
川の本を切ったらダメだけど、流れの問題もある
・ 汚れた水が流れてくる。
スキー場の開発。
ダムの必要性。
・ ハザードマップ作り。

- 水と生活の関わり。
農用水、防災用水に使われている。
高月町→地下水利用。

移転した地域の文化を残すべきである

- コスト負担
今あるダムが有効に使われているのか
検討が必要。



テーマ2

「環境・文化・生活」

土地を放棄している人にもいろいろな立場がある

水の歴史は米づくりだけではなく……地域の水として集落の利活用

水利権
農業用水だけでなく生活の水

農業用水
慣行水利権
水不足

開発による濁水地域用水
農業用水BOD

藻の繁殖
農業用水

家庭ポンプ
家庭の水
高時川の水

堤防の高さの不公平がある

水質のみならず河川の全環境

子どもの遊び

高月町では水源は地下水

企業の地下水利用
水としてのかわり

町の水道は全部地下水

テーマ3

「コスト負担、税金」

今までのダムの評価
利水、治水、環境

他府県の水需要のチェック

一般会計
(多目的ダム)
ユーザー負担

水資源機構

岐阜県徳山ダム

生活の変化
対応できる

地域の中でも議論する機会をつくる。地域がもっと関心をもつべき

流域の人が一体になっていることを示す

文化、歴史を残す

文化、民俗を調査する

2 環境とのバランス。

- ・高時川の上流の荒れようはすごい。
- ・ブナ林すごかった→植林した。
- ・計画的な植林すべきだった。
- ・今見に行くと、雪とかで使いものにならない。
- ・荒れてない山のイメージは原生林。自然林なら山は荒れない。
- ・場所や手入れが適切ならば植林も良いが…
- ・製紙会社(今は撤退)。
- ・住民レベルでブナ林植えた。→規模小
- ・山が荒れると山崩れが起きる。
- ・スキー場の開発は集落としては重要(現金収入)。
- ・砂防ダム作っても効果なし。
- ・ダム放流によってどれだけの効果があるのか(シミュレーション)
- ・琵琶湖の水位調査という話は、一般の人は深刻に受け止められない(漁業関係者のみ)。
- ・森林は生産林だけでなく環境を守る森林。
- ・開発一本やりの政治のツケがきている。
- ・大手企業がやってもふみこまなかった。企業の開発は荒廃を残した？
- ・田中知事の脱ダム→全国へ。
- ・ダムに変わる代替案。
- ・姉川ダムには基準がある。
- ・ダムに頼らない治水(堤防の強化など)。
- ・国でシミュレーションして、データ出すべき。ダムの規模が分かるし、ダム以外でもいけるかもしれない。
- ・高水流量と農業用水の取水量がこれでいいのかを再検討。国交省だけでなく農水省も関わるべき。
- ・開発による濁水(BODの懸念)で田んぼに水がいるピークに藻が発生、富栄養化現象。
- ・膨大な財政負担。
- ・琵琶湖から水をポンプアップするお金が地元負担となる。
- ・地域用水＝農用水。
- ・藻のせいで洗濯もできない。
- ・昔は姉川で泳げた。
- ・農村下水ができて沈殿ができる。
- ・ダムは造る位置によって変わってくる。
- ・流れをよくする→木を切る(河床から生えている)。
- ・河床が上がってきている。
- ・県の管理だ！
- ・ふだん流水がないから河床に木が生えてくる。
- ・洪水ハザードマップの作成。
- ・洪水発生時の人命救助。
- ・避難対策の整備も必要(ソフト面)

3 福祉、地域振興

- ・移転された方のケアをどうするか(町内も町外もある)。
- ・保証もケアも。
- ・気持ちの問題も大事。
- ・いろんな立場の人がいるから(自然のまま残して欲しい人もいる)。
- ・水没予定地については、調査して文化・歴史を残す。(生活文化も)
- ・集落ごとの文化は異なるから調査すべき。
- ・水の差別を受けている人がいる(堤防が部分的に低いなど)堤防の高さの不公平。
- ・山田川→高時川せきとめられる。
- ・安心した状態にすべき。
- ・高月町では地下水が各住宅へ。
- ・濁水期影響が大きい。
- ・高時川は天井川に近い。

討論中に出た意見

1. 総合的な治水とは

- ・11日新聞で、国交省が新ダム×、水需要必要性なし、新計画プランとあったが、関係有るのかないのか？我々の気持ちはどこへ？
- ・水需要必要性なし。
- ・源流から淀川に流れる事情が違う。
河川改修だけでクリアできるという考え方もある。
- ・水質の問題だけでなく、川環境(子供の遊び、ホタルなど)の指標化を考えていくべきではないか。
- ・ダムと河川整備のバランスはどうするのか。
- ・洪水の危機をどうにかしたい。
- ・ダムは必要。
- ・移転までしたのに整備をやめるとはどういうことか？
- ・洪水の不安。
- ・濁水との関係。治水と利水の両面でダムは必要。
- ・コントロールの面で丹生ダムは必要。
- ・田んぼには1日おきにしか水がまわってこない。
- ・高時川の濁水。
- ・ポンプは2、3日でなくなる。
- ・農業用水が必要なときに水不足。
- ・社会は変化したが地域の水をうまく使っているところもある。
- ・農業用水をとりいれたことで、住民は利活用している。
- ・水利権は農業用水のためのみでない。
- ・現在の容量の中で、濁水対策で下流も負担できないのか？
- ・水利権は建前。
- ・丹生ダムは多目的ダムだから、利水・治水・水力発電、総合的に作るべき。

- ・工業の発達とは水と関係している。
- ・高時川の流量が大事。
- ・川に水がきちんと流れている状況が不可欠。
- ・高時川の伏流水が影響。
- ・防火用水的な利用は見逃していけないのではないか？
- ・昔からの防火目的を失ってはいけない。

4 コスト負担、税金

- ・事業費の上積み(岐阜県のダムの場合)
- ・水資源機構が全部金出すのか？結局は税金。
- ・ダムの費用は治山治水特別会計。
- ・ダムの建設はユーザー負担と国民負担。
- ・高月町では議論対象にはならない。
- ・国税と県民税で負担される。
- ・ユーザーも払うべきだが大阪府は拒む。
- ・大きな公共事業をどうにかしてくれ。(国民の見る目は厳しい)
- ・余った水は戻すべき。
- ・今まで作ってきた施設の効果を評価すべき。

本日のグループファシリテート運営への感想

- ・不必要なものは当然いらないが、必要な公共事業もある。
- ・流域の人々と一体となって取り組むべき。
- ・根本的に見直すべき。
- ・住民としては全国で一番だろう。
- ・議論する機会が必要。
- ・社会の要求に関心をもって対応。
- ・生活の中身は変わってきた。
- ・豊かな生活で平和ボケ。見直すべき時期にきている。
- ・グループ別の会場にすべき。
- ・議論の内容が浅い。
- ・論点がバラバラ、対話討論になっていない。
- ・今なぜ対話討論なのか、発言者は解っていない。
- ・国の基準に従って決断すべきである。
- ・グループによって議論のバラツキが大きいがこのあとどうまとめていくのかに大変興味を持っている。
- ・あやまった知識に基づく議論はどうするのか、部分的な事実を誇大に表現した議論はどうするのか。対話集会の価値が問われるのでは…あるいは単に時間の浪費なのか
- ・これまで2回の対話討論会と、基本的には変化がなかった。ファシリテーターが話のピントを絞るため、討論の進め方を提案して始まったが、結果として各自勝手な意見を発表するだけで集約する方向には進まなかった。
- ・ファシリテーターが自分の意見を発言しすぎるのは少し問題があると思いました。(多少はあってよいと思いますが)
- ・今日は第1班の討論を聞かせていただいたが、ファシリテーターの方の進行等(特に議論のかたよらないよう)が良かった。
- ・ファシリテーターと意見委員との準備不足により対話討論に入るまでの過程に時間が取られた。
- ・少人数での運営なので、意見は多数出され、理解もある程度深められたと思うが、傍聴しにくい。
- ・もう少し、仕切をすればスムーズに出来るのではないかと良かった。
- ・対話集会の方法として、1つのよい方法だろうと思う。
- ・討論者の声が、3グループでかき消されていたので工夫が必要。
- ・対話のラウンドテーブルの大きさが発言内容に変化を与えるか？
- ・若者の(純な)意見も取り上げるべき。

- ・第1グループですっと傍聴してたが、言っぱなしではないという風にやっているみたいだが、やはり、話し合いをしているようで「言っぱなし」であるという点が見受けられた。まだまだ意見の偏りが大きい。(特にダム推進派の方々)
- ・天から降り海へ帰る水、第3グループで水は川へ流し海へ帰すべきとの話があった。そのとおりと思う。要するに天気の都合が悪くなくても水のコントロールは必要なのだ。上流一下流、県別等と区別せず丹生川から海へ流れるまで流域一体化して考えなければならない。そのとおりだ。
- ・おおむね良好。
- ・毎回だされている意見が聞き入れられていない。声が小さく聞き取れない。
- ・現状最良の方法と思います。
- ・議論の中でももう少し資料データも提供しても良いのではと思われる。
- ・良かった。
- ・2班に参加したが、うまく運営していた。
- ・中々よくやっている。
- ・論点が多く時間不足と思う。
- ・全3回とも同じグループに傍聴として参加させていたが、第1段階として、とりあえず最終回ということもあり、討論者のうち、ダム推進意見をお持ちの方が「ダムありき」「ダムをやるためには」という発言にかたよってしまい一方に見直し案や、追加調査等々の意見があるのに、耳を貸さないというような最終回答を決めてしまっているような時もあり、残念だった。
- ・地場産業とのかかわり→丹生川は「あゆつり」のメッカである。(最近は大変)
- ・下流の住民としては(びわ町)姉川、高時川の合流している地域に位置しており、姉川ダムは完成しているのに高時川はできない事になると不安(治水)は何も解決していない。
- ・合流している所を一度見ていただきたい。昨年の台風10号でさえ河川敷の畑地は全て湛水し被害が出た。大きな台風が来た時の対策も考えてほしい。
- ・もう少し発言者の発言ポイントを趣旨に沿って発言するよう指導してほしかった。
- ・討論者の声がほとんど聞こえませんでした。隣のグループの女の人の声は大きくはっきりしていたので言葉もよく聞こえました。
- ・グループの中でわけのわからない委員がいる。そんなわけのわからない人を討論会に入れるな、前に進ま無い。
- ・討論の内容が傍聴者にとって聞きづらい難点がある。
- ・最初に「調査項目を列挙する」という目的をはっきり言ったので、1,2回目よりスムーズに進んだが、初回にこの目的をはっきりさせておくべきだっただろう。
- ・討議をしぼりこんでやった方がよい。
- ・各項目とも論点がしぼれなかった。ファシリテーター、討論参加者とも不慣れということが原因。
- ・有意義であったと思う。
- ・時間内にまとめる努力をしていた。
- ・時間にかぎりがあり、少し意見をささげる事もあった。
- ・この問題の専門家でない方が、G.Fとしてよかったのか少し疑問が残った。
- ・時間の制限に苦労されていた。

- ・テーマを絞り、導いたことは進行上、話題を出し易かった。
- ・よくまとめていただきました。
- ・第1回、第2回と比べ、充実した内容となった。「行政への意見、要望を出す」ことに全員がなんとか集中できたため。



この対話討論会を通じて気づいたこと

- ・地元の主張は固まっていて柔軟性に欠ける。
- ・国交省が地元説得につかった論法を、ここで、繰り返しているように思えた。
- ・流れは良いが、まだ、十分では無い。
- ・出席者のダムに対する基本知識の差がある。
- ・もっと早い段階で、このような住民からの意見を聞く機会をやっておいた方が良かったのでは…？遅すぎた感、いなめない。
- ・データーの不足で論議出来ない。
- ・色々な意見がきけてよかった。
- ・時間的な制限の中で仲々煮つまった意見の交換がむずかかった。
- ・お互いの意見を交換し、お互いに何を考え、感じているのかが理解された。このことは事業を進める上で、誤解を消すのに役立つ。
- ・河川の大切さがよくわかりました。
- ・地元の意見がよくわかった。
- ・もっと深く議論したい。
- ・地元の人達は、地元の事柄については詳しいものの、必ずしも琵琶湖や淀川下流部、他のダム計画、基礎原案の内容などについて詳しくないこと。

この対話討論会の問題点は

- ・1人当りの対話時間が少ない。
- ・ある人にかたよりすぎている。
- ・1～3回の間隔があき過ぎて、議論が収斂しにくいもっと間を詰めてやるべきではないか。
- ・治水、利水。
- ・傍聴者のアンケートにもあったのだが、反対派の出席者がもともと少ない為に、グループのまとめ発言でも、「全体として、ダム賛成者が多かったのでは…」などという発言がされてしまった。構成員の出席をもともと両者半々にするなどして、出席依頼し、工夫を最初からしておくべきであったと思う。

- ・官側のデーターに何が有るのか皆様に伝わっていない。
- ・横道にそれてしまう事が多いのと、端的に要点をかいつまんで話をする必要がある。
- ・参加者がどの程度意見を代表しているか不明である。
- ・いろいろな意見が交換が出来てたいへんよかった。
- ・遅きに失した感がある

意見交換は十分にできたか

- ・グループでやるから、議論が詰まりかけたときに、話が別のところに行くということが多々あり、時間が不足したという以上に、論議の進め方がヘタという面が強い。
- ・まだ十分では無い。
- ・まだまだ足りないのではないのか。
- ・1人当たりにすれば、数回しか発言機会がなかったのですが、自宅で自分の考えをまとめておけば、これ位でもいいのかと感じた。
- ・意見交換準備としては出来た。
- ・あまり十分ではないかと思う。
- ・テーマを絞って討論したのであるが、必ずしも十分な時間ではなかった。しかし、あるレベルでは意見交換ができたし、成果もあったと感じる。
- ・十分にできました。
- ・十分でもない。
- ・不十分。第2段階で掘り下げた議論のできることを期待します。

要望

- ・基本的な知識や認識のベースの資料を出す必要がある。発言者のなかには知識の不足や不勉強（ダムに関する専門的な事でなく、ごく普通の知識）が目立つ人がある。
- ・ピントを絞るための工夫が必要。分科会方式。
- ・第2段階以降は、問題点の抽出でない。川づくりの将来像を皆が共有する場である。したがって、円卓に河川管理者も入るべき。河川管理者と地域社会が将来像を共有し、適切な役割分担のもと援助して川づくりを進める必要がある。
- ・高時川、姉川、琵琶湖は、国ではなく県が管理しているWSに河川管理者(国、機構)が入るならば、県も必ず入るべき。
- ・県が地域社会と将来像を共有する場として取り組まれている「姉川・高時川、川づくり会議」と統合すべきである。同じような取り組みが錯綜すべきでない。地元が混乱するのが心配である。
- ・河川局に十分な資料開示がされているとは思われなかった。
- ・淡海川づくり検討会議の意見まとめを第3回に提示してほしいかった。
- ・本会の到達点がよく見えない。本会は何を目指しているのか。また、進めるのか。この課題について対応されたい。
- ・意見交換は丹生ダムに直接関わるものとそうでないものに分けて後者についてダム建設とからめた議論をすることによって一般的な地域振興問題や水源地(林)保全・治山に拡散することをやめない限り非効率です。

- ・この討論会の経費が税によってまかなわれているのだと思いますが、そのコスト（額）と財源内訳（全額国庫なのか地元負担もあるのか）明らかにして行ってください。
- ・そもそも、第2段階が開催されるという情報はみんな知っているんでしょうか？
- ・第1段階での、意見の合意（3回行って）は、なされていないと思うので、第2段階では合意が生まれることを希望したい。
- ・会議途中で後何分か？とのマイクは討論者や傍聴者にとってじゃまである。紙などに表示して各会へ提示するが見れる所へはるべきだろう。
- ・討論中のまとめ発表はこまる。（傍聴できない）
- ・建設期待の要望事項（瀬切防止、河川改修、しゅんせつ）等を重視して長期的視野ですすめて欲しい。
- ・討論に参加されている人達の認識が部分的な人が見受けられるので、起業者も参加して要所で資料提示説明されてもよいのではないかと思います。
- ・第1段階の結果により、調査・検討項目を再整理し、第2段階へ進むということなので、方向性に期待ができる。ただし、本当の地元、下流住民、水利権者へ、いつ頃どのようにというスケジュールを計画していなければ、せっかくの討論会が薄れてしまう。
- ・ダム代替案（引堤、河道掘削等）を行う場合における環境への影響についても認識を深めておく必要がある。

例1 引堤の場合

淀川本川の例では淀川の人口、資産の集積状況から1/200の安全度で基本高水流量を17,000立方m/sとし、ダムで5,000立方m/s洪水調節して河道配分流量を12,000立方m/s（元は7,000程度の流下能力）とした。もし、ダムの洪水調節がないとすると、500mの引堤を行わなければならない。（経験的に1,000立法m/sあたり100mの河幅）この場合に約37km×500mの間に存在する住宅・工場等を移転するための土地が自然破壊を生むことになる。丹生ダムでも同様である。

- ・国交省がどの程度、議論を進めやすい材料を提供できるかにかかる。
- ・ぜひやって下さい。
- ・こういうグループ討論形式にするなら、小さい部屋3つがよいと思います。1つのフロアで3つのグループでは声が聞こえませんか、隣のグループの人の声が邪魔になります。
- ・流域委員会もそうでしたが、長引きすぎです。仕事でやってる運営者はいいいですが、参加者はたいへんです。住民参加に興味がありましたが、「住民参加＝休日返上」という気がしてきました。進め方については、もっとスピーディーにできるように、ファシリテーターや国交省が介入して欲しい。あと、13時からだと1日つぶれるので午前か夜（夕）にして欲しい。
- ・対話時間をもう少し多くしては。
- ・何を議論するか、最初から明確にしておくべきだ。
- ・実状視察をしては？
- ・第1段階の課題をキチット出席者が共有してから進めることが必要。

- ・ダムに替わる代替案でも、治水がカバーできるのかどうか、（河川改修、遊水池、かすみ堤など）のシミュレーションを示してほしい。
- ・ばく然とした話だけで論議していても、まとまらないように思う。
- ・自然への基礎データーを①降雨量に対する保水容量と時間。②降雨量に対する河川堤防の必要高さ。③緑のダムの効果のモデルデーター。
- ・もっと色々なデータをくわしく出してほしい。
- ・テーマを絞り、グループで集中討論することも必要である。
- ・琵琶湖の深いところの水質はどうなるか？水位講習会において水深40mの水をのんだ事がありました。
- ・更に深い論議を期待する。
- ・ダムの必要性をきっちり認識し、早期完成をめざしてほしい。
- ・是非第2段階の討論会に参加したい。
- ・日曜日の開催を希望します。（土曜日は仕事上、休みではないため）（天ヶ瀬、余野川、大戸川は日曜日開催）

この対話討論会を通じて驚いたこと

- ・みなさんよく勉強されている。
- ・淀川流域委員会でいわれているような代替案など全く頭がない。
- ・実情をもっと知って意見を言うべき。
- ・みんながどうするべきが、まじめに議論していた。
- ・行政関係者を、自分の応援団のように、傍聴者として動員するのは、やめて頂きたい。
- ・水に対する基本知識が不明である。
- ・流域の周辺の人々があまり関心がないのに驚きました。
- ・女性が少ない。
- ・「上流 中流 下流」の思いがちがった事。
- ・この対話討論会の位置付けが、予想以上にしっかりしたものであること。

ご意見・ご感想

- ・今日対話討論されている事項はダム着工前に又工事推進中に反対、賛成で議論がつくされている。
- ・今なぜ此の様な場があるのか、それは国の財政問題以外にないと思はれる。国は中止したいのでしょう中止に軟着陸するための手法として此の様な手続きをするのであれば、時間浪費の無駄である。
- ・対話、討論されている項目は当局が既に理解している事ばかりであると思います。可、否の決断を早急にすべきと思う。
- ・今回始まった対話討論会としてはこんなものかと思う。ただ対話討論会のやり方に新しい工夫が必要なのではないか。ポストイットカードで整理する方法はこの様なダム問題などではなじまない方法ではないか。従来からのポストイットカードを使った合意形成の方法ではなく、会議の進め方に新たな形が必要ではないか。
- ・今回発言された内容は一部の住民を代表する声ではあるが、具体性にとぼしく信頼できる根拠もない意見が大半であった。

- ・地元の利益代表のエゴとも言える話もあった。
- ・淀川下流部の渇水安全度は、琵琶湖からの洪水を一時的に瀬田川洗堰でストップさせていることで高まっていることを、皆さんに知ってもらいたい。
- ・洪水の心配があまりない人が、洪水に対して軽いタッチで発言されているように感じました。
- ・世論を聞くことは重要ですが、世論がまちがっている場合もある。
- ・討論者の私見が多く、勉強不足である（発言が幼稚）。
- ・高時川水域の実情が把握されていない（可能性のない提案）。
- ・議論の途中でも、現状や経緯を河川管理者はきちんと説明すべき。でないと実効性のある結論にたどりつかない可能性があると思います。
- ・少なくとも私は途中で何度も言いたいことがあった。思いも語りたかった。
- ・このような討論会に参加したのは初めてですが、このように、様々な立場の人が意見を述べる機会は少ないと思います。大変意味のある事だと思いました。
ダム建設にあたり事業目的が参加者にどれだけ理解されているか疑問がある。水位確保の為という事業と解釈とすればダムありきを問題とされるが、丹生ダムは流域の人と大阪、京都の下流方々に滋賀の流域活動をしている団体の問題として取り組むべきである。
- ・本会の到達点がよく見えない。本会は何を目指しているのか。また、進めるのか。
- ・水資源機構についてその採算はどうなっているのか。という質問についても「知っている人いませんか」となると、議論者の間でききあわなければならないのか。そこに機構の支社長が座っているのに。このしくみでは発言できないのは、もっともである。制度に大いに問題がある。
- ・参加者の発言がわかりにくい。これを他人に理解させるコーディネータが必要。コーディネータが自分の理解能力をもって理解してはいけない。
- ・地域の振興の問題や水資源（山林）の保全の問題の中には丹生ダムに関わりなく考えられるべきものがあるはずであるが、混然一体となった議論が行われている印象。良かった。
- ・対話討論会に参加して、重大な課題が集まっていると思います。これが地域住民の声として集約していき、ダムの必要性について、ダム建設の即時着工を希望します。
- ・ダムと治水、利水、環境の一体で解決策。
- ・今ダムの建設によって、50年100年前の河川、琵琶湖に回復できると思う（自然、利水治水環境）。
- ・5年の工事期間でも解決できると思います。そして、これからは森林育成に力を投入し自然を守っていくことができ一石二鳥で問題解決できると考える。
- ・余呉町丹生地区では、丹生川よりpomp upし田の水を利用している。昔はなかったが新たに田を作る事となった時点で水利権は下流にあると水の利用が認められなかったのである。現時点では、どうなっているのか？ダムは作らない水はいらないという下流域の人たち、又琵琶湖もダムの一つではないかと私は考えます。



- ・農業の考え方がH16年の法律で変わり田を作らない人が増加している田はこれもダムの一つ（頂水の一つとある新聞で読んだ事がある）減すれば水の量が減少するのは必至である。積雪による針葉樹の折そんで木の管理はおれば価値がなくなりほったらかしになってしまう。今後はどうするのか？山は荒れ保水力はおちる一方だ。広葉樹は管理が少なく保水力が強い。どちらにしても水は流れるのでありこれをコントロールする方式が必要なのだ。だれがコントロールするか。討論されていない。
- ・利水者の方の意見は、現状の水余り財政だけで議論されているが、過去の歴史、現状も社会状況、自然破壊がこくこく変化している中で計画と事業遂行されている認識が不足しているのではないか。財政を言うのであれば自分たちの安全性また主張している環境対策、文化財調査、保存も事業の中で取り組まれていることを認識すべきである。
- ・代替案も提案されているが、代替案は断片的なものであり、その事業に要する期間・費用また波及する被害、損失が考えられていない。
- ・今後調査、検討してほしい意見に対して、不可能であるとか既に調査済という反論がよく出た。一般の人は、省庁間の壁や技術的な問題について詳しく知らないのだから、そういった意見に対しても、今後、丁寧な解説、説明をしてほしい。
- ・参加した全員が第1段階とはいえ、全3回でどのような結果（意見質疑等）を出すのかという心づもりだったと思うので「推進or見直しの最終結論を！」というようになってしまったところもあると思う。とは言え、数多くの考えが出され、再認識できるととても大切な場だった。今後は全国的に省庁間や政治の形にはまらない本当に必要な姿を見出していけるようになればと思う。
- ・検討して欲しいと出た項目1つ1つについての答えを出して欲しい。
- ・丹生ダムに対する地元関係者の要望の強いことが判りました。
- ・多数問題があり、話が収束しないと先が見えてこない。
- ・いろんな意見がでているからやり方としては面白い。

- ・ダム建設にはいろんな意見があるが下流ダム反対の意見の方で全く現地の地理等を知らない方が多すぎる。すなわち、現況の水利、水路の改修でダム建設をしなくても良いと言う方は現地の地形の高低、等を知らずに記している事に憤慨する。反対意見を出すのなら一度現地に行って現況を知れ。
- ・横できている国交省の人は、議論のあい間でたすけ舟を出してほしい。例えば、基礎原案でのダムの位置付け(効果、ダムの功罪をどうみるか)などを教えてほしい。
- ・計画当初から最近まではダム建設地(余呉町)対、国の構図で対立し、流域は部外者の感じてあった。
- ・脱ダム以降流域は一体化して、18,000人余りの署名が集まる程に建設推進に向け盛り上がっている。
- ・地域に約束された国の事業であり守ってもらいたい。
- ・全3回の討論会の傍聴してきた者ですが上流と下流の双方の交わりがあり相互の意見の理解がいかに大切であることを痛感しました。
- ・水はただ流れるものではない山を守って水が確保できるのです。この事を下流の人達も充分に認識してほしいです。都会の人がやってきて山菜とりだといって根こそぎ取って行きます。地元の者はこんな乱暴なことはしません。またゴミをもってきて捨てていきます。口先ばかり環境をうたっているがまったく反対の行動をしているのです。しっかりと国民としての心得をしてほしい。
- ・おもしろかった。
- ・各グループの発表は各グループのファシリテーターがすべきである。
- ・他のグループの声が聞こえてきて聞きづらかった。



今後の予定（対話討論会開催日）

第4回 2004年4月4日（日）

※グループ内討論参加者名は、申し込み順で記載されています。御了承のほどよろしくお願いします。

お問い合わせ先 〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-5-1
琵琶湖河川事務所 調査課内「丹生ダム対話討論会」係

TEL.077-546-0844（代表）

- ・全3回の対話討論だけでは、論点が多く意見項目の集約は不十分と思われる。もう少し続けた方が良いのではないか。
- ・相互理解は難しいようだが、双方の持つ意見が客観的に見えてきました。そうすることで対立する意見の中の順位のようなものが感じられました。一番たいせつなのは治水だと思います。
- ・住民参加の新しい形として、興味深く参加しましたが、意見がまとまるわけがないと思ってました。しかし、対立意見が同じ場で整理できたことで、行政が取捨選択しやすくなったと思います。「住民が決断する」ということは、住民参加の幻だと思うので、やはり、国交省に、しっかりと決めさせるべきだと思います。
- ・参加者のみなさんご苦労さまでした。
- ・計画決定された物件は10年ぐらいで完成さすこと。30年以上も過ぎてから経済的な理由で素人に色々と話を聞いても時間ロス(これもお金のもち)そこそこ聞いたら学者が決めればと思う。
- ・討議者は、現地上流を調べてから討論した方が良くと思う。
- ・同じ問題定義のくり返し、ダムの是非論になりがちで本質が充分討論出来ていない様に思う。

「対話討論会」の運営に関してのご意見・ご感想

- ・国交省の担当者も、グループに入って、国としての考えも入れながら、話を進めた方が良かったのではないかな。(最近の国の方針をしゃべってほしい)
- ・再度時間が必要。
- ・色々なことが関連しているので、ジャンルを分けるとなかなかうまく意見がかみ合わない。
- ・いろんな人々があつまってよかったと思います。

丹生ダムかわら版 4

第4号 発行/「丹生ダム対話討論会」

ホームページアドレス

<http://www.biwako.ws/seibi/>

平成16年 4月 4日(日)、第4回「丹生ダム対話討論会」が開催されました。

(丹生ダム対話討論会の流れ)

☆ 第1段階：丹生ダムについての調査検討項目案作成のための討論

・ 第1回～第3回：討論参加者による丹生ダムについての討論

・ 第4回(今回)：河川管理者からの調査検討項目案に対しての討論

☆ 第2段階(予定)：丹生ダムについての調査検討結果をふまえた討論

久先生のあいさつ

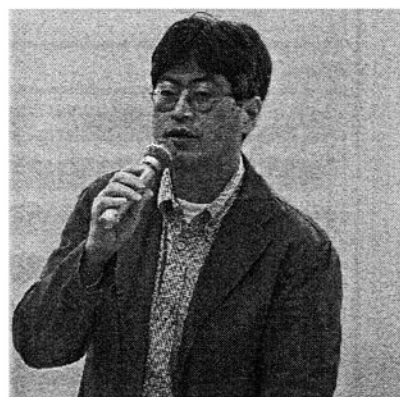
第4回討論会では、第1段階のとりまとめとして、皆さんの3回の討論を踏まえ、第2段階の為に河川管理者が用意した調査検討項目について討論を行いました。

今後、皆さんや様々な方々にご意見をいただき、第2段階では、ダムの必要性について考えていきたいと思います。

今回の対話討論会だけでダムの是非を最終決定するわけではありません。他の流域委員会、皆さん以外の流域にお住まいの方、流域の都道府県の河川管理者、利水、治水の関係者など様々な方の意見を聞き、総合的に判断して、河川管理者が最終的にダムの是非を決定します。

討論に参加している方の中には、団体の代表や役員の方もいますが、この対話討論会では、代表の意見として意見を頂いているわけではありません。

傍聴者の方も次回はぜひ討論側に加わっていただきたいと思います。



ファシリテーター久先生

新所長のあいさつ

新しく、琵琶湖河川事務所の所長に就任いたしました河村です。熱心に討論していただきありがとうございます。

今回の討論会では、皆様方より、調査項目に関する多くのご提案をいただきました。その中には、すでにある程度調査が進んでいるものから、調査検討のために、多少お時間をいただきたいものもあります。今後の予定としては、あまり暑くならない夏頃を目標として、一度、皆様にデータや成果をお知らせしていきたいと考えています。その後、さらに調査検討が進みましたら、節目、節目で皆様に報告していきたいと考えています。

第2段階の討論会にも是非、討論者、傍聴者として参加していただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。



河村所長

前所長のあいさつ

琵琶湖河川事務所 前所長の児玉です。琵琶湖河川事務所からこの度の異動で、琵琶湖河川事務所を離れる事になりましたが、引き続き、丹生ダム・淀川水系に携っていきたいと考えています。

これからもよろしくお願い致します。



児玉前所長

第1回～第3回の対話討論会における意見

治水 に関して

調査検討に関連する意見等

グループ1

ダムをつくらない場合。どういう代替案があり、その効果を比較検討してほしい。合流点までの上流からショートカットも代替案として検討してほしい。

代替案として、①河川改修②遊水池③霞堤④溜池、水田活用⑤緑のダム(森林) もあるのではないかな。

1つだけに頼るのではなく、いろいろな方法に洪水リスクを分散すべきである。

ダムの容量にもよるが、異常気象に向けてダムだけに治水を頼ることは危ないのではないかな。

ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。

高時川、姉川など、砂利がつみあがった状態の堤防は危険である。堤防について、破堤するところとしないところを調査する必要がある。

グループ2

ダム、堤防、浚渫など、それぞれの治水効果と地域への影響を明確にする必要がある。

堤防工事が進んでいないのはなぜか？地元は堤防強化を求めているのに、なかなか国は実現してくれない。

治水は、破堤をくいとめるための堤防強化面で転用がきくのではないかな。

霞堤については十分調査検討したのか。

河道掘削による方法の効果は。

グループ3

水害を容認する論理はどこにも存在しない。その治水対策としての具体的なものはダム以外にないのか。代替案があれば具体的な手法を検討してほしい

総合的な治水という観点から、バランスはどこにあるかを考える必要がある。

治水・防災対策において、河川改修とダムの組み合わせで整備してほしい

ダム計画条件の基本条件の再チェックが必要。(計画高水流量など)

河床林が水の流れを悪くする(県の管理)。河床林の伐採も必要。

ソフト面の対策として、洪水ハザードマップの作成、避難対策の整備も必要。

高時川の堤防構造(地質)を調査して、本当に治水効果があるのか調査してもらいたい。

ダムに頼らない治水対策をこれ迄どのように講じてきたか？

姉川ダムの効果をもっと報道してほしい。いつも被害があった時だけである。どれだけ被害を間逃れたのか。

高時川・瀬切れ・農業用水 に関して

調査検討に関連する意見等

グループ1

環境水(河川維持用水、水量の確保、雑用水の確保、魚の遡上に必要な水の確保)の確保。

高時川にいつも水のある状態を作るには、どうするのか。

河川の流量が絶対的に減少している。理由は何か。厳密なデータ収集が必要

瀬切れ解消流量は3m³でよいかな

ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
農業用水、全体を見ると必ずしも適正ではない。余っている場所、足りないところがある。用排分離をするべきである。農業従事者の減少によってきめ細かな管理ができていない。
国交省は農林省と合同でこの問題にとりくむべきである
瀬切れ対策として、1)余呉湖補濁水第3期の検討、2)地下水、伏流水の検討。
高時川は扇状地であるので表流水が地下水に変わる量が多い。これの利用はないのか。
川が汚れている（濁水）原因が知りたい
高時川のにごり。堆砂が進んでいるので、これらの調査をする必要がある。
河床変動のデータと原因と対策
グループ2
瀬切れの原因と影響(特に生態系)を明確にしていく。
原因は、雨・雪の量の減少、地下水の低下、農業用水としてとられる、などが考えられる。
発生した時の影響をはっきりしてほしい。
農業用水の量はどのくらいかを明確にしてほしい。
農業用水を転用することによって瀬切れは、解消されるのではないか。
余呉湖からの補給により、瀬切れは解消されるのでは。
グループ3
川にはいつも水が流れているという状態をつくらなければならない。
瀬切れ防止は重要である。魚だけでなく動植物に対しても必要であろう。
瀬切れ対策として余呉湖から補給する。
水質のみならず河川の全環境
農業用水とのバランスに不都合はないのか。高水流量と農業用水の取水量がこれでいいのかを再検討。
国交省だけでなく農水省も関わるべき。
水の歴史は米づくりだけではなく……地域の水として集落の利活用。総合的な生活用水。防火用水的な利用は見逃していけないのではないか？
どういうメカニズムで湧水が発生しているのか調査してほしい。（天井川周辺地域）
土砂のどのくらいの量が下流を流れるようになったかは不明である。

自然環境（全般） に関して
調査検討に関連する意見等
グループ1
自然のいとなみは複雑であるため、自然をコントロールするのではなく共存していくにはどうするかを考えるべき。
河川管理者が水環境とはどういうものか見直し、その後投資を行うべきであり、水量の問題よりも水質の問題が重要。
琵琶湖の水位操作によって環境など障害が出ている面を考える。
琵琶湖に流入する川の流量を確保すると琵琶湖や琵琶湖から出て行く川に影響があり、このバランスをとることが重要である。

ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
丹生ダムをつくとどうなるのか。シミュレーションをしてほしい。
ダム湖周辺の自然環境について考えるべきである。
ダムの自然公園化について、渇水時にダムはきれいなものではない。ダムの大きさから考えると裸地が大きな面積をしめることが予想される。CGなどで景観を目に見えるように。
グループ2
人と環境がどのようにかわっていくべきか（環境倫理、環境道德の観点）を考えなければならない。
動物に対しての環境を考えるべき。データがないから議論できない。
ダム建設による自然環境への功罪を明らかにする。自然に対しての利点と欠点をより明確にして示されるべきだ。
ダムがつくられた後の新たな環境を考えていくのも大切だ。
グループ3
魚の生態系への影響などの調査をしないとわからない
クマタカ、イヌワシの生息地であるので調査が必要。
ダムによって瀬切れの解消等よみがえる自然環境はあるが、ダム湖等により消滅する自然環境も考えられる。
ダム放流によってどれだけの効果があるのか(シミュレーション)
高時川流域の地下土質分布の状況調査
ダムは決して環境破壊だけでなく、新たな環境・景観を創造する。
環境改善においては帯状の裸地を可能な限りなくすることが重要になってくると思う。
水質の問題だけでなく、川環境（子供の遊び、ホテルなど）の指標化を考えていくべきではないか。

山林の効果・管理 等に関して
調査検討に関連する意見等
グループ1
川を守るには、山を守るべきである。
山全体の保水能力低下が起っている。
山の生活を守る対策を検討すべき
ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
山を守るための試みがいろいろあるが、ボランティア活動等は限界にきている。生活収入を得る状況を作るべきである。
ダムができれば山林を公有化することも計画にあるようなので、山の環境が守られ将来的には、自然公園化し市民の交流の場にしていけることが望まれる。
グループ2
森林の保水力を高める事も同時に必要である。
個人の山が民間の手に渡らないよう補償金等使って守っていくべきだ。

グループ3	
	森林の保水力自然林の保水力のすごさをわかってほしい。
	森林の多面的な機能の評価について、調査研究を要す。
	森林の公益的機能の恩恵にもっと目を向けるべきではないか。
	森林の保全については重要であるが、誰が保全整備（管理）をするかについて問題がある。
	流木が災害を助長するので流木対策を考えてください。

利水 に関して	
調査検討に関連する意見等	
グループ1	
	利水を求めているダム建設の必要性はあるのか。
	大阪・阪神で水が余っているにもかかわらず、立てられている必要水量の予測値が問題である。
	管理者は水需要について調べる
	利水について、京都府はどうかを調べてほしい。
	ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
	湖北では水余りではない
	ダム建設の話は下流圏の利水の要望が強かったから起きた問題であり、その約束はどうなっているのか知りたい。
	水余りについて今までの水源県と下流府県とのやりとりを知りたい。
	利水→水余りの一方、滋賀県琵琶湖の水位低下 水量と水質の保全→調査が必要。
グループ2	
	利水について下流域では新たな水需要はない
	工業用水の転用で利水増大は必要がない。
	水利権の見直しに取り組めばよい。
	水需要からみたダムの必要性を再考する必要がある。
	高時川の伏流水（地域の生活用水）→貯水の必要性地域の水需要も考慮すべき
グループ3	
	現在の水利権どうなっているか。見直しが必要ではないか
	他府県の水需要のチェック
	ダム計画再チェック。
	現在の容量の中で、渇水対策で下流も負担できないのか？

気象変動・温暖化 等に関して	
調査検討に関連する意見等	
グループ1	
	地球温暖化。降水量の変化が激しくなるのではないか。
	地球温暖化降雪量の減少→融雪水の減少→河川流量の減少水利用不足
	地球温暖化降水量の変化が激しくなる→洪水・渇水頻発
	異常気象などを考慮すると30年では短い。100年先までを見すえた検討をしてほしい。
	ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
グループ2	
	近年、気候変動が著しく、琵琶湖流域も影響を及ぼし、今後、渇水や洪水が増すのではないかと心配している。
	高月町では過去に降雪量は2～3mあった。現在では、降雪量、降雨量ともに減っている。このせいで、高時川に異変（瀬切れなど）が起こっているはずだ。
	今後、今までに経験したことのない異常気象による大規模な災害が起こることもありうるのではないだろうか。それについて専門的な意見を加味して、ダム建設の是非について検討していくべきである。
	想定している気象条件を明らかにしてほしい。将来との乖離はないか
	大雨を想定した治水（異常ではなく通常）
	異常気象への対応については、国民のコンセンサスがなければ、実施には結びつかないのではないか。
グループ3	
	（なし）

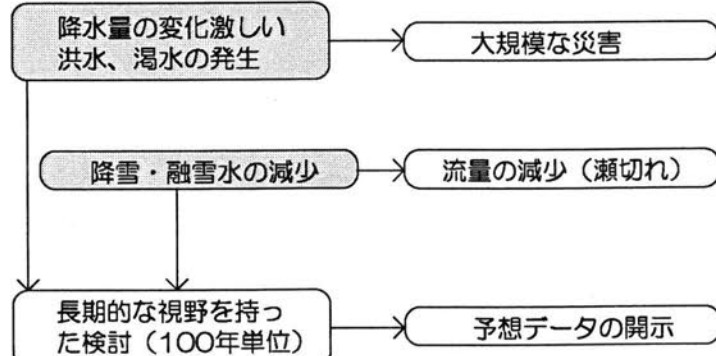
財政・コスト・その他 に関して	
調査検討に関連する意見等	
グループ1	
	建設コストについても考えていくべきである。
	他の方法で対応することはできないかを十分に検討されたか、確認する必要がある
	対立の構造を取っ払っていろいろな意見を聞くべきである。
グループ2	
	ダム建設は、現在の経済状況からやるべきではない。
	「財政」逼迫している
	予算を圧縮する代替案の検討が必要である。
	費用対効果を考える
	ダム建設がもたらす弊害についても明確にする必要がある。
	ダム建設は過去短絡的に決定されてきたのではないだろうか。

グループ3	
	住民負担はどうか？
	ダム の 代替案、どのような方法があるのか、検討が必要
	ダム の 耐久年数はどれくらいなのか。
	ダム 本体、堆砂、地耐力、地震対策、断層
	今あるダムが有効に使われているのか
	今まで作ってきた施設の評価、効果をすべき。

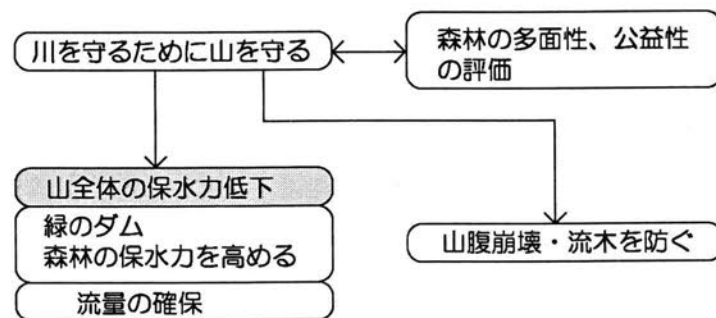
地域・経緯 等に関して	
調査検討に関連する意見等	
グループ1	
	下流のために、移転した人の心のケアをどうするのか。
	もし中止になった時の水没予定地を考える必要がある。中止になった場合でも整備について考えるべき。
	地域整備とダムを見直すことは切り離して考えるべき。
	ダムを起爆剤にして自然と密着型の産業が必要。
	ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
グループ2	
	地元の大きな犠牲の上に成り立っていることを理解する必要がある。
	取り組みの経緯を明らかにしていくべきだ。
	ダム建設を行うなら、治水・利水だけでなく、まちづくりの観点も重視して行うべきである。
	地域の将来を考えた価値判断も取り入れるべきだ。
	地域振興策として、地元はダムを活用したい。ダムを生かした観光は可能なのか？事例を知りたい。
グループ3	
	水没予定地については、調査して文化・歴史・民族を残す(生活文化も)。ダムができる所には遺跡がある。調査する必要があるのではないか。
	すでに移転をすませてしまった人たちの思いも大切にしなければ。移転に対しては様々な思いがあっただろうがここにきて後ろ向きの議論をするとの認識はないのか？

1. 自然

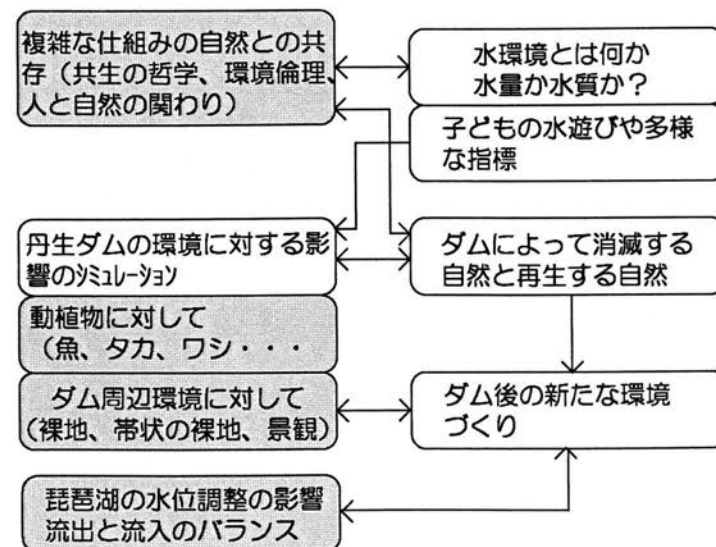
1-1 気候変動・温暖化



1-2 高時川流域の自然（山と川のバランス）

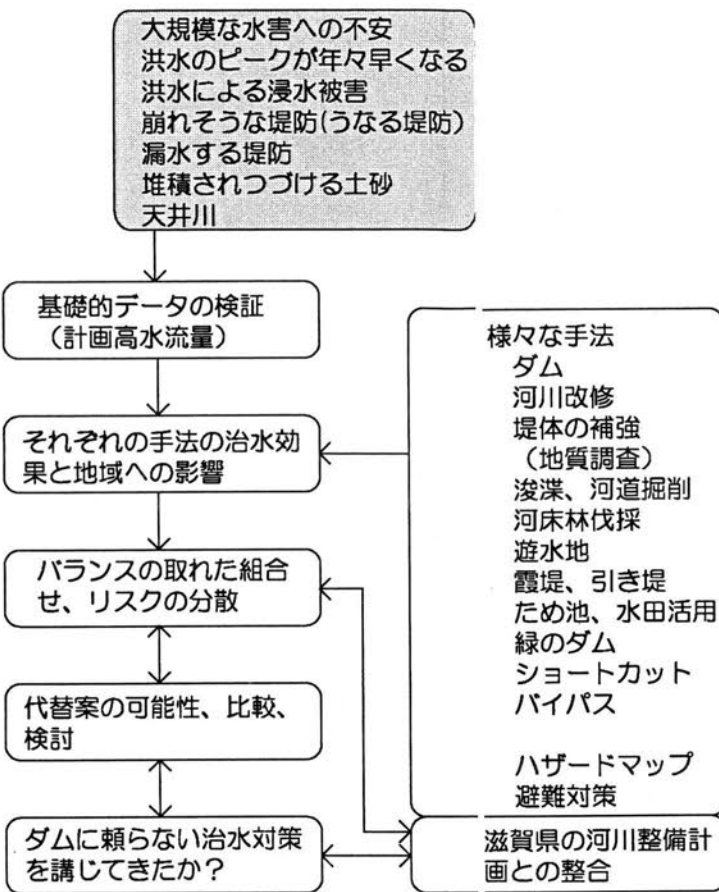


1-3 全般的（広域的）な環境のバランス

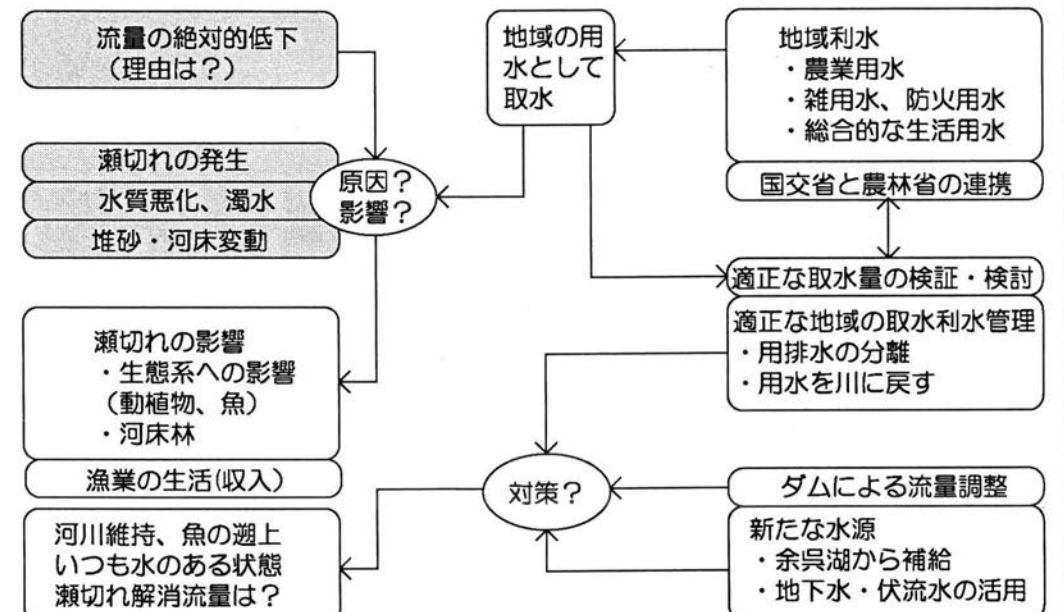


2. 治水・利水

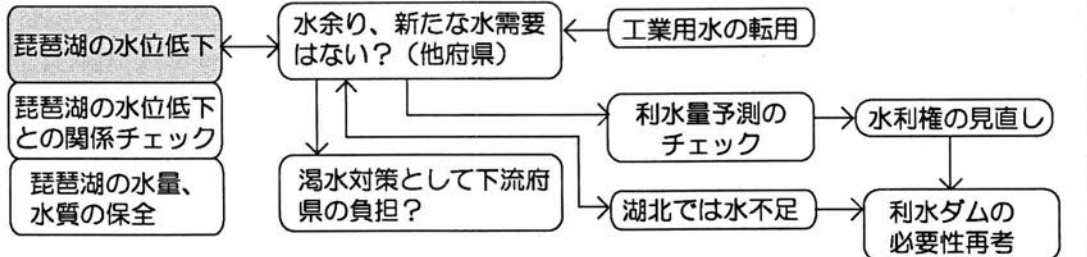
2-1 バランスの取れた総合的な治水



2-2 地域の利水・瀬切れ

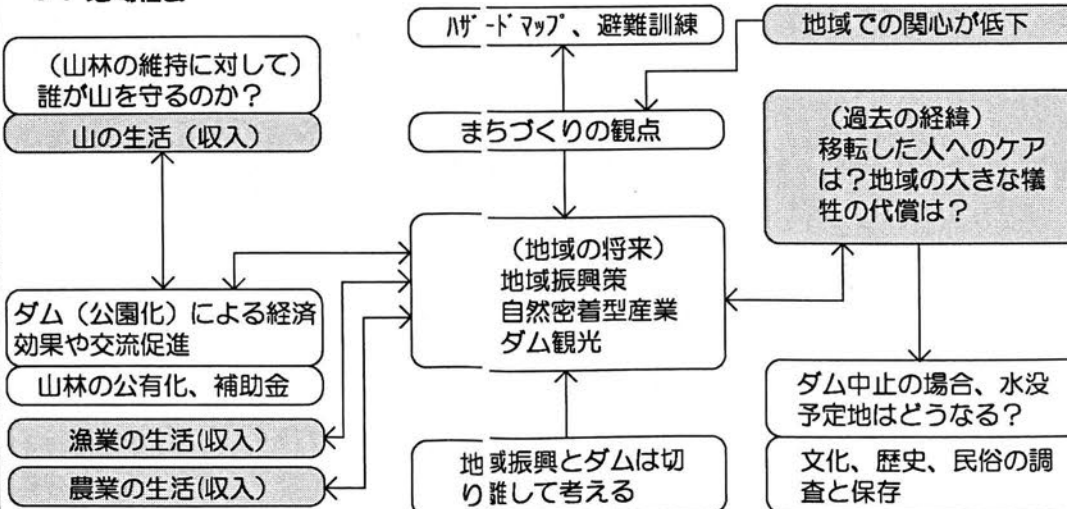


2-3 京阪神の水需要（利水）

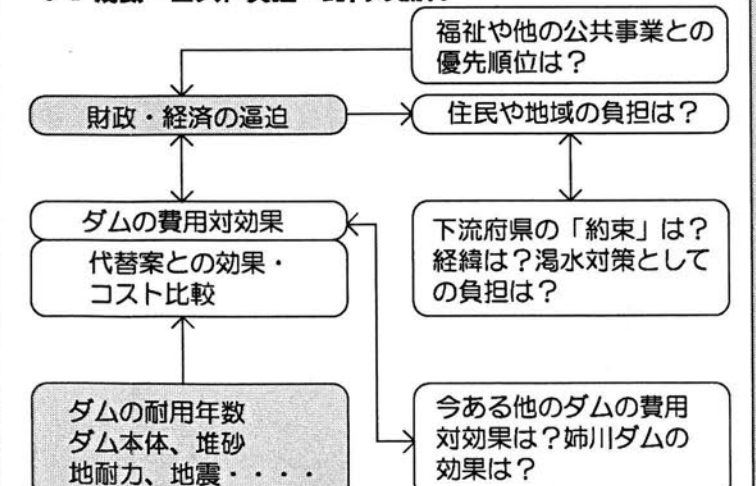


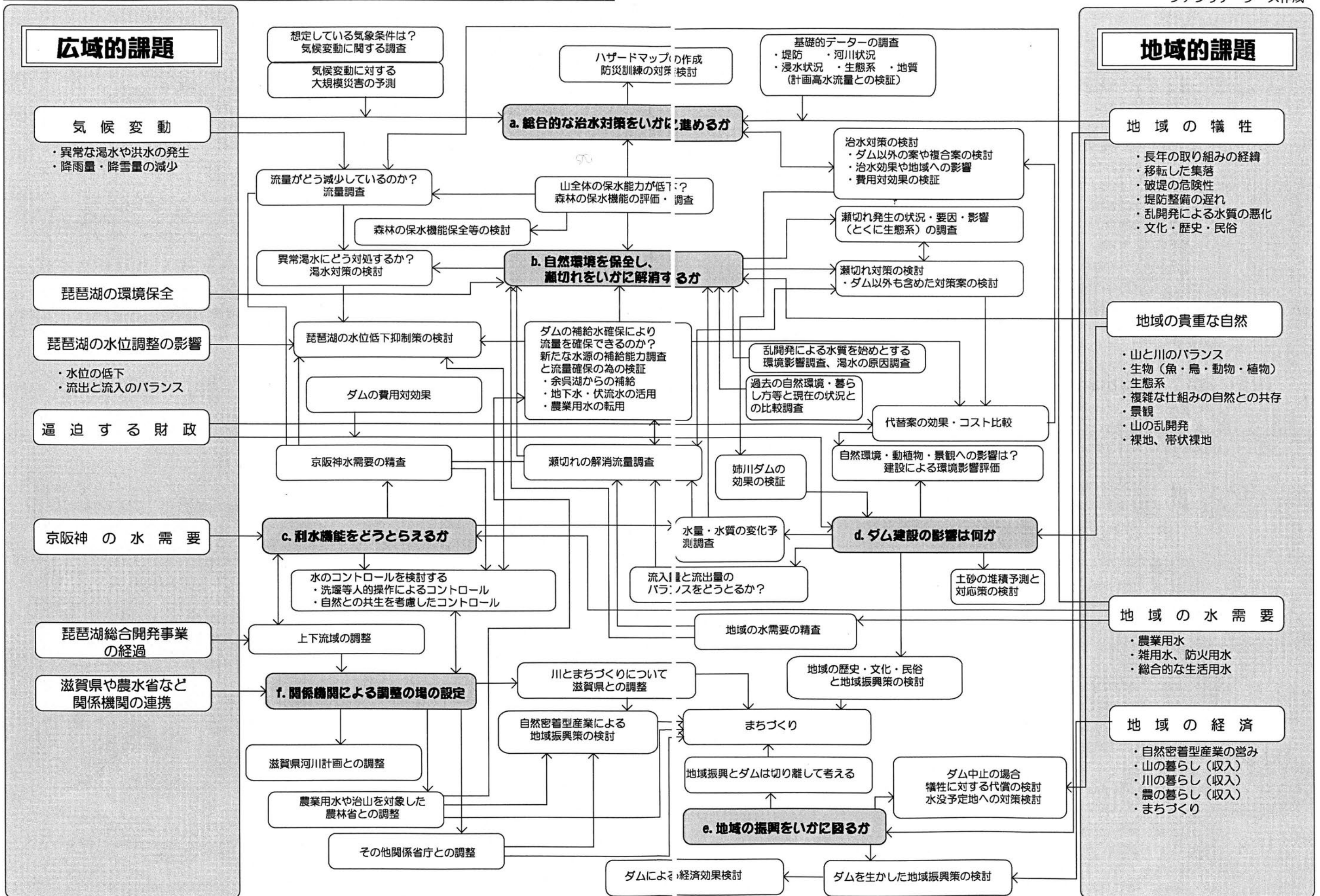
3. 社会

3-1 地域社会



3-2 財政・コスト負担・時代の流れ





丹生ダムの調査検討項目とその内容（河川管理者提示資料）

資料②との対応		調査検討項目	調査検討項目内容
1. 自然	1-1 気象変動 ・温暖化	気象変動(豪雨、少雨・少雪化等)に関する調査	高時川・琵琶湖流域を含む日本では、年によって降雨量の変動が大きく、これまでも洪水や渇水が発生しています。地球規模の温暖化により気象が大きく変動することと考えられます。いずれにしても如何なる気象現象であっても、被害が最小となるように、今後の河川整備は図っていくべきと考えています。そのために、琵琶湖・高時川流域周辺の長期的な気象（気温、降雨・降雪量やそれらの降り方など）の変化を調査し、治水、利水を検討する上での基礎資料とします。
		河川流況調査	高時川の全区間にわたって年間を通じて定点観察を行い、川の流量の変化（出水時、平常時、瀬切れ時など）とその時々の流れ（渇筋や瀬・淵の状態）や河川環境の状況を把握します。
	1-2 高時川流域 の自然	河川流況調査	高時川の全区間にわたって年間を通じて定点観察を行い、川の流量の変化（出水時、平常時、瀬切れ時など）とその時々の流れ（渇筋や瀬・淵の状態）や河川環境の状況を把握します。
		森林の機能と保全に関する調査	高時川流域周辺の森林の分布や変化等を調査し、森林の持つ機能（水源涵養、表流水浄化、土砂流出抑制、レクリエーション、生産性等）や森林の保全策等について検討します。
		水質調査	高時川の全区間にわたって年間を通じて水質調査を行い、流量（平常時、出水時等）と水質との関係から総負荷量を把握します。また、流域からの負荷流出特性についても調査します。
		ダム貯水池および下流河川の水質の予測検討	河川流況調査・水質調査の結果に基づき、ダム貯水池の水質予測計算を行うとともに、ダム放流水による下流（高時川）への影響を検討します。
		土砂流出、堆砂に関する調査（高時川上流域）	高時川上流域の地形、地質、降雨、河川流況や、条件の類似した他の場所の事例等に基づき、山から川への土砂流出計算を行うとともに、ダムへの土砂流入・堆砂について検討します。
		河川の土砂移動に関する調査	高時川の河床の高さや材料の状況を調査し、上流域の土砂流出検討結果をふまえて、高時川における土砂移動の現状やダムによる影響を把握します。
	1-3 全般的な 環境の バランス	ダム貯水池の水質の予測検討	河川流況調査・水質調査の結果に基づき、ダム貯水池の水質予測計算を行います。
		農業水利状況調査	高時川からの農業取水の実績や実態、琵琶湖逆水・余呉湖を含めた湖北地方一帯の農業水利の経緯・現状等を調査し、高時川の流量や瀬切れとの関係について把握します。
		魚類遡上、産卵調査	アユ、ビワマス等の遡上や産卵状況の現地調査を行い、高時川の瀬切れや河床の状況等がこれらに与える影響を把握します。
		漁業状況調査	季節や川の流れの状況に応じて漁業者への聞き取り調査等を行い、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による河川漁業への影響を把握します。
		沿川の水利用状況調査	高時川に近接した地区の生活用水や堤外耕作地等、川沿いの水利用の実態を調査し、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
		沿川地下水調査	高時川および周辺の平野部の地下水の状況（分布や流れ、地盤構造、高時川との関係など）を調査し、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
		瀬切れ対策・河川環境の保全再生案の検討	高時川流域に関する諸調査結果をふまえて、高時川の瀬切れ対策・河川環境の保全再生の対策案について、ダム以外の案も含めて検討を行います。
		河川水の琵琶湖への流入状況調査	雪解け期や出水時の河川水が琵琶湖に流入する状況やそのメカニズムについて調査を行い、高時川からのこれらの流入が琵琶湖に与える影響について検討します。
		琵琶湖の水位低下時の生物の状況調査	琵琶湖の水位低下時における動物（魚類、貝類、鳥類等）や湖辺の植物の状況を調査し、水位低下によるそれらへの影響を把握します。

コイ科魚類の産卵・生息環境調査	琵琶湖の水位低下によって特にその影響を大きく受けると考えられる、ニゴロブナ等の産卵、生息の状況やその場であるヨシ帯等の詳細な調査を行い、水位低下が与える影響を把握します。
琵琶湖の生物環境の調査（全般）	水位低下時における動物（魚類、貝類、鳥類等）や湖辺の植物以外の琵琶湖の生物環境について調査し、水位低下による影響等について把握します。
琵琶湖にかかる環境全般についての検討	水位低下のみでなく琵琶湖の環境の現状等の全般についても調査を行い、琵琶湖環境改善のための課題の整理および考えられる対策案の検討を行います。
琵琶湖水位低下抑制の対策案の検討	琵琶湖・高時川に関する諸調査結果をふまえて、琵琶湖水位低下抑制の対策案としてのダムによる補給の効果と影響等について検討します。
異常渇水時の対策案の検討	異常渇水時の高時川・琵琶湖・淀川流域の状況および課題を整理し、対策案を検討します。
環境基盤調査	高時川の瀬・淵や河床材料の状況、川周辺の植生等について調査し、ダム貯水池（水没区域）における状況や特性を把握します。また、ダムから下流（高時川）の川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
動植物、生態系調査	高時川上流域の動物・植物の種類、分布、生態系の構造等を調査し、ダム貯水池（水没区域）周辺における状況や特性を把握します。また、ダムから下流（高時川）の河道内の動植物や生態系の調査を行い、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
重要種の調査（ダム貯水池周辺）	動植物、生態系調査をふまえて、クマタカなどの希少猛禽類やその他の貴重・重要な動植物の詳細な調査を行い、保全対策について検討します。
ダムによる自然環境への影響と効果の検討	琵琶湖・高時川に関する諸調査結果をふまえて、ダムによる自然環境への影響（特にダム貯水池周辺、高時川に対して）や、ダム建設後の環境、景観等について検討します。
ダム事業の多面的な効果と影響の検討	人と自然のふれあい、景観、森林保全等の調査結果をふまえて、ダム水源地域の活性化に向けた取り組みを関係機関等と連携して検討します。
人と自然のふれあい、景観に関する予測検討（ダム貯水池周辺）	ダム完成後の貯水池周辺の景観をCG等を用いて予測し、ダム貯水池の水面ができることによる景観への影響等、人と川や周辺の自然とのふれあいの場について検討します。
人と自然のふれあいに関する予測検討（高時川中・下流域）	高時川における人と川とのふれあいの場（親水護岸など）の現状を調査し、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
土砂移動の連続性を確保する方策の検討	土砂流出、堆砂、土砂移動に関する調査をふまえて、ダムによる高時川の土砂移動の影響とその連続性を確保する方策を検討します。

資料②との対応		調査検討項目	調査検討項目内容
2. 治水	2-1 バランスのとれた総合的な治水	気象変動(豪雨、少雨・少雪化等)に関する調査	高時川・琵琶湖流域を含む日本では、年によって降雨量の変動が大きく、これまでも洪水や渇水が発生しています。地球規模の温暖化により気象が大きく変動することとも考えられます。いずれにしても如何なる気象現象であっても、被害が最小となるように、今後の河川整備は図っていくべきと考えています。そのために、琵琶湖・高時川流域周辺の長期的な気象(気温、降雨・降雪量やそれらの降り方など)の変化を調査し、治水、利水を検討する上での基礎資料とします。
		河川流況調査	高時川の全区間にわたって年間を通じて定点観察を行い、川の流量の変化(出水時、平常時、瀬切れ時など)とその時々の流れ(滞筋や瀬・淵の状態)や河川環境の状況を把握します。
		森林の機能と保全に関する調査	高時川流域周辺の森林の分布や変化等を調査し、森林の持つ機能(水源涵養、表流水浄化、土砂流出抑制、レクリエーション、生産性等)や森林の保全策等について検討します。
		河川周辺(堤防を含む基礎地盤)地質調査	高時川の堤防付近(川と平野部の境界)の地質調査を行い、ダムによる川の流量の変化が堤防およびその基礎地盤に与える影響を把握します。
		治水対策案の検討	高時川流域に関する多くの諸調査結果をふまえて、高時川の治水の対策案について、ダム以外の案(放水路、遊水池等やそれらの複合案、ソフト対策、堤防の安全性向上等)も含めて検討を行います。
		土砂災害の軽減効果に関する検討	高時川上流域の土砂流出検討結果や中・下流部(天井川区間)の河道の状況等をふまえて、洪水時に大量の土砂が高時川に流入することによる被害に対するダムの効果について検討します。
	2-2 地域の利水・瀬切れ	気象変動(豪雨、少雨・少雪化等)に関する調査	高時川・琵琶湖流域を含む日本では、年によって降雨量の変動が大きく、これまでも洪水や渇水が発生しています。地球規模の温暖化により気象が大きく変動することとも考えられます。いずれにしても如何なる気象現象であっても、被害が最小となるように、今後の河川整備は図っていくべきと考えています。そのために、琵琶湖・高時川流域周辺の長期的な気象(気温、降雨・降雪量やそれらの降り方など)の変化を調査し、治水、利水を検討する上での基礎資料とします。
		河川流況調査	高時川の全区間にわたって年間を通じて定点観察を行い、川の流量の変化(出水時、平常時、瀬切れ時など)とその時々の流れ(滞筋や瀬・淵の状態)や河川環境の状況を把握します。
		森林の機能と保全に関する調査	高時川流域周辺の森林の分布や変化等を調査し、森林の持つ機能(水源涵養、表流水浄化、土砂流出抑制、レクリエーション、生産性等)や森林の保全策等について検討します。
		農業水利状況調査	高時川からの農業取水の実績や実態、琵琶湖逆水・余呉湖を含めた湖北地方一帯の農業水利の経緯・現状等を調査し、高時川の流量や瀬切れとの関係について把握します。
		魚類遡上、産卵調査	アユ、ビワマス等の遡上や産卵状況の現地調査を行い、高時川の瀬切れや河床の状況等がこれらに与える影響を把握します。
		漁業状況調査	季節や川の流れの状況に応じて漁業者への聞き取り調査等を行い、川の流量の変化(瀬切れ、出水、ダムからの放流等)や河道改修等による河川漁業への影響を把握します。
		沿川の水利用状況調査	高時川に近接した地区の生活用水や堤外耕作地等、川沿いの水利用の実態を調査し、川の流量の変化(瀬切れ、出水、ダムからの放流等)や河道改修等による影響を把握します。
		沿川地下水調査	高時川および周辺の平野部の地下水の状況(分布や流れ、地盤構造、高時川との関係など)を調査し、川の流量の変化(瀬切れ、出水、ダムからの放流等)や河道改修等による影響を把握します。
		瀬切れ対策・河川環境の保全再生案の検討	高時川流域に関する多くの諸調査結果をふまえて、高時川の瀬切れ対策・河川環境の保全再生の対策案について、ダム以外の案も含めて検討を行います。

		河川周辺（堤防を含む基礎地盤）地質調査	高時川の堤防付近（川と平野部の境界）の地質調査を行い、ダムによる川の流量の変化が堤防およびその基礎地盤に与える影響を把握します。
	2-3 京阪神の水 需要	異常渇水時の対策案の検討	異常渇水時の高時川・琵琶湖・淀川流域の状況および課題を整理し、対策案を検討します。
		京阪神の水需要の精査確認	京阪神地区の水需要の精査確認を行います。

資料②との対応		調査検討項目	調査検討項目内容
3. 社会	3-1 地域 社会	森林の機能と保全に関する調査	高時川流域周辺の森林の分布や変化等を調査し、森林の持つ機能（水源涵養、表流水浄化、土砂流出抑制、レクリエーション、生産性等）や森林の保全策等について検討します。
		農業水利状況調査	高時川からの農業取水の実績や実態、琵琶湖逆水・余呉湖を含めた湖北地方一帯の農業水利の経緯・現状等を調査し、高時川の流量や瀬切れとの関係について把握します。
		漁業状況調査	季節や川の流れの状況に応じて漁業者への聞き取り調査等を行い、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による河川漁業への影響を把握します。
		沿川の水利利用状況調査	高時川に近接した地区の生活用水や堤外耕作地等、川沿いの水利利用の実態を調査し、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
		ダム事業の多面的な効果と影響の検討	人と自然のふれあい、景観、森林保全等の調査結果をふまえて、ダム水源地域の活性化に向けた取り組みを関係機関等と連携して検討します。
		人と自然のふれあい、景観に関する予測検討（ダム貯水池周辺）	ダム完成後の貯水池周辺の景観をCG等を用いて予測し、ダム貯水池の水面ができることによる景観への影響等、人と川や周辺の自然とのふれあいの場について検討します。
		人と自然のふれあいに関する予測検討（高時川中・下流域）	高時川における人と川とのふれあいの場（親水護岸など）の現状を調査し、川の流量の変化（瀬切れ、出水、ダムからの放流等）や河道改修等による影響を把握します。
	3-2 財政・コスト ・時代の流れ	瀬切れ対策・河川環境の保全再生案の検討	高時川流域に関する多くの諸調査結果をふまえて、高時川の瀬切れ対策・河川環境の保全再生の対策案について、ダム以外の案も含めて検討を行います。
		琵琶湖水位低下抑制の対策案の検討	琵琶湖・高時川に関する諸調査結果をふまえて、琵琶湖水位低下抑制の対策案としてのダムによる補給の効果と影響等について検討します。
		異常渇水時の対策案の検討	異常渇水時の高時川・琵琶湖・淀川流域の状況および課題を整理し、対策案を検討します。
		ダムによる自然環境への影響と効果の検討	琵琶湖・高時川に関する諸調査結果をふまえて、ダムによる自然環境への影響（特にダム貯水池周辺、高時川に対して）や、ダム建設後の環境、景観等について検討します。
		ダム事業の多面的な効果と影響の検討	人と自然のふれあい、景観、森林保全等の調査結果をふまえて、ダム水源地域の活性化に向けた取り組みを関係機関等と連携して検討します。
		土砂移動の連続性を確保する方策の検討	土砂流出、堆砂、土砂移動に関する調査をふまえて、ダムによる高時川の土砂移動への影響とその連続性を確保する方策を検討します。
		治水対策案の検討	高時川流域に関する多くの諸調査結果をふまえて、高時川の治水の対策案について、ダム以外の案（放水路、遊水池等やそれらの複合案、ソフト対策、堤防の安全性向上等）も含めて検討を行います。
		京阪神の水需要の精査確認	京阪神地区の水需要の精査確認を行います。
		ダム堤体および貯水池周辺の安全性の検討	既往の地質・活断層・地すべり調査等の結果をふまえて、ダム堤体および貯水池周辺の安全性についての調査検討成果の取りまとめ（必要に応じて補足検討）を行います。
		大気環境に関する調査	高時川上流域の地形、大気の状態等を調査し、ダム工事に伴う騒音、振動、煤じんの予測等を行います。

第4回討論会 第1グループ

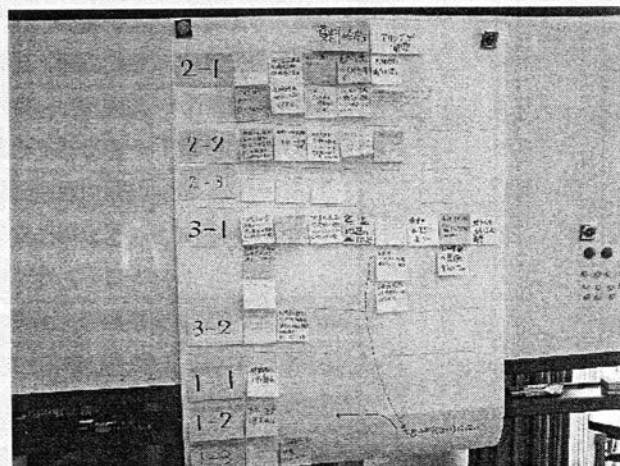
【 討論参加者 】

・鳥塚五十三・岸上 広 ・轟保幸 ・野村東洋夫 ・中川泰三
・河合亮二 ・三國昌弘 ・谷口浩志 （敬称略）

グループファシリテーター： 横山 葵 （有限会社 エイライン）

第4回完成 シート

			資料の全開示	ヒアリングが重要		
2-1	高時川の堤の高さの提示	河川状況調査は周辺小河川、沼、池等、水面も水の動きを中心とした調査を。	高時川流域の周辺とは	高時川上流の堆砂の調査	矢板打ちの場所と高さ	
	河床変動と低下と田川カルバート		治水ダム計画と暫定との関係	河川及び流域の構造的調査はどの程度行っているのか	森林の機能地元（先人）のアドバイスを受ける事があるか	堤外民地の植生調査及び洪水時に対する影響
2-2	頭首口による夜間取水と頭首口下流の河床変動ダム湖流入口の土砂堆砂とその取り扱い	農業水利状況調査 実態→取水量の管理	地下水調査 高時川を中心とした地下水位調査（図の作成）かん養、排水区域	関西電力（大見ダム）より川合地先（杉野川合流地点）まで瀬切れがある	魚類のそ上調査に大見えんていの調査を含めること	
2-3	H6年濁水について詳細な調査を。（淀川下流部のみでなく水公園H6年濁水記録に欠けている琵琶湖周辺部の状況について）	京都府の水需要精査については特に詳しく	大阪市（上水）の水需要精査の結果の報告を早く			
3-1	沿川水利用の調査について、特に農林水産省との調整が必要 農業水利一河川取水琵琶湖送水による濁水による排水 水利権の歴史	ダム貯水池周辺の景観と自然と人とのそれぞれについて、ダム湖を中心とした自然公園化と人のそれぞれについて	関連する事項の総合的な整合性があるかどうかの調整が必要	奥川並地区の再生検討	ダム湖周辺の景観CGには環境改善容量全量を排出した場合の景観もきめてください 琵琶湖の水位とカン陸面積との関係 濁水時、放流による琵琶湖の水面回復状況	被害の状況図の提示 山の保全の事例を知りたい 森林保全の調査とは
3-2	ダム工事の発破について、発破予定地、回数、動物への影響等の予測	代替案の検討については、多面的多様な複合機能も、新しい視点も必要				
1-1	錦織橋近辺の定点観測					
1-2	高時川濁流の調査（原因）					
1-3	琵琶湖の水質に関する調査検討資料の開示	琵琶湖の水位調整 プラス・マイナス				



シート写真

◎治水・利水

- ・流域全体を対象とした流域調査が重要。
- ・ダムと河川改修を一体としてできるかが疑問。
- ・堆砂が問題。
- ・構造的な調査はモデルを利用して対応すると有効。
- ・地元へのヒアリングが重要。
- ・地下水の流れの変化も考慮する。(湧水)
- ・大見ダム下流の瀬切れ問題も必要。
- ・H6年のデータの開示が必要。(上～下流セットで)
- ・渇水時の大阪の水利について考慮すべき。
- ・農林水産省との話し合いが重要。
- ・琵琶湖の濁水問題の原因調査。
- ・頭首口の夜間取水を検討するべき。
- ・水利権(水利用)の実態調査。(ヒアリング)

◎自然

- ・関係している問題の整合性の検討が必要。
- ・奥川並地区の山林の影響評価。
- ・ダム周辺のCG作成。
- ・琵琶湖のCG作成。
- ・水害状況マップのシミュレーション。
- ・森林保全の実態について。(事例紹介についてもしてほしい)
- ・ダム工事の発破作業についての動物への実際的な影響評価。
- ・代替案について新しい視点を入れることはできないか。
- ・流域の定点観測
- ・高時川の濁流調査。
- ・琵琶湖水位の調査状況の開示。

討論中に出た意見

- ・流況調査について、上下流全体で調査してほしい。
- ・自然の調整池も含めて、ダム上流部の調査をしてほしい
- ・流域全体の治水調査をしてほしい。
- ・高時川の堤防が低いのは田川カルバートによる砂止めの影響がでているからではないか。
- ・S46年に比べて河床が1.2mも低下している。
- ・田川カルバートにより上流は洪水をまねく恐れがある。
- ・河床が低くなったため湧水がなくなった。
- ・高時川が洪水の時、ダムの効果はどうなのか、上下流も含めて調査してほしい。
- ・調査の進行はどうなるのか。
- ・森林機能について、ダム事業の中で地元のアドバイスを受けるべきである。
- ・ダムは100年を対象としているが、河川改修はそうではないので、ダムだけでは不十分。
- ・河川流域の構造的調査はどの程度行っているのか。
- ・「やいた」の有効性資料を開示してほしい。
- ・ダムが完成した時、ダム湖流入口の7万t/年の堆砂をどう取り扱うのか。
- ・農業用水の実態について、取水量の管理も含めて考えてほしい。
- ・現実にどれだけの水が使われているかを調査してほしい。
- ・高時川を中心とした地下水位マップを作れば、灌用不可になっているか、排水区間になっているか分かるのでは。
- ・大見ダムの近くで起こっている瀬切れについて、関西電力との関係を調査してほしい。
- ・H6年の異常渇水時に、報告されていない実態があったのできちんと報告してほしい。
- ・丹生ダムについての京都府の態度を明らかにして欲しい。
- ・通常時以上に渇水時の地域間の連携対策が重要。
- ・通常時と渇水時を分けて考えるべき。
- ・大阪市の余った水の利用について調査してほしい。
- ・渇水の時に大阪や京都に出す水があるのかが問題。
- ・農林水産省と共同で調査をしてほしい。
- ・今迄、漁業者がダム賛成にまわることはなかった。
- ・ダムの調整機能が、危機的な状況時の魚の産卵遡上に有効な事実がある。
- ・ダム周辺の景観も含めた人と自然とのふれあいが大事。
- ・関連する事業の総合的な整合性があるのかの調査をしてほしい。
- ・奥川並地区の原生林(ブナ林)の伐採をとめることが出来なかった。
- ・濁流の調査をしてほしい。
- ・瀬切れの原因は農業水利にあるというが全てではない。ヒアリングも含めて調査してほしい。
- ・環境容量を越えた場合どうなるのかCGで示してほしい。
- ・琵琶湖の水位の変化をCGで示してほしい。
- ・ダムを作らなかった場合と、作る場合の2つの調査の比較が重要。
- ・森林保全の調査についての実態がわからない。
- ・水害に対して住民間の関心の違いが一番の問題である。
- ・洪水の起こる場所に新しく家が建ち、その住人が苦情を言っている。
- ・ダイナマイトの発破作業の資料を示してほしい。
- ・山には、誰も住んでいないので、発破作業の動物への影響が問題である。
- ・発破作業安全性の調査はしているだろうから信頼している。
- ・新しい視点も含めた代替案を出してもらいたい。
- ・錦織橋近辺の定点観測が重要である。
- ・琵琶湖の水質資料の開示をしてほしい。
- ・堤外民地の植生調査をしてほしい。
- ・琵琶湖水位の情報開示をしてほしい。

第4回討論会 第2グループ

【 討論参加者 】

・丹生 善喜

・コ玉 博之

・千代延 明憲

・寺村 京子

(敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第4回 全体報告

報告者：千代延 明憲

本日、河川管理者が提示した、“丹生ダムの調査検討項目とその内容（資料④）”
に対して、下記の6項目の追加があった。

① 逆水による余呉湖への影響の調査。

② 調査結果を、メリット・デメリットを含めてわかりやすく。

③ 瀬切れについて、他の河川についての実状とその対策。

④ 丹生ダム総事業費の明確化。

⑤ 水源税について、どのように活用されているのか他地区の実状を調査。

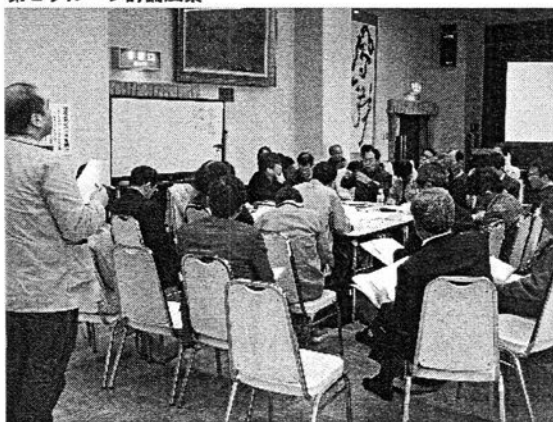
⑥ 高時川流域のここ30年の変化を知りたい。

討論中に出た意見

- ・調査費用について、NGOの資料を加えていくのかを検討してほしい。
- ・直下の人間という立場から、ダムが中止になったらどうなるのかを話して考えていきたい。
- ・ダム建設を中止しないほうがよい。
- ・今後の村作りはどのようなのか。
- ・ダムは地域の環境にどう影響するのか問題。
- ・気象変動、温暖化は丹生ダムについて討論してどうなるのか。どう関係してくるのか。
- ・30年たってもデータが出てこなかったのに、1~2年で出てくるのか？
- ・今までに集めたデータを順をおって出してほしい。
- ・今まで議論をしてきて、きちっと答えが出てきているのだから、資料はたくさんあるのではないか。
- ・気象の調査は国の調査項目であってここだけに経費をかけるのか。
- ・ダムの問題があるから気象の問題を考えるのは順番が間違っている。
- ・水源涵養林について教えてほしい。
- ・水源涵養林は大雨には抵抗できない。何mmがリミットなのかという資料がほしい。
- ・農業水利状況について、量のことだけでなく使い方の改善をしたい。
- ・余呉湖に外来魚が入ってくるという調査をしているのか。
- ・余呉湖に琵琶湖から水をあげすぎると、汚れてダメになるのではないか。
- ・水路の漏水を防ぐと、琵琶湖からの逆水が1/10になる。そこを考えてほしい。
- ・農業水利は農業機関と関連して考えていくべき。
- ・余呉湖への環境影響も論じられている。
- ・農業機関と関連して考えていく。
- ・治水バランスの関係。
- ・上流部の漏水の調査資料がほしい。
- ・瀬切れが起きそうになったら、試薬を流すと、その漏水はどこを通っているのかということがわかる試薬がほしい。
- ・完全に堤防を覆ってしまって水を遮断してしまったら自然を破壊してしまう。
- ・水路がわかれば、そこはどうかしたい。
- ・瀬切れの問題はダムでない代替案を調査してほしい。
- ・瀬切れについて、どういった調査をしているのかを話してほしい。
- ・河川の河床を下げるだけで20~30年かかるのではないか。
- ・昔は土砂を売却し、それで道路や堤防を作ってきた。
- ・河床にたまった土砂を売ることは可能か。
- ・途中に水を溜める低い土地がある。しかし、そこには既存の財産があり、そこに住む人達に迷惑にならない方法がある。
- ・ダム事業を多面的な効果、影響を考えてやってきたことはありがたい。
- ・ダムによる経済効果、保水の効果について、メリット、デメリットを示してほしい。メリットが多ければ納得できる。
- ・高時川の流域にどれだけの人が住んでいるのかを知りたい。30年前とは状況が違ってきていると思う。
- ・瀬切れの問題は、他の河川ではどうしているのかを知りたい。
- ・瀬切れが起きた時に、土壌がどうなるのかというマップが作られている。
- ・ここの流入には何haの面積があって、その河口にどれだけの流量があるか知りたい。
- ・ダムを作った時と、作らなかった時の森林保全策は違うのではないか。
- ・森林破壊が進んでいる。
- ・森林に、経済的な理由によって民間企業が入る。公共的な援助によって守るべきではないか。
- ・現実に森林保全をやっている所を調べてほしい。
- ・高時川流域の人口の変化をふまえて治水が必要かを検討する資料がほしい。
- ・調査資料を、メリットデメリットをふまえて、分かりやすくしてほしい。
- ・ダムの水位を下げるという話はあるのか。
- ・破堤を避けるために堤防を高くすれば、エネルギー的にも問題が出てくる。
- ・H6年の異常渇水時に、報告されていない実態があったのできちんと報告してほしい。



第2グループ討論風景



第2グループ討論風景

第4回討論会 第3グループ

【 討論参加者 】

・西尾 新治 ・澤村 繁 ・立見 安弘 (敬称略)

グループファシリテーター： 中村伸之(ランドデザイン)

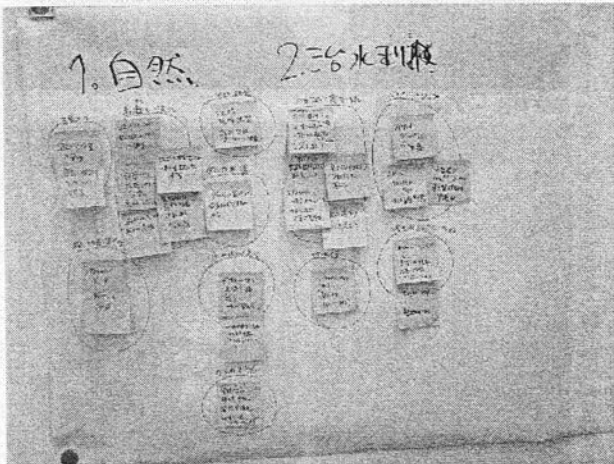
第4回完成 シート

1. 自然

森林と保水		気象データ	琵琶湖の水質	瀬切れの基礎データ
流水ピークが 早くなること についての調 査		気象データ収 集の範囲	丹生ダムによ る水位調整能 力 →水質、にこ り	瀬切れのデー タ
針葉樹、広葉 樹の分析。育 林状況	にこりがひと い 木を切ったか ら	過去の降雨量 のデータを調 査	琵琶湖の汚れ 、マイナス水 位、汚れ、に おい	瀬切れの原因
森林の保水機 能との関係	具体的な ・森林保全活 動は？ ・保全策	地形・地質	ダムの景観	ダムの水質
		流域の地形、 地質、崩壊箇 所、地すべり 調査	ダム完成後の環 境、景観、帯状 の裸地、裸地対 策→ダムの運用 も含めて	ダムの水質予 測調査はどう するのか？

2. 治水

ハザードマップ		瀬切れと農業利水	琵琶湖の水質
ハザードマッ プづくりが必 要	高時川は狭い	井明神堰を開 放して瀬切れ 解消を調査す る(利水)	100mm超す豪 雨→高時川の堤 防 水量、被害のシ ミュレーション
高時川流下能 力低い 情報を開示 ハザードマッ プ	滋賀県がハザ ードマップの 基礎調査を準 備中	1年間くらい 堰を開放して 調査しては…	米づくり(水 利用)のあり 方を考える
		瀬切れ 地下水の水位 地下水計で 調査する	水の再利用を 考える
			放水路 川の放水路を つくる…(桑 畑を越流させ る)



シート写真

◎期限をきって調査してほしい。

- ・森林保全の調査。
- ・洪水のピークが早くなることへの調査。
- ・森林の保水機能との関係。
- ・ブナ林の植樹の実態。
- ・高時川の水質調査。

◎瀬切れ

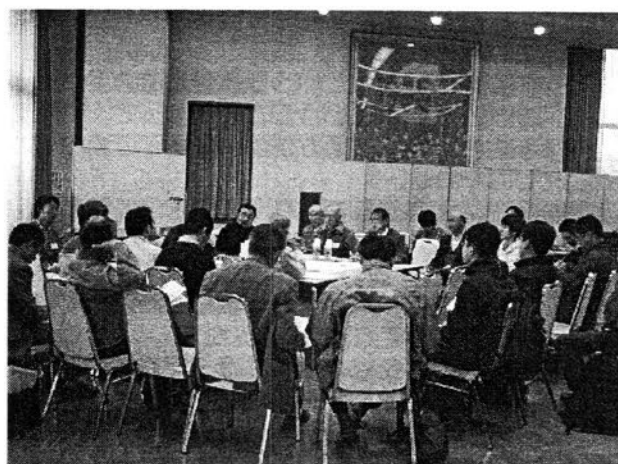
- ・井明神堰を何ヶ月か開放して、水が足りるか足りないか判断。
- ・農業も考えていくべき。
- ・水の再利用を考えるべき。
- ・桑畑にのった越流で水を流す。

◎ハザードマップの作成

- ・全国的な異常気象発生。→高時川の流下能力は？



第3グループ討論風景



第3グループ討論風景

討論中に出的意見

- ・琵琶湖、高時川周辺の長期的な気候変動の調査が必要ではないか。
- ・異常気象の発生のしやすさがあるのではないか。
- ・気象状況は自然相手に難しいが、頑張って活動していると思う。
検討調査をいつまでにやるのかが危惧される。期限を決めるべきではないか。
- ・今まではどのような調査をしてきたのか。
- ・ブナを今から植えると何年かかるのか。
- ・高時川と姉川を比べると、姉川は高時川の2倍の水量がある。
- ・高時川、姉川の合流地点で濁りがひどい。
- ・山が荒れている。
- ・水は年々早くなり、濁っている。
- ・富山の川と比べると、高時川の濁りはマシなほうではないか。
- ・ダムがあるのとないのでは合流地点の濁りは違ってくるのか。
- ・濁りの調査はあるのか。
- ・崩壊箇所、地滑り箇所はどこにあるのか調査してほしい。
- ・独断で調査するより、意見をふまえて調査してほしい。
- ・調査検討に1～2年は長いのではないか。
- ・瀬切れのデータはあるのか。
- ・水質低下についての予測手法はどう考えているのか。
- ・ダムができることによる環境破壊についての調査。
- ・ダム完成による自然環境、景観創造は期待。
- ・琵琶湖の汚れ、マイナス水位は当たり前になっている。
- ・琵琶湖水位と臭いの関係のデータはあるのか。
- ・丹生ダムによって琵琶湖の水位を保てるのではないか。
- ・水の絶対量があれば臭いはカバーできる。
- ・丹生ダムが水位安定機能を発揮する程度をデータに示してほしい。
- ・雨が降った時の高時川の堤防決壊のデータはあるのか。
- ・過去の降水量のデータと結びつけた調査をしてほしい。
- ・高時川流下能力のシミュレーションが不可欠ではないか。
- ・ハザードマップを作成し、人命の安全確保をしてほしい。
- ・地下水位調査はやっているのか。
- ・川に水を流すことを前提にしてほしい。
- ・NGOがブナを植える活動がある。
- ・森林保全策の具体的なイメージはあるのか。
- ・森林対策は徹底的にやるには莫大な資金がかかる。
- ・間伐材の利用を促進すれば、保全に役立つのではないか。
- ・H6年の異常渇水時に、報告されていない実態があったのできちんと報告してほしい。

第4回討論会アンケート集計

* アンケートについては、皆様方から頂いたご意見を紙面の関係上、簡略化させて頂いており、また、似ているご意見については、まとめさせて頂いておきます。

今回のグループ討論の運営への感想

- ・第1グループ以外、半数が欠席というのは気になります。討論の結果、さらに考えを発展させてほしいのに、自分の意見を言うだけ言って、来ないのは、無責任ではないか。傍聴者に対しても失礼だと思います。
- ・①討論の方法としては、わかりやすく適切。
- ・②調査項目が記されているが、討論者がどれだけ「調査の内容」など想像できて討論しているか、少し不安である。
- ・③調査結果のとりまとめ方の工夫が大いに興味がある。
- ・話の内容がほとんど県管理の内容。よって、姉川・高時川、川づくり会議と今後、合同して開催すべき。この場に県不在なのはありえない。議論にならない。
- ・どのような調査が必要か、という議論を進めようとしているが、何が知りたいかということであって、それをどのような手法とか調査するかは、事業者にまかせればよいことではないか。
- ・熱心な議論で、大変参考になりました。ひとつお願いは、貴重な発言が大変聞き取りにくいので、なんとか工夫が必要と考えます。
- ・小グループ毎のコーディネイトが十分に機能していない。第3グループの発表方法は特にひどい。
- ・良いが、時間に余裕があるように思う。この時には傍聴者からの意見を少しはとりあげても良いのでは。
- ・今回は、参加討論予定者の出席状況が悪かった（特に第2班、第3班）ために、出席者が通常通りであれば、意見の中味は、もう少しあったのではないかと思います。
- ・落ち着いた良かった。人数は4～5名が良いと思います。
- ・現地の実態等が話され、調査検討課題が次々と出されているが、この会でダム建設についての方向性を出すものではないとすれば、検討の時間をいつまでもかけ、結果はどのように反映されるのですか。
- ・傍聴者は今後不必要ではないか。
- ・①意見を述べる機会が全くない。
- ・②討論発言者の発表がほとんど聞こえない。
- ・配布資料が適切であった。3グループの全員が協力的であった。
- ・久先生にファシリテートをお願いしたかったが、サブファシリテーターに下請に出されていて少しがっかりした。（大戸川でも同じスタイル）できるだけ多くの意見陳述者から意見を聴くためにはやむを得ないのか？
- ・グループ毎小部屋に分けて行った方がよい。話が聞こえない。集中できない。
- ・だんだんつまってきてよかった。
- ・かなり良いと思える。
- ・議論の焦点が絞れて良かった。
- ・時間が足りないように思うほど様々な意見が聞けて大変参考になる。
- ・本日の目的である調査検討項目にもれがないのかも検討をせよ、とのことであったが、ダブリの議論が多過ぎる。
- ・丹生ダムについての議論であるのならば反対賛成5×5で議論すべき。
- ・ファシリテーターの方によって進め方に随分むだがある様に思われます。
- ・参加者3人。少ない。
- ・特にファシリテーターの役割は良好であった。
- ・大きな会場でゆったりとした議論がしたい。

行政との協働作業についての感想

- ・今回だけでは十分機能しているとは言えない。
- ・質問されそうなことは、もっと準備できるのではないですか。
- ・目的がはっきりしていて、良い作業であると思った。
- ・行政も受けとめて住民の要望をこなしている点で計画できると思った。
- ・行政が入ったことで、議論が締まっていると感じる。
- ・協働まで行っていないと思います。
- ・適切な説明がなされ、誤解の指摘等がよかった。
- ・例えば森林の育成に関する調査として、具体的に出せばもっと良い。（その前に、どのような対策をするかを決める必要があろう）
- ・河川管理者のできない責任範囲と関連省庁を示し、更に引き込めれば良いのでは。
- ・行政として参加する人の考え方、資料は持っているが考え方は白紙ではなく、無理な事、間違っている方向の意見には、自分の意見を言ってほしい。それが「ない」と時間がかかりすぎる。
- ・ポイントでの現状と今後の説明は良かったと思う。
- ・丹生ダム建設は、水資源機構が建設すると聞いているが、なぜ機構は会議に出席してこないのか。
- ・「対話」の中での要点（問題点）をとらえての説明・応答は本日程度であれば適切だと思う。
- ・意見が聞けて大変良い。
- ・河川管理者として、滋賀県も整備局、機構と同様に参加した方が良かったのではないかと。
- ・行政の対応は適切だった。今後実施される調査の結果に期待したい。調査によるデータをどのように公正に評価、判断するかが問題だと思う。
- ・4回目なのでもう少し議論が進んでいると思っていた。
- ・たいへんよいことと思います。だんだん回数が増えることがよいと思います。
- ・行政も、もう少し主体的に参加した方が良いのでは。
- ・何も問題ない。
- ・行政側の数が少ない。協働作業とまでいかない。
- ・今回は行政の方との質問のやりとりがあったのでよかったと思います。
- ・連帯を強めて早急にダム建設の方向で進められたい。
- ・整備計画案策定に向けて協働作業は可能である。

この対話討論会を通じて気づかれたことは

- ・何回も出席しておられる方が多くなってきた。
- ・最初より、会の運営が良くなった。
- ・様々な立場があり、考え方はそれぞれ違うが、決して相入れないものではなく、話を聞かせて頂くと良くわかる。
- ・議論に無駄なことが多過ぎる。
- ・逆に整備局の方から討論会の内容についての感想を聞きたい。
- ・せっかく資料を出して頂いているのですから無駄な議論を辞めて、もう少し資料をよく読んで、自分の意見をきちんとまとめて報告して頂きたい。
- ・検査検討項目、…検討、確認、調査するで終わっている。期限を切ること。
- ・色々な立場の人達と議論できたこと。

この対話討論会を通じて驚いたことは

- ・熱心な方が多いのでびっくりしました。
- ・想像以上にダムの影響が大きいこと。
- ・もう少し傍聴者の意見を聞いても良かったのではないかな。
- ・傍聴者が多い。

この対話討論会の問題点は

- ・必要に応じて何回も行っておきたい。
- ・まとめの形式がある程度見える状態で議論したい。（決して結果ではなく）
- ・傍聴者にも発言させるべきだ。
- ・各グループによって、まとまりがなく、無駄な議論が多い。
- ・流域委員会の意見書（原案に対する）が既に出されている。討論会の意見も十分反映されたい。

意見交換は十分にできましたか

- ・出来ました。
- ・新しい提案が少ない。
- ・奥には奥が有り、より深くなって行くように思える。
- ・半分。

今後、この対話討論会に期待することは

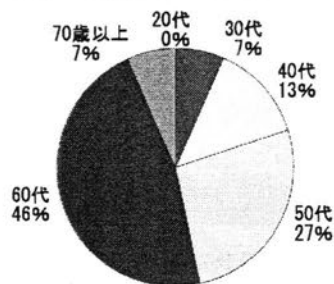
- ・自分の本来の考えにこだわらず、討論できている。今後の討論がどうなっていくのか、期待できる。
- ・調査結果について多に議論を期待する。
- ・第2段階では、行政から詳細のデータが出るので頑張っておきたい。
- ・参加されている人が、この討論会を通じて、どのように考えが変化しているかを知りたい。この対話討論会で必要性を決めることではないことは当然ですが、この対話集会の結果を待って、河川管理者が判断する際の資料とするのであれば、もっと早く結果を出すような進め方に期待する。
- ・進行方法等の発展を期待する。発表技術、司会進行方法、調整など、課題は多い。
- ・全体論、地域論に分けて、問題と対応、そのメリット、デメリットを示して議論していただければ、より建設的な合意形成に進めるのではないかな。（データがまとまるまでに時間がかかると思われる）
- ・流域/地域におけるリスクマネジメントとしての対応を論じ、その調整ができるような案が示されれば良い。
- ・討論者に増々の勉強をしてほしい。そのために、討論者へ勉強する資料を事前に渡し、読んでもらって参加していただくように。
- ・討論会を通じてのダム事業への正しい認識と相互理解への発展。
- ・「丹生」ダムについての対話討論になったのか、発言者の意識が対話討論になっていないのではないかな。（傍聴者であったか）意見が言える、主張をもって参加すべき。
- ・対話討論会の成果を一般の方に広く知らせる方策が望まれる。
- ・今後の河川整備にあたっては、計画段階でこのような討論集会を実施し、充分一般住民の意見を聴く事が大事だと思う。そのことによって無用なトラブルを回避し、時間と金を無駄にせず済むと思われる。
- ・傍聴の方からも発表して下さい。
- ・討論会が継続されるかどうか？
- ・議論結果が原案作成に生かされることを期待します。

- ・代替案とは、堤防のみですか。
 - ①受水取水量は何処で保水又は預水技術。
 - ②農業排水の一時滞留化技術は。
 - ③保水土壌化技術は。
- ・時間が短い。
- ・早く結論を出して下さい。

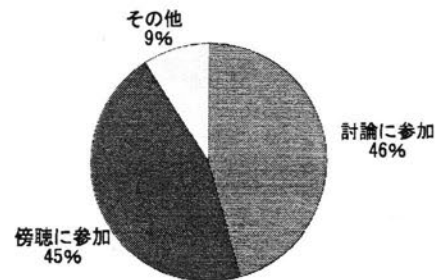
ご意見・ご感想

- ・琵琶湖の水位低下の問題が基礎原案にのっていたが、今回の討論会のテーマになっていないのは残念である。今後、この問題について調査結果を本会に提示してほしいと考える。
- ・現在討論されている丹生ダムは、既に事業として進められているものであり、今後新たに計画するものではないことは申すまでもない。然しながら、進め方とか議論をお聞きしていると、その辺のことが明確でないように感じる。即ち、丹生ダムにおける争点は①今後とも計画通りに事業を継続するか②ダム事業を中止するか③計画変更して継続するかの大きさは3つに分類できると思う。従って、それぞれのケースにおいて問題となる事項について調査が不十分なのかどうかを議論すべきと思う。例えば①については下流阪神の水需要の減があるのでダム事業者も①でいくとは思っていないので、②と③が実質的な争点であり、この2点について考えればよいのではないかな。この場合においても、基礎調査の大規模な追加を要求するのではなく、調査結果を聞いてもよく判らない故に、ダムとの係りの分析結果を“必要性を判断（議論）する材料”として提出してもらいたいと思う。そのような観点から見ると今後、調査に長年かかるようなことを要求すべきではないのではないかな。手段と目的を混合しているように感じる。
- ・丹生ダムに関する問題ではなく、自分の興味のあることを調査させる人がいる。コーディネーターが調整すべき問題である。
- ・対話討論会は、有効と思いますが、その努力と効果を考えると、費用対効果としてはバランスが取れていないのではないのでしょうか。よほど対話討論会の成果を評価しない限り。
- ・グループ対話討論会は、次回から方法を変えるべきである。傍聴者としてせっかく参加しても、グループの対話しか傍聴できません。小グループの討論会の時間を短くし、全体の討論会を長く時間をとり傍聴者としても意見を出す機会もつくってほしい。
- ・中国の北京では建国以来の大洪水という記事がでましたが、人事ではない。日本でも、淀川水系でも発生する恐れがある。備える必要があるのではないかな。水がいらない、充分だという人はどう考えているのか。水を利用する市民、住民として我慢できるか。洪水がどのように容認可能かも必要では。（例：風呂を我慢する。米がとれなくても我慢する。等）
- ・第2段階の多様な委員による深い議論に期待するところ大である。
- ・次回も参加したい。
- ・今回の事前資料検討機会は有難かった。
- ・次回の開催日は地元で行い、午前中は現場案内をボランティアで行ってはいかがですか。
- ・今日は駐車場があったが、駐車場の心配が気になり。後の会議の都合で車での参加になる。

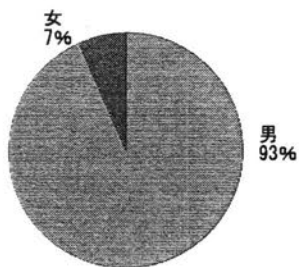
傍聴者・参加者 年齢別



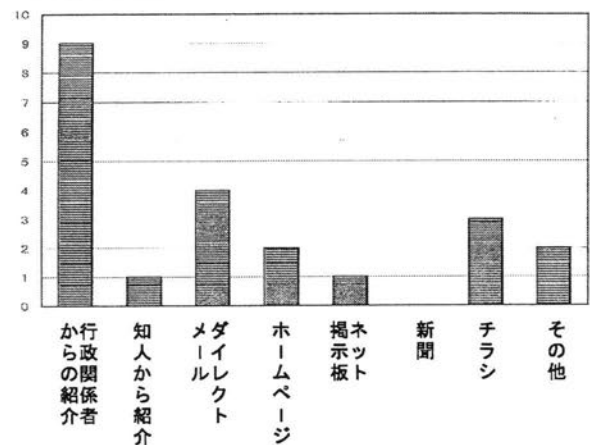
次回参加していただけますが



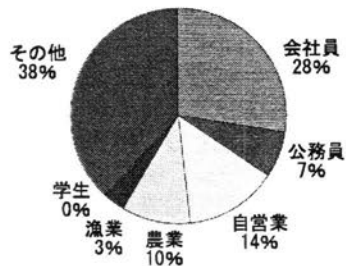
傍聴者・参加者 男女別



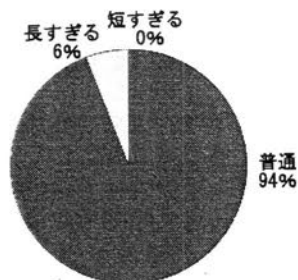
何で知ったか



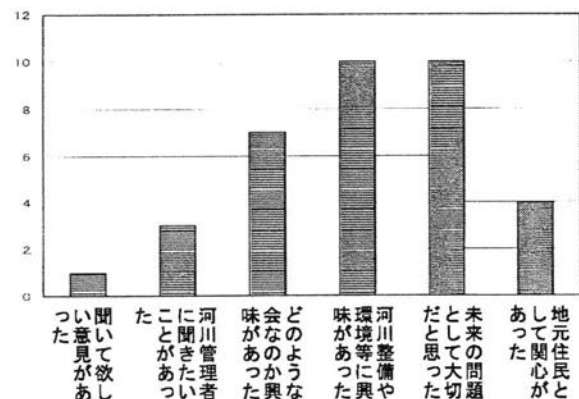
傍聴者・参加者 職業別



討論会時間について



目的



今後の予定

今年中に第2段の対話討論会を開催

※グループ内討論参加者名は、申し込み順で記載されています。御了承のほどよろしくお願いします。

お問い合わせ先

〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-5-1

琵琶湖河川事務所 調査課内「丹生ダム対話討論会」係

TEL.077-546-0844 (代表)

丹生ダム対話討論会について

本報告書は、対話討論会から近畿地方整備局宛に提出する報告書を、ファシリテーターが12月1日現在でとりまとめたものです。

平成16年12月1日

琵琶湖河川事務所

近畿地方整備局 殿

丹生ダム対話討論会 報告書

丹生ダム対話討論会

丹生ダム対話討論会をふりかえって

全体進行役／ 久 隆浩

1 対話討論会の役割

丹生ダム住民対話討論会は11月23日をもって一旦終了することとしました。残念ながら参加者全員が合意した形でダム建設の是非について一定の方向を見出すことはできませんでしたが、内容的には実り多いものであったと思います。従来、住民個別に事業者に対し意見を申し述べる機会はありませんでしたが、住民同士がお互いに話を交わす場がありませんでした。住民といっても立場や価値観の違いで意見はひとつではありません。事業のあり方について住民の声を反映すべき、というのは当然のことですが、ここで言う住民の声とはいったいだれのどのような声なのか、それを見出すことはむずかしいことです。ダム建設の是非についても、建設推進の意見と建設反対の意見があります。そこで、今回のように住民同士が対話を重ね、調整を繰り返しながら一定の方向性を見出していくことが必要となります。

2 討論会の成果

この討論会も、こうした目的のもと計7回の対話を行いました。しかし、意見の違いを埋めることはできず、討論会としての統一意見をまとめることはできませんでした。ただし、討論会はいくつかの成果をもたらしたと思います。その第一は、立場や考え方の違いを乗り越えて対話ができる雰囲気をつくったことです。そして、お互いの主張やその背景にある価値観を相互理解できたと思います。残念ながら、お互いの主張を聞きあうことで自分の主張を変えていくところまではいけなかった、そのことが統一見解が出せなかった要因です。「自分の意見を変えるだけの説得力のある意見を聞くためにこの場に参加したのだけれど」という意見を複数の参加者の方からお聞きしました。もう少し早い段階で、そして、もっと時間をかけて話し合いができれば、ひょっとすると何らかの方向性が見出せたかもしれません。時期的な点でいえば、地元の方々から「何十年もかけて事業を理解し、自分たちなりに納得してきたのに、いまさらダム建設を白紙撤回とは何事だ」という意見も多く聞かれました。

第二の成果は、参加者の意見にもとづいてダムに関わる論点の構造を整理できたことです。ダム建設に関わる論点は多岐にわたり、その構造も非常に複雑です。もつれた糸をときほぐすように、論点を整理し、そこから方向性を見出す努力ができました。しかし、あまりにも複雑な構造ゆえに、どの視点からものごとを考えていくかによって方向性が大き

く変わります。そのため、討論会として一定の見解が示されなかったと考えられます。参加者の方々は、当初は自らの主張をすることが多かったように見受けられましたが、回を重ねるにつれて何とか話の接点を見出し、折れ合いの線を見出そうと努力される方が多くなったように思います。残念ながら自らの主張を曲げて折り合うことができるまでには至りませんでしたが、論点の構造が整理でき、自らの位置づけが理解できたことが対話の成果だと思っています。

3 合意形成に固執しない

討論会の最後に、ある方から「無理をしてでも討論会としての一定の結論を出したい」との提起がなされました。しかし、すぐに「それは無理である。両論併記というかたちのほうが望ましい」という対論がありました。たしかに今回の参加者の顔ぶれではダム建設推進の意見が多く聞かれました。しかしながら、少数ではあるが建設に慎重な貴重な意見もあったことも事実です。たとえば多数決のようなかたちで無理をすれば一定の結論を導きだせたかもしれません。しかし、今回は無理に結論を出さず、それぞれの意見を大切にしながら対話討論会の報告で意見書に替えたいと思います。

法哲学者の井上達夫氏は次のように述べています。「民主制を合意による統治として表象することは実は「便利な嘘」にすぎない。民主制はその正常な作動形態においてさえ、多数者による少数者支配の制度化である。被支配者たる少数者の合意が、この支配の正当化根拠になっているわけではない。治者と被治者の同一性という民主制理解はその意味で虚構である。」（「合意を疑う」）また、井上は知的探求を例にとって次のように述べています。

「探求の成功にとって、本当に合意は不可欠なのだろうか。むしろ、対立の存続こそが、探求の生産性の条件であるとは言えないであろうか。」

今回の討論会の雰囲気を大切にするためにも、今回はあえて無理に一定の方向を出さないことにさせていただきました。対話のなかではあるときには激論を戦わせた参加者のみなさんでしたが、最終回が終了したときに「ありがとうございました」「お疲れ様でした」とお互いをねぎらいながら別れていったのが印象的でした。最終的にはダム建設に対していずれかの結論が出されるでしょうが、結論だけでなく、それを導く過程でどのような議論がなされたか、を後世に伝えていくことも大切だと考えます。また、意思決定の際には、ここに記された多様な意見を勘案して欲しいと願っています。

第1グループ

グループファシリテーター／ 横山 葵

1. 第1グループ 対話討論の経緯

第一段階（平成15年11月24日～平成16年4月4日）での4回の調査検討項目を作るための対話討論、2回の調査検討説明会（平成16年7月24日～平成16年8月22日）を経て、滋賀県の「姉川・高時川川づくり会議」（平成16年9月25日、平成16年10月30日）と連携しながら、「河川整備計画策定」への参考意見づくりとして、第二段階（平成16年10月3日～平成16年11月23日）の3回が開催された。第一段階と第二段階は、公募による参加を募った。第二段階では、第一段階で参加された方が再度参加された場合については、参加メンバーを入れ替えずに行われた。

第1グループは、第一段階では、男性ばかりの9人、第二段階では、同じく男性ばかり7人が対話討論を行った。そのうち、第一段階、第二段階の両方に参加された方々は、6人であった。（第二段階の新しい参加者は、1人）この6人の方々のほとんどは、2回の調査検討説明会、滋賀県の「姉川・高時川川づくり会議」にも参加をしていた。毎回の欠席については、1回につき1人ぐらいであった。

2. 第1グループにおける対話討論の展開と論点

第一段階の目的は、調査検討項目を作ることであり、第二段階の目的は、「河川整備計画策定」への参考意見づくりとして対話討論は進められた。

各会の展開と論点は、以下の通りである。

（第一段階）

第1回

- ・ 自己紹介、情報提供、ダムの賛否も含んだ自分の意見を自由に語りあった。
- ・ 地域に起っている様々な課題（治水への不安、脆弱な堤防、乱開発、荒れる山、地域の渇水の状況、瀬切れ、ダム建設のための移転）が語られた。
- ・ 大阪、阪神間での水余りの現状、ダム建設の費用、ダムの必要性についても語られた。
- ・ 自然の営みの複雑さと、自然と共存する考えや高時川の美しい風景についても語られた。
- ・ 治水治山の必要性。
- ・ 主な論点としては、下流域の水余りと上流域の渇水についてであり、ほとんどは、情報提供であった。

第2回

- ・ 更なる情報提供（周辺環境の現状、課題）と検討される必要のある課題についての意見が深められた。
- ・ ダム周辺環境のうち、特に山で起っている状況について多くの意見が語られた。
- ・ 地域の環境だけでなく、琵琶湖環境との関連性についても議論された。

- ・ 昔から自然と共存していた地域の暮らしと治水治山の必要性についても情報提供があった。
- ・ 主な論点は、洪水と瀬切れが起る近年の異常気象と利水も含めた地域の特徴に対する対応の方法をどう考えるかであった。

第3回

- ・ 議論をする上での前提条件を整理し、現象と課題の整理を行い、調査検討項目作りに対する本格的な意見交換が始まった。
- ・ また、地域のまちづくりや治水、利水、環境等全体のバランスの中から必要な調査検討項目が出始めた。
- ・ 前提条件として、異常気象の状況を踏まえ、総合力、自然とのバランス、ハードとソフト、個々の状況と全体の状況を考えていくことで進んだ。
- ・ 代替案や環境への影響調査、環境保全の方法、景観に対するシミュレーションなどの調査検討項目が出された。
- ・ 第21回委員会資料を勉強した上で調査検討項目に漏れがないかどうか考えることとなった。
- ・ 主な論点は、上流と下流の渇水と洪水についてとダムの賛否と自然との関係であった。

第4回

- ・ ファシリテーターで1回から3回の意見を整理したものに対しての確認を経て、調査検討項目作りを行った。
- ・ 治水・利水・自然環境に対する様々な調査検討項目が出された。
- ・ 主な論点は、自分達の調査に必要な事柄を出しつくすことであった。

(第二段階)

第1回(第5回)

- ・ 自己紹介と「河川整備計画策定」への参考意見づくりを踏まえ、ダムの賛否も含んだ自分の意見を自由に語りあった。
- ・ 治水、環境、利水について意見交換を行った。
- ・ 対話討論会の場について意見交換を行った。
- ・ 川作り会議(滋賀県)で出された意見についても議論された。
- ・ 主な論点は、治水対策の方法と必要性であった。

第2回(第6回)

- ・ グループとして「河川整備計画策定」への参考意見づくりをどう進めていくかについてと具体的な自分達の案づくりについて議論を行った。
- ・ グループとしての議論の進め方について、国土交通省が提供した資料への質問議論の新たな視点としての「地域振興」について、利水・環境について、ダムの必要性について、の情報提供と議論がされた。
- ・ さらに、自分達の案作りのための代替案について議論された。
- ・ 主な論点は、地域の声や状況については、十分語り合い言い尽くしていることもあり、具体的な形で地域の視点から参考意見づくりを行うにはどうするかであった。

第3回(第7回)

- ・ 国土交通省からの治水や渇水に対する具体案の提案があり、自分達の案づくりを行うことから「河川整備計画策定」への参考意見づくりをまとめることに至った。
- ・ 人の意見を聞きあうことを中心に対話討論が展開された。
- ・ 討論意見をまとめるにあたり、自分達グループとしての対話討論の成果を流域委員会にも参考にしていただきたいと言う意見が多く、本討論会終了後も議論が続き、最終案のまとめが、グループファシリテーターに任された。
- ・ 代替案とその案の実際の課題等が多く議論された。
- ・ グループとしての合意事項として、治水、防災対策は必要、治水・治山は必要、今後も住民対話が必要であることが上げられた。
- ・ 主な論点としては、ダム＋河道改修案か、遊水地＋河道改修案かが主な論点であった。

3. グループ対話討論を通して感じたこと

第一段階、第二段階とも、参加された方々は、どの方もととても熱心で、勉強家であり、その知識の深さが印象深かった。単なる興味本位や、その場だけの言いつばなしで終わることなく、具体的な本当の体験やそこで重ねられた経験から出てくる情報提供や意見は、回数を重ねて聞けば聞くほど、自分達の利権やエゴだけで話しているのではないことに気づかせてくれた。ダムの推進の方々、慎重なの方々また、中立的な立場の方々、細かいところまで独自で調査し情報提供する人、様々なバランスを取りながらきちんと意見を言おうとする人、また、中立的なフラットの心をもって真摯に様々な意見を聞こうとする人等の参加があった今回の対話討論会は、本当に一生懸命取り組むと言うことはどういうことなのかを学ぶことができた。最後のまとめにあたり、最終のぎりぎりまであきらめることなく、グループメンバーは、FAXの交換をする熱心さでまとめを作った。

私自身がこの討論会を通して気になったのは、この事柄に取り組むキャリアの違いが、バランスの良い知識の違いになっていた点にある。もちろん、参加者は、全て他の意見を真摯に受け止めその都度共有できる知識を増やしていた。

最後に、この対話討論会を通じ、私自身感じたことは、この地域の方々は、この土地を愛し、昔から自然と共存しながら生活をしてきたと思います。治水対策にしても、ソフト対策としての水防団組織等も充実させていても、余りにも遅れている整備への不安が募っているのだと感じています。誰よりも、地域のことをよく知り、自然への愛着が深い方々の声が、このまとめに反映されていると思っています。

①グループ 対話討論会意見 まとめ

a. 総合的な治水対策をいかに進めるか	
課 題	対 策
【 気候変動 】	* 早期の対応が必要。
・異常な渇水や洪水の発生。	* いろいろな方法で洪水リスクを分散。
【 地 形 】	* 既往最大洪水量への対応。
・天井川。	* 精神的・肉体的な住民負担の軽減。
・砂利がつみあがった状況の弱い堤防。	* 自分達の誇れる美しい自然との共存。
・時々破堤する堤防。	* 予測のできない気候変動への対策。(洪水は、川を選ばない)
・多い堤外樹木。	* 河道対応が必要。
・交差する田川ボックスカルバート。	〔課題〕
・2つの天井川が合流する。	・進む高齢化。
・乱開発により荒れる山及び濁水の長期化。	・リスク分散による様々な対策を継続しつづける為のランニングコスト。
・地下水への影響。	【 治水・治山 】
【 地域住民 】	・荒れる状況を回避する為の治水・治山。
・度重なる洪水への不安。	・自然を保つ為の治水・治山。
・洪水の度に発生する膨大な住民負担。	〔課題〕
・地域の治水対策及び下流水道用水として建設するダムのために苦渋の選択移転した。	・山で生計が立たなくなっている。従事者もいなくなった。
・地元住民は、長年の経過の中で、治水、利水、琵琶湖環境維持には、ダム必要と結論を出している。	・川での生計が立ちにくくなっている。
【地域で実施している対策】	・自然と共存しながらの生活が保ちにくくなっている。
・洪水の度に水防活動が必要。水防団の負担大。	・現在すぐに山に保水力を期待できない。
・経験に基づく住民の洪水対応。	【 河川改修 】
・遊水地となる田畑では、洪水の度に現状回復が必要。	・河川内樹木の伐採。
・繰り返される浚渫。	・地下水に影響の出ない程度の河道掘削。
・高くなる堤防が川から暮らしを遠ざける。	・堤防整備。最小限の河道改修。
・度重なる労力の提供と出費(公共費と私費)。	・自然が再生できる環境を維持する。
・治水対策は重要である。“あふれる”ことを前提とした川の計画。	・引堤による河道の拡幅。
	〔課題〕
	・田川ボックスカルバートによる改修の限界。
	・継続的に続ける必要のある河道内樹木の伐採。
	・継続的に続ける必要のある河道内の浚渫。
	・地域に誇りと愛着を持っている地域住民からの用地買収には時間がかかる。
	・引堤による自然改変への出費を含むリスク。
	【 放水路 】
	・高時川・姉川合流地点での対策としては有効。
	〔課題〕
	・放水路による地域の分断。
	【 遊水地 】
	・流出時間を遅らせることにより川への負担を減らす。
	・補償対応などで負担を軽減。
	〔課題〕
	・遊水地として利用した後の回復に多大な負担がかかる。
	・作付けができる状態に回復するには、時間と労力と金がかかる。
	・愛情をもって育てている土地に対して補償だけでは済まない事がある。
	・農地の遊水地化は、生産が不安定となる。今年の白菜の高騰等を見ても本来目指していた食糧の安定供給ができなくなる。
	・滋賀の農業は、近隣に大都市を抱えている為、そこへの供給源として脆弱野菜を取り扱っている。
	【 ソフト対策 】
	・長年の洪水被害の体験から既に体制は整っている。
	・ハザードマップの住民認識を強化。
	・既にある水防団や地域の防災に対するソフト対応の強化。
	・しっかりしたコミュニティはできている。
	〔課題〕
	・予測のできない異常気象に対する対応策が見つからない。
	・頻繁に起こる不安定状態と労力提供には限界がある。

①グループ 対話討論会意見 まとめ

b. 自然環境を保全し、瀬切れをいかに解消するか	
課 題	対 策
【 気候変動 】	* 環境維持用水を確保。(資源産卵の為の維持用水も含む)
・長く続く瀬切れ状態。	* 貯めた水による補給が必要。
・降雨量・降雪量の減少。	* 早期の対応が必要。
・異常渇水。	* 環境の回復と維持。
【 地 形 】	* 今も昔も常に自然と共存してきた暮らし。
・どんどん高くなる天井川。	【課題】
・荒れる山・川。	・予測のつかない異常気象。
・豊かな水のある日本の風景としての川の喪失。	・地域全体が、異常渇水。
・進む河川内堆砂。	・農業と川の生態系にとって水量が必要な時期が重なる。
・表流水が地下水に変わる量が多い特徴がある。	・進む高齢化。
・琵琶湖の水位調整の影響。	・琵琶湖のことなどを考慮すると圧倒的な水量が必要。
・山全体の保水能力の減少。	【 治水・治山 】
【 利 水 】	・荒れる状況を回避する為の治水・治山
・農業用水などの取水による流量の減少。	・自然を保つ為の治水・治山
【 環 境 】	【課題】
・変わる生態系。	・山で生計が立たなくなっている。
・川での生計が立たない。	・川での生計が立ちにくくなっている。
・琵琶湖の水位低下と変わる生態系。	・自然と共存しながらの生活が保ちにくくなっている。
【 水 質 】	・現在すぐに山に保水力を期待できない状況。
・高時川の水がにごっている。長期化	【 利 水 】
・河川だけでなく琵琶湖の水質も悪化している。	・農業用水などの最低限確保すべき流量の見直し。
・農業排水による汚染。	・水質悪化を引き起こす排水への対策。
・どの地域でも、水道水の水質改良策として、飲料水をペットボトルで販売している状況である。こんな今日の環境を20年前に考えることができたか？	・農業用水の節水案として全管バルブ付給水案を促進するべき。
	【課題】
	・農業者の必要量も確保できにくい時がある。
	・必要時には、圧倒的に水が不足する。
	・夜間にも水は、必要。
	【 補 水 】
	・余呉湖補渇水第3期の実施。
	・地下水・伏流水の利用。
	・新たな溜池による補水。
	【課題】
	・地域全体が、異常渇水。
	・それぞれの施設の維持管理。
	・本来自然への見えない影響。
	・琵琶湖への補水には、圧倒的な量の不足。
c. 利水機能をどう捕らえるか。	
課 題	対 策
【 気候変動 】	* 農業用水が必要とする最低限水量の確保。
・降雨量・降雪量の減少。	* 地域としての生活用水の確保。
・異常渇水。	* 生態系維持のための(=環境維持流量)の最低限水量の確保。
【 地 形 】	* 漁業の為(=魚の遡上他)の最低限水量の確保。
・使えなくなった井戸もある。(地下水低下)	* 水のコントロール
・荒れる山・川。	* 既往最大渇水でも地域の断水を回避する対策。
【 利 水 】	* 農業用水の歴史を知る必要がある。
・農業用水などの取水。	* 異常渇水時の下流域への補水も考慮した対策。
・地域の生活用水。	【課題】
・京阪神の水需要。	・予測のつかない異常気象。
・上下流域の調整。	・地域全体の異常渇水期。
・琵琶湖総合開発事業の経緯。	・農業と川の生態系にとっての水量が必要な時期が重なる。
	・滋賀県の人口増。

①グループ 対話討論会意見 まとめ

c. 利水機能をどう捕らえるか。	
課 題	対 策
【 地 域 】	
・無くなりつつある豊かな水との暮らし。 ・既往最大渇水時には、地域の断水が必要。	
d. ダム建設の影響は何か	
現状課題	ダム建設の影響
【 気候変動 】	< 課題の解消 >
・異常な渇水や洪水の発生。	【 治 水 】
・降雨量・降雪量の減少。	・早期の対応が可能。
・予測のつかない気象変動。	・必要最低限の地域の改変(河川改修など)を行うだけで、戦後、既往最大洪水量への対応が可能になる。
・洪水、渇水頻度増加の傾向。	・地域の頻繁に度重なる労力の提供と出費(公共費と私費)の軽減。
【 地 形 】	・現在すぐに山に保水力を期待できない状況にも対応。
・天井川。	・予測のできない異常気象に効果的な対応が可能。
・砂利がつみあがった状況の堤防。	・頻繁に起こる不安定状態と労力提供に対して効果的な軽減が可能。
・2つの天井川が合流する	【 自然環境の保全と瀬切れ解消 】
・荒れる山・川。	・予測のつかない異常気象への効果的な対応が可能。
・表流水が地下水に変わる量が多い特徴がある。	・地域全体の異常渇水に対しても効果的な対応が可能。
【 治 水 】	・農業と川の生態系にとっての水量が必要な時期が重なる時の環境維持用水の効果的な確保も可能。
・早期の対応が必要	・琵琶湖最低水位の改善及び急激な水位変動の緩和。
・既往最大洪水量を河川で対応するためには、膨大な地域の改変が必要。	【 地域への総合対策 】
【 自然環境の保全と瀬切れ解消 】	・地域の治水・環境維持流量の確保の両方を解決する。
・貯めた水による水補給が必要。	・治水・治山が可能な産業が生まれる可能性。
・環境の回復と維持の為に流量が必要。	・新たな自然再生が可能。
・遊水地と河川改修は、瀬切れ解消にはあまり役立たない。	・自然環境と共存する生活の復活。
【 利 水 】	・ダム建設を併用すること以外に課題を解消できる代替案があれば具体的ないくつかの案を示しこれを検討する。
・農業用水などの取水。	・自然環境への影響を直接受ける自然を生業にしている地域住民が、ダムが、自然への影響を及ぼすことが十分わかっても様々な対策に加えたダム建設に賛成するのには、地域の危機的状況を日々の生活の中で熟知していることに他ならない。
・地域の生活用水。	・ダム建設を望む漁業者は、ほとんど見られない中でのダム建設推進は、地域の課題解決の方法が他に見当たらない為。
・京阪神の水需要。	・自然環境と共に共存してきた地域住民は、現在の危機的状況の解決の難しさを体験。(二者択一の中でのダムの推進)
・上下流域の調整。	・既往最大渇水に対する地域の断水の回避。
・琵琶湖総合開発事業の経緯。	
・農業と川の生態系にとっての水量が必要な時期が重なる。	< 新たな課題 >
【 環 境 】	・京阪神の水需要変化。
・変わる生態系。	・水を貯めることによる環境の変化。(水温の変化、水質変化等)
・琵琶湖の水位低下と変わる生態系。	・構造物の耐用年数。(ロックフィルダムの場合を除く)
・琵琶湖の水環境全体が人工的なコントロール下にある。	・ダムのためのメンテナンスコストの発生。
【 地域住民 】	
・洪水の度に発生する膨大な住民負担。	
・地域の治水対策として建設するダムの為に移転。	
・進む高齢化	
・無くなりつつある豊かな水との暮らし。	

①グループ 対話討論会意見 まとめ

e. 地域振興をいかに図るか	
課 題	対 策
【 気候変動 】	* 壊れた自然の再生。
・長く続く瀬切れ状態。	* 新たな地域産業の創出。
・降雨量・降雪量の減少。	* 自然との共存の暮らしを守れる環境整備。
・異常渇水。	* コミュニティの維持。
【 地 形 】	* 治水治山への対策。
・荒れる山・川。	* 自然密着型産業の再生。
・豊かな水のある日本の風景としての川の喪失。	* 自然と共に共存してきた文化、歴史、民族の保護。
【 利 水 】	* 過疎化の歯止めとなる魅力づくり。
・農業用水などの取水による流量の減少。	* 山林の公有化による自然公園化。
【 環 境 】	〔課題〕
・変わる生態系。	・高齢化。
・山での生計が立たない。	・持続可能な産業の創出。
・川での生計が立たない。	・収支の合う自然密着型産業の再生。
【 地域住民 】	・進む高齢化。
・洪水の度に発生する膨大な住民負担。	・琵琶湖のことなどを考慮すると圧倒的な水量が必要。
・地域の治水対策として建設するダムのために移転。	・乱開発への歯止め。
・進む高齢化	・琵琶湖総合開発で計画された6ダムの内3ダムは、まだ完成していない。40T/SIは、供給しているが計画による補給水は、どうなっているのか？
・なくなりつつある豊かな水との暮らし。	
・進む過疎化	
f. 関係機関による調整の場の設定	
課 題	対 策
・農業用水など(利水と排水)の抜本的な改善対策が取れない。	* 農林省との話合が必要。
・国や県、地域の連携がないと解決できない問題が多い。	* 国や県、地域の実現可能な連携のための話合の場が必要。
・地域(自然など)の情報不足による自然破壊が行われる可能性がある。	* 自然環境の仕組みが再生できる整備を行うための体勢が必要。
・整備と地域振興など縦割り行政では、解決できない問題がある。	* 整備にあたっては、地域との連携が必要。
	* 行政間の縦割りを無くした議論の場が必要。
	* 今回のような討論の場は重要。
	* 縦割りになっている行政を住民自身が繋ぎ合わせる。
	* 地域住民への窓口の一本化が必要。

第2グループ

グループファシリテーター／ 森川 稔

1. グループ討論会の経過

第2グループでの主要な7つの論点について、7回の討論会を通じてだされた意見を整理した。また、最終回到国交省より提示された資料（治水対策及び異常洪水対策）に対する意見を整理した。なお、第2グループには、ダム建設推進とダム反対ないし慎重の両者が参加しており、7回の討論会を通じて、丹生ダムに対する考えの違いを相互に認識することはできたと思うが、合意にはいたらなかった。

2. 異常気象について

今後予想される異常気象を十分に考慮して、ダム建設の必要性を検討する必要があるとの意見が出された。これに対して、異常気象は日本全体で起こっており、異常気象対策として丹生ダム建設を進めるには国民的なコンセンサスが必要との意見が出された。

3. 治水について

高時川流域では、これまでに数百回にわたる洪水被害を受けてきたことや、今日なお脆弱な堤防のもとで不安な生活が続いていることから、「安心・安全」な生活が一日も早く実現することを流域住民は強く望んでいることが述べられた。こうした状況に対して、高時川については、治水が最優先課題であることについては合意がなされた。そのために堤防強化が必要である、ダムが必要である、との意見が出された。一方、ダム、堤防、浚渫などの治水効果と地域への影響を明確にする必要があるとの意見が出された。

4. 利水について

下流域での水需要が減少していることから、利水からみた丹生ダムの必要性については再考すべきだとの点については合意がなされた。一方、今後増加が予想される高時川流域での水需要に対応していくことが必要である、との意見が出された。

5. 環境について

瀬切れの発生は、少雨化などの自然的な要因によるとの意見と、頭首工等での農業用水や生活用水の取水などの人工的な要因によるとの意見に分かれた。また、取水の現状について、農業プランに基づいているとの意見に対し、農業プランそのものの見直しや、取水量や水の使い方について、もっと努力や工夫（節水）が必要である、との意見がだされた。なお、瀬切れ対策は、丹生ダムの多目的のなかのひとつ、ないし副次的な機能である、ということについては合意がなされた。

琵琶湖の環境を保全していくうえで、その水位を保つことが必要であり、とくに洪水期に水の補給機能を有する丹生ダムは重要である、また、瀬切れ対策として、ダム貯留水によって安定した流量を確保することが必要であるとの意見が出された。これに対して、ダム建設そのものが環境破壊であり、ダム建設による環境へのプラス要因とマイナス要因を比較検討すること、また、洪水期にダムからの給水による10数センチの水位上昇は評価できない（そのために巨額な投資を行うことは納得できない）との意見がだされた。さらに、水位低下は期間限定（一時的）のものだが、ダムの影響は通年であり、ダムそのものが老朽化していくもの、との意見がだされた。

環境への影響については、シミュレーションではなく既設ダムでの影響調査、また、ダム建設の影響をもっとも受ける要素（例えば水生昆虫など）について調査が必要だとの意見がだされた。

6. 地域の取り組みについて

地域住民はダム建設について苦渋の決断をし、水没地域の住民が移転するなど、地元の大きな犠牲のうえにダム建設の話が進められてきたことを十分に理解する必要がある、との意見がだされた。また、ダムが建設されるならば、それを生かした地域振興を図っていこうと地元では考えている（観光のためにダムを建設するわけではない）。ダム完成は終着点ではなく出発点と考えている、との意見がだされた。

7. 財政について

財政は逼迫しており、子孫に負の遺産（負債）を残すべきではない。予算の圧縮や費用対効果を考える必要があるとの意見がだされた。

8. 国交省の資料について

6つの治水対策案（滋賀県作成）のなかでは、「ダム＋河道改修」が、流域を守る最善の策であるとの意見がだされた。また、地域が望む治水対策を早期に実現してほしい、との意見が出された。一方、建設コストや環境への詳細な影響が明確になっていない時点で、治水対策案の優劣を比較することはできない、との意見がだされた。さらに、治水対策は予算のつけ方（直轄にする）で変わることから、工期短縮は可能との意見がだされた。

渇水対策については、洗堰からの放流量のアップによる琵琶湖制限水位の上昇（－20 cm→－10 cm）、渇水期における取水制限のルール化、フラッシュ放流のさらなる検討で対応できるのではないか、との意見がだされた。

第3グループ

グループファシリテーター／ 中村 伸之

1. 対話討論会の経緯

前半（第1回～4回）では、参加者が持つ丹生ダムに関するあらゆる論点・疑問点を列挙し、それぞれに対する意見や思いを出し合い、調査検討項目へと整理して行った。

調査検討内容説明会をはさんで、後半（第5回～7回）では、それらに対する質疑応答や意見交換が行われた。

2. 浮び上がった論点

前半では、「コストや税金の使い道としての妥当性」「ダム以外の代替案の可能性」「体験に基づく水害の恐ろしさ」「ダム建設の環境への影響」「河川整備の現状と問題点」など論点が列挙され、「治水・利水を総合的に捉えた、バランスの良い整備の組合せとは、いかなるものか?」「生活・文化・環境の一体的な保全は可能か?」「コスト負担（税金の使い道）に対する、流域の人々と地元コミュニティの関心のあり方」など、いくつかの論点を複合的に捉える機運が生まれてきた。

後半では、漁業関係者が新たに参加されたこともあって、「瀬切れ（地下水の不足）や貯水池の水質悪化」「流域全体の水環境改善に対する寄与」「河道改修による地下水への影響や工事中の濁水」などが、より地域や生活に密着した形で検証され、国交省側の調査検討内容に一定の理解が得られた。

また第7回においては、遊水地整備案は地元住民の感覚から言うと困難であること、渇水対策においては琵琶湖の水位が下がることを極力回避し、いかなる場合でも-1.5m以上を維持しなければならないことが語られ、客観的なデータに基づいていることで「ダム+河道改修」案が高く評価された。

3. 最後に強調したいことは？

対話討論会を締めくくるにあたって、最後に強調しておきたいこととして、以下の意見が述べられた。

「ダムの治水・利水面の効果を正に評価し、今後、バランスの取れた議論をしてほしい。環境面だけを重視して議論すべきでない。」

「次世代を担う子どもたちも、かつてのように川で遊び、自然に親しんでほしい。川の恩恵を体験して身につけることが大切だ。」

「水質の悪化を、身をもって感じている。農業用水の問題を、国交省と農水省が一体となって考えるべきだ。」

「異常気象による災害の増加が懸念される。百年確率以上の降雨も視野に入れた対策づくりが必要であり、人命を第一としたソフトな施策を充実してゆかなければならない。」

第 1 グ ル ー プ 意 見

第1グループメンバー

丹生ダム対話討論会(1)参加者

石	山	一	光
河	合	亮	二
岸	上		広
谷	口	浩	志
轟		保	幸
鳥	塚	五	十三
中	川	泰	三
野	村	東	洋夫
三	國	昌	弘

丹生ダム対話討論会(2)参加者

河	合	亮	二
岸	上		広
轟		保	幸
鳥	塚	五	十三
中	川	泰	三
三	國	昌	弘
村	上		悟

第1回
丹生ダム対話討論会(1)
第1グループ

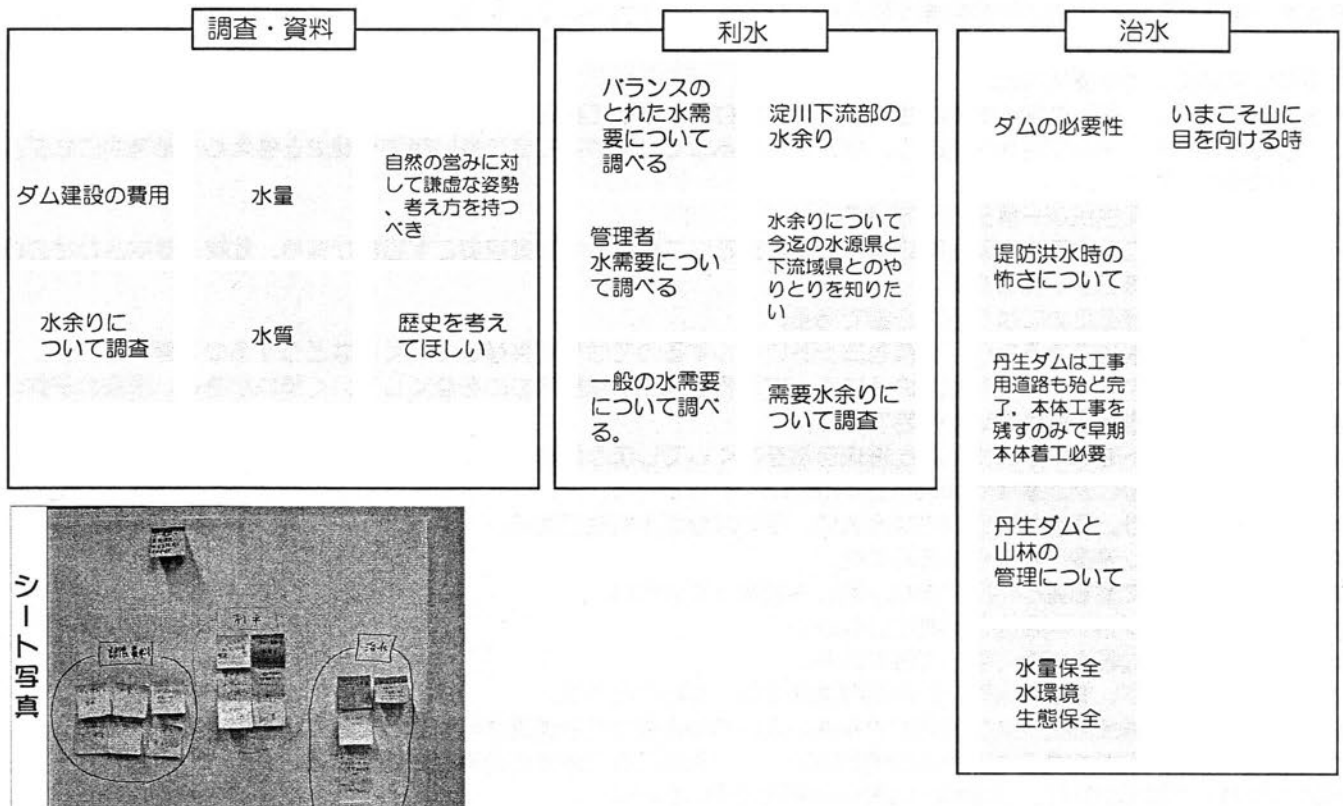
【 討論参加者 】

・中川泰三・鳥塚五十三・岸上広・轟保幸・野村東洋夫
・河合亮二・三國昌弘・石山一光・谷口浩志（敬称略）

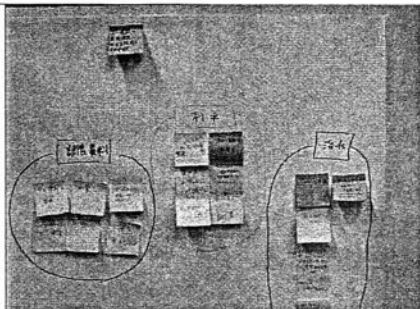
グループファシリテーター： 横山 葵（有限会社 エイライン）

第1回完成 シート

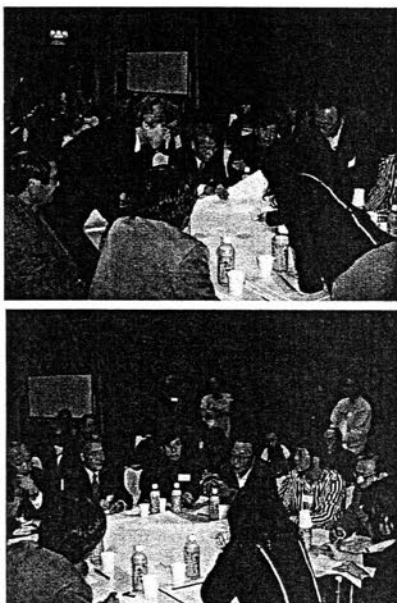
ダム建設の意
思決定におけ
る住民のかか
わり方



シート写真



第1回 討論風景



第1回 全体報告

報告者：鳥塚五十三

サブ報告者：野村東洋夫

- ◎ ダムの有効性について（代替案はないのか）
- ◎ 治水→淀川水系の最北にある高時川にとって林地の重要性
天井川の問題について重要である。
- ◎ 生物環境と背切れの問題を考える必要がある。
- ◎ 利水→水余りの一方、滋賀県琵琶湖の水位低下
水量と水質の保全
↓
調査が必要
- ◎ 建設コストについても考えていくべきである。
- ◎ 歴史を振り返りつつ、ダムの必要性を考える。
- ◎ 人間の手による開発の中で失くしたものに注目していく必要がある。

討論中に出た意見

- ・危険な堤防の近くに住む人にはダムが必要である。
- ・日本の特質(洪水の継続時間は短いが多い)から洪水対策としてダムが有効であり、ダムでピークカットをするのが良いのが、日本の地形・気候である。
- ・住民が、公共事業・ダム事業建設にどのように関わっていく事が良いのかに感心があり、さらに、無関心層の人に対するアプローチをどうするのかも含めて考えてゆきたい。
- ・流量の安定保持によって、生態保全が望まれると考える。
- ・治水が重要であり、高時川、姉川など、砂利が積みあがった状態の堤防は危険である。
- ・地元の川では、瀬切れが起こっており、渇水のため鮎の産卵が見られない時がある。
- ・スキー場開発のため切り開かれた斜面は降雨時川に泥を流している。
- ・ダムが、中止になると民間の開発業者が参入し、さらに、山を荒らしてしまう。
- ・ダムができれば山林を公有化することも計画にあるようなので、山の環境が守られ将来的には、自然公園化し市民の交流の場にしていけることが望まれる。
- ・丹生ダムの計画は、ダム建設予定地の住民は移転も終わり、本体工事を残すのみなので早期着工が必要である。
- ・これまでに地元が、ダム反対から始まり、今日にいたるまでに費やしてきた長い時間や歴史を考えると感情的にもダムが中止は受け入れにくい。
- ・洪水時の怖さは地元住民が一番分かっている。
- ・台風などの際に起こる水圧による堤防の脇から湧き出るにこった水は破堤をおこす恐れがあり、危険と背中合わせの環境は、住民生活の毎日を不安にする。
- ・地元住民の財産を守るためにはダムが必要である。
- ・自然のいとなみは複雑であるため、自然をコントロールするのではなく共存していくにはどうするかを考えるべき。
- ・ダムは、現時点での人(治水・利水)の役に立っているが本当に重要なものをなくしていく恐れがある。将来の子供の為に残せる環境をも含め考えていくべきである。
- ・自然調査等にコストをかけないでいると将来自然をなくしてしまう恐れがある。
- ・淀川下流部では新規のダム事業で水利権を獲得しようとしている。
- ・大阪、阪神は水余り。京都はマクロでは水余り。宇治は暫定水利権である。
- ・利水を求めているダムの建設の必要性はあるのか。
- ・高時川は淀川水系で最も美しい川であり、美しさを保てたい。
- ・大阪、阪神は丹生ダムの水利権を必要としない。
- ・山で働いていた人の収入がなくなってきている。
- ・この地域のブナ林が、もし残っていたら世界遺産になっていただろう。
- ・日本の気候風土を考えると木材が必要だが海外の安いものを使うため需要がなくなってきている。
- ・山は放置すれば、自然に帰るといのは間違いで、人が入ることで自然との共存が保たれる。
- ・高時川は渇水の時期があり、工業用水に取られ必要な時に水がない。
- ・ダムを起爆剤にして自然と密着型の産業が必要。
- ・大阪・阪神で水が余っているにもかかわらず、立てられている必要水量の予測値が問題である。
- ・実際に今水が余っているか調査中で、丹生ダムが完成してこそ水余りの結論がでるのではないか。
- ・水利権が増えた。現在、水余りだとは言えない。
- ・H6年のような渇水時でも水余りと言えるのか？
- ・渇水時は別に考えるべきであり、渇水時は利権など言てられない。
- ・H6年の渇水時も、琵琶湖の水位は-123cmで、大阪・阪神で減圧給水はあったが、断水はなかった。
- ・生活用水は最優先考えられている。
- ・H6の渇水(大渇水)は頻繁に起こるものではない。琵琶湖の水位は-150cmまで下げてもしかたがない、-200cmまで下げること考えられている。
- ・琵琶湖の水位を下げれば生態が破壊することもあり、自然環境についての観点が無い。
- ・量の問題で手一杯で水質にまで及ばない。
- ・河川管理者が水環境とはどういうものか見直し、その後投資を行うべきであり、水量の問題よりも水質の問題が重要。
- ・治水・利水が重要だがそれがダムに結びつくのか？他の方法があるのではないか。

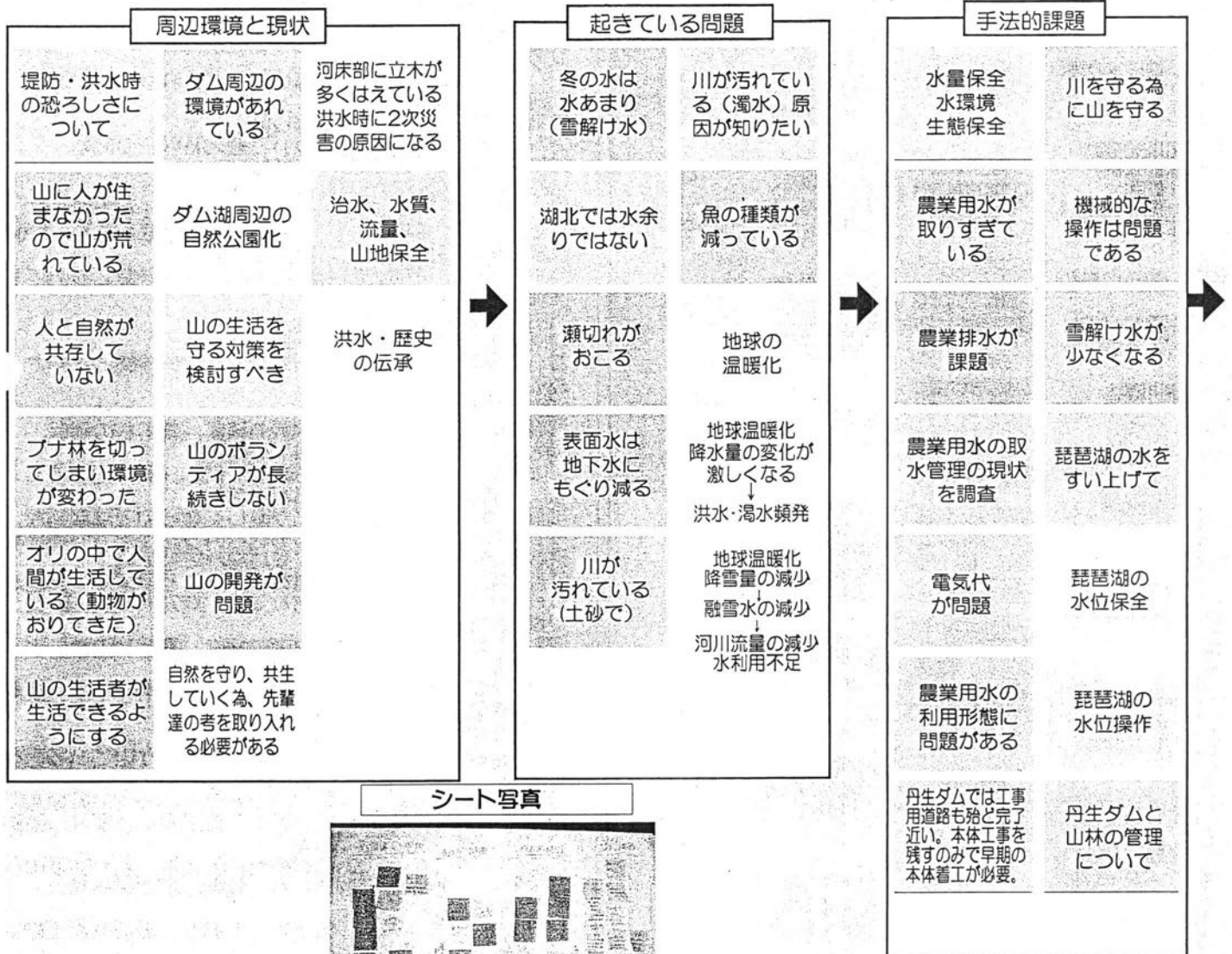
グループファシリテーターの意見

1グループにおける第1回目は、参加者が話したいことをポストイット3枚に短い文章で記入し、自己紹介を行いながら、ひとつの文章を取り上げそれについて説明していくことから始めた。その後、それらの意見について、議論することとした。第2回目は、第1回目から議論になった水余りについて議論を行い、次に、残りのポストイット2枚(話したいこと)を聞きあい、その後、それらについて議論を行い、出された意見を知りたいこと(調査)や、検討してほしいことに置き換える作業を行うとともに、討論参加者共通意識である自然環境等をテーマに話をすすめていく予定である。

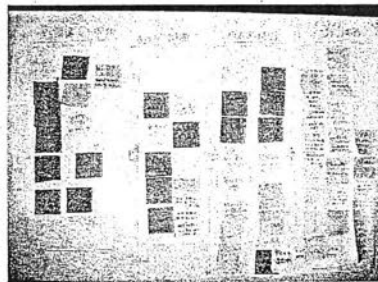
第2回
丹生ダム対話討論会(1)
第1グループ

【 討論参加者 】
・鳥塚五十三・岸上 広・轟保幸・野村東洋夫
・河合亮二・三國昌弘・石山一光・谷口浩志（敬称略）
グループファシリテーター： 横山 葵（有限会社 エイライン）

第2回完成 シート



シート写真



第2回 討論風景



グループファシリテーターの意見

1回、2回目と広範囲で様々な御意見が参加者の皆様方からいただきました。まず、第1段階の区切りの会になる次回を全員が議論のしやすい場にするために、今までの御意見を拾い出しテーマごとに分類したのを使いながらいろいろな角度から議論を深め、第一段階の到達点である調査検討の為の意見項目を一つでも多く参加者の方々の意見が詰まったものにしていきたいと考えています。

◎ダム周辺環境の現状について

1. 治山
2. 利水
3. 環境

- ・ 山全体の保水能力低下が起っている。
- ・ 伐採等が原因で川が汚れている。
- ・ 山の環境の変化で動物達が里山に下りてくる。

◎洪水と瀬切れ

- ・ どのように考えていくかが重要である。
- ・ 農業用水についての議論があった。

検討課題

環境水の確保	安全に生活 できる環境を	水余りについて 調査 ダム建設の費用 ・水量・水質	3つのゾーン に分けて 考える
河川維持用水 水量の確保 ・雑用水、 ・魚類の遡上降 下に必要な水量	丹生ダムの 「環境改善容量」 (琵琶湖)	自然の営みに 対して謙虚な 姿勢・考え方 を持つべき	淀川 から 琵琶湖
・高時川で確保 ↓ 琵琶湖・淀川 にも役立つ	流量に対する 対策を検討する	ダム建設の意 思決定におけ る住民のかか わり方	ダムサイド 上流
河川環境 ・心の安らぎを 与える ・水と緑がある ・いつも水が流 れている ・魚等が住んで いる	他の方法で対応 することはでき ないかを十分に 検討されたか、 確認する必要がある	淀川下流部の 水余り	高時川河口 から ダムサイド
・魚類には砂、 小石が必要	影響の及ぶ範囲 をできる限り広 く深く知り、考 えることが大切	水余りについ て今までの水 源県と下流府 県とのやりと りを知りたい。	
討論会・意見 交換の場作り、 対立の解消	河川の流量が 絶対的に減少し ている。理由は 何か。厳密なデ ータ収集が必要	需要水余りに ついて調査	
ハザードマップ、 防災訓練、 防災への伝承、 ソフトの強化	高時川の 環境保全	管理者は水 需要につい て調べる。	
地域住民の 思い (ダム周辺)		一般の水需 要につい て調べる。	

討論中に述べた意見

- ・ 事業が環境などに影響を及ぼすことについて考える必要がある。
- ・ ダム以外の他の方法で対応していくということが十分に反映されているか。
- ・ 事業に対して納得させてほしい。
- ・ ダム湖周辺の自然環境について考えるべきである。
- ・ 地域住民の思いを分かっている。
- ・ 高時川の歴史を知ってほしい。
- ・ 総合的に考えてひとつのことを決めていくべきである。
- ・ 治水水質と流量について十分検討する必要がある、同時に隣地保全も行なうことが必要である。
- ・ ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
- ・ 治水の歴史を広めてほしい。
- ・ 討論会の仕組みを充実させる。
- ・ 対立の構造を取っ払っていろいろな意見を聞くべきである。
- ・ 望ましい川の実現。
- ・ 環境水(河川維持用水、水量の確保、雑用水の確保、魚の遡上に必要な水の確保)の確保。
- ・ 川のあるべき姿、心の安らぎを覚える、魚が住んでいる、川底に魚が産卵できる石がある。
- ・ 地球温暖化。降水量の変化が激しくなるのではないか。
- ・ 日本は雨の多いほうになるのだという話が出ているため現状で考えるのではなく未来に向けて考える。
- ・ 琵琶湖に流入する川の流量を確保すると琵琶湖や琵琶湖から出て行く川に影響があり、このバランスをとることが重要である。
- ・ 雪が少なくなってきた。北湖の水は、雪解けの水によって循環し、生態系が保たれてきた。
- ・ 雪解け水は、自然のダムの役割を果し、その水は、農業の灌漑用水期まで確保されていた。
- ・ 農業優先の水利用になってきている。
- ・ 琵琶湖の水位操作によって環境など障害が出ている面を考える。
- ・ 環境面で考えると、人間がコントロールしている地点でその上下で何が起きているのかを把握し、個々に議論し全体を考えるべきである。
- ・ 高時川にいつも水のある状態を作るには、どうするのか。
- ・ 冬の水は、琵琶湖ではあまり、夏場は水が足りない。
- ・ 100点の答えはない。
- ・ 姉川の産卵流量は、大変減っており、瀬切れが生態系に起こす影響が大きい。
- ・ 瀬切れが起こらなくても、姉川の産卵流量は回復していない。
- ・ 7月末から11月22日まで瀬切れのままであった。
- ・ 琵琶湖の水位操作でも環境がかわる。
- ・ 琵琶湖の湖底部に水が入っていくなど、現在起こっている不自然な環境に対しては、人為的な操作が必要である。
- ・ 民間公共など周辺環境での乱雑な工事(環境破壊)をしてしまっていることに配慮されていない。
- ・ 姉川は、南風の影響を受け、高時川は、北風の影響を受けている。
- ・ 山の崩落が進んでいる。ブナの木を切ったのは、大きく影響をしている。
- ・ 琵琶湖や高時川の魚の種類が減っている。
- ・ 集落に、サルやくまが降りてきて逆に人間が檻に入って生活しているのは、山に(上流に)人間が住んでないからではないか。
- ・ 人間と自然が共存していた時代に生きていた現在の70才から80才の人たちにノウハウを今のうちに聞いておく必要がある。
- ・ 川を守るには、山を守るべきである。
- ・ 琵琶湖の環境にとっては、農業廃水が課題である。
- ・ 皆が恩恵を受けたが、土地改良事業にも問題があった。

- ・ 山を守るための試みがいろいろあるが、ボランティア活動等は限界にきている。生活収入を得る状況を作るべきである。
- ・ 治山治水に尽きる。
- ・ 瀬切れ防止にポンプアップの仕組みが有効。
- ・ 電気代がかかる
- ・ 高時川も、姉川も流量が多かった頃には、農業用水としてとられても大丈夫であったが、その頃と自然環境が変わってきている。
- ・ 夜も昼も水量が同じで農業用水が出て行くことは、この操作の原点を見直すべきである。
- ・ 頭首工で水を取るのではなく、琵琶湖の逆水をポンプアップして使うと金がかかる。
- ・ 高時川は扇状地であるので表流水が地下水に変わる量が多い。これの利用はないのか。
- ・ 質の問題の中で大きく向上するように考えるべきだ。
- ・ 機械的な操作で水量だけ満たしても生態系には、悪影響を及ぼす。

第3回 全体報告

報告者： 野村東洋夫 サブ報告者： 鳥塚五十三

◎水源地域の問題

- ・ダム中止の場合、水没予定地の計画、検討すべきである。
- ・ダム建設の話は下流圏の利水の要望が強かったから起きた問題であり、その約束はどうなっているのか知りたい。
- ・ダムの自然公園化について、濁水時にダムはきれいなものではない。ダムの大きさから考えると裸地が大きな面積をしめることが予想される。CGなどで景観を目に見えるように。

◎治水

- ・ダムをつくらない場合、どういった代替案があり、その効果を比較検討してほしい。合流点までの上流からショートカットも代替案として検討してほしい。
- ・異常気象などを考慮すると30年では短い。100年先までを見すえた検討をしてほしい。

◎利水

- ・農業用水、全体を見ると必ずしも適正ではない。余っている場所足りないところがある。用排水を分けるべきである。農業従事者の減少によってきめ細かな管理ができていない。

- ・国交省は農林省と合同でこの問題にとりくむべきである。

- ・京都の利水調査をしてほしい。

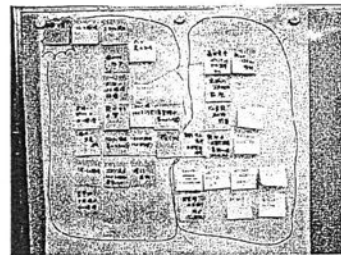
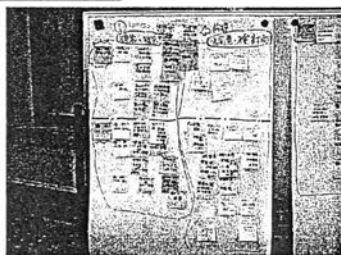
◎環境

- ・高時川のにこり。堆砂が進んでいるので、これらの調査をする必要がある。
- ・琵琶湖の環境改善は丹生ダムの1つの目的である。
- ・丹生ダムをつくらなくともいい。シミュレーションをしてほしい。

補足

- ・丹生ダムについてという建前上、原案での議論が出されていないこれは問題点はないのかという事になり、次は原案を勉強し検討していく。
- ・利水と環境を同時に深めないといけな問題が多い。
- ・高時川と琵琶湖をどうするのかという事も考慮し、生態等についても話し合う。

シート写真



討論中に出た意見

- ・第2回委員会資料を勉強し、調査検討項目にもれがないかどうか第4回までに考えておく。
- ・お互い認識しあう必要がある。
- ・地域の人の河川改修とダムの必要の認識を共有する必要がある。
- ・高時川の上流はそのままで、逆に下流は都市化を進めすぎた。
- ・上流と下流の約束があり、下流が水利権をほしいということが始まっている。
- ・下流圏と滋賀の信頼関係が大事。
- ・歴史の中で建設省が、地元ダムを頼んだ事がはじまりである。
- ・下流のために、移転した人の心のケアをどうするのか。
- ・もし中止になった時の水没予定地を考える必要がある。
- ・ダムが作られるとした時にダム完成までの間も整備する必要がある。
- ・下流圏としては見直す事に責任を感じる。
- ・地域整備とダムを見直すことは切り離して考えるべき。
- ・中止になった場合でも整備について考えるべき。
- ・水没地域は納得するだけのケアはされている。
- ・水没地域は開発が決まったとき、30%の保証をもらった。
- ・漁業者は生活を追われてしまっている。
- ・移転した人々は納得したというよりも苦渋の選択をしたということを知って欲しい。
- ・既存のダムを見たがきれいではない。丹生ダムは治水容量がある。環境改善容量がある。全部出したら80m水位がさがる。裸地がでて、殺風景な光景が発生する。それが冬場まで続く可能性がある。景観についてCGなどで景観検討をする必要がある。
- ・治水、利水の枠内で考え、人間の生活を豊かにするもの考えるべきでは。
- ・下流にも何年かに1回濁水、洪水はありえる。
- ・自然の脅威は大きい。我々は先人の知恵になるべきである。
- ・洪水には、様々なパターンがある。
- ・洪水は、7月～9月におこることが多い為、この時期の水田には、ダメージが強く、収穫に大きな影響を及ぼす。
- ・代替案としては河川改修、引堤、河床掘削などが考えられる。
- ・代替案としての遊水池は平野部では考えられない。
- ・水田利用は個人のものであるから遊水池としての利用はむずかしい。
- ・森林保全は治水には対応できない。
- ・ダムの容量にもよるが、異常気象に向けてダムだけに治水を頼ることは危ないのではないのか。
- ・治水はダムだけではなく河川改修もある。
- ・代替案としてダムだけではなく、溜池をつくる事も考えられる。
- ・水環境にはハード、ソフトの問題点がある。
- ・ダムは建設を反対したとしたら、災害が起きた場合の責任はもてない。
- ・1つだけに頼るのではなく、いろいろな方法に分散すべきである。
- ・いろいろな事を検討してから答えは出すべきである。
- ・治水について。丹生ダムをつくらなかった結果、代替案でいけるのか検討してほしい。
- ・堤防について、破堤するところとしないところを調査する必要がある。
- ・農業用水などの河川をつかって琵琶湖にショートカットできないかを検討してほしい。
- ・地下水路を何百kmもつくったのだからそれらを作ることができないか。
- ・水利権はふえてはいない。絶対量が減っている。
- ・高時川は瀬切れと洪水の繰り返しである。
- ・水利権と治水をほったらかした結果である。
- ・利水について、京都府はどうなのかを調べてほしい。
- ・琵琶湖の水位が低下している。琵琶湖のコイ科の産卵に影響。
- ・維持流量が必要である。
- ・異常気象などを考慮すると、30年ではなく100年は見て検討してもらいたい。
- ・農業用水がもったいない使われ方をしているのではないのか。
- ・上から下の田にまわしていないのではないのか。
- ・省庁がかわると水でも見方がかわってくるのでは困る。
- ・上から下に田んぼの水をまわしているの、田植えの時などは下の田に水が来ない所もある。
- ・農業排水が余っていて、その水を戻すことで濁水となる。
- ・農業政策に問題がありすぎる。
- ・林地保全。
- ・泥がそのままの工事は滋賀県も余呉町もまったをかけるべき。
- ・農業は大型化して水まで管理できない。
- ・バルブがない田んぼでは、水のムダが発生する。
- ・環境の方がウエイトが高い。
- ・河床が高くなっている。5%±10%砂実際は20~30土。場所によって違う。
- ・砂利採集が必要である。
- ・下は砂がたまる。
- ・高時川上流の堆砂の原因調査。
- ・台風があるとマイナス水位でドーンと水がくると砂をもってくる。
- ・堆砂がたまると堤防を上げる。その繰り返しは今の環境を作ってきている。
- ・冬の北風の影響も知る必要がある。

第4回
丹生ダム対話討論会(1)
第1グループ

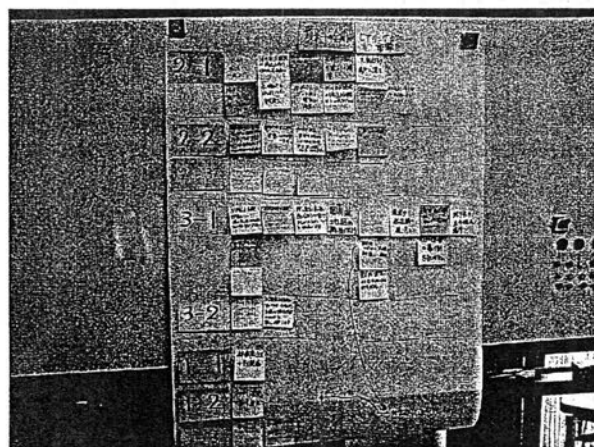
【 討論参加者 】

・鳥塚五十三・岸上 広 ・轟保幸 ・野村東洋夫 ・中川泰三
・河合亮二 ・三國昌弘 ・谷口浩志 (敬称略)

グループファシリテーター： 横山 葵 (有限会社 エイライン)

第4回完成 シート

			資料の全開示	ヒアリングが重要		
2-1	高時川の堤の 高さの提示	河川状況調査は 周辺小河川、沼、 池等、水面も 水の動きを中心 とした調査を。	高時川流域の 周辺とは	高時川上流の 堆砂の調査	矢板打ちの場 所と高さ	
	河床変動と低 下と田川カル バート		治水 ダム計画と暫 定との関係	河川及び流域 の構造的調査 はどの程度行 っているのか	森林の機能 地元(先人) のアドバイ スを受ける事 があるか	堤外民地の植 生調査及び洪 水時に対する 影響
2-2	頭首口による夜 間取水と頭首口 下流の河床変動 ダム湖流入口の 土砂堆砂とその 取り扱い	農業水利状況 調査 実態→取水量 の管理	地下水調査 高時川を中心と した地下水位調 査(図の作成) かん養、排水区 域	関西電力(大見 ダム)より川合 地先(杉野川合 流地点)まで瀬 切れがある	魚類のそ上調 査に大見えん ていの調査を 含めること	
2-3	H6年濁水につい て詳細な調査を。 (淀川下流部のみで なく水公園H6年濁 水記録に欠けてい る琵琶湖周辺部の 状況についても)	京都府の水需 要精査につい ては特に詳しく	大阪市(上水) の水需要精 査の結果の報 告を早く			
3-1	沿川水利用の 調査について、 特に農林水 産省との調整 が必要 農業水利-河 川取水 琵琶湖送水に よる濁水によ る排水	ダム貯水池周辺 の景観と自然と人 とのそれぞれにつ いて、ダム湖を中 心とした自然公園 化と人のそれぞれ について	関連する事項 の総合的な整 合性があるか どうかの調整 が必要	奥川並地区の 再生検討	ダム湖周辺の景 観CGには環境 改善容量全量を 排出した場合の 景観も含めてく ださい 琵琶湖の水位 とカン陸面積 との関係	被害の状況図 の提示 地下水の出な くなった場所 森林保全の調 査とは 山の保全の事 例を知りたい
	水利権の歴史				濁水時、放流 による琵琶湖 の水面回復状 況	
3-2	ダム工事の発破 について、発破 予定地、回数、 動物への影響等 の予測	代替案の検討に ついては、多面 的な複合機能 も、新しい視 点も必要				
1-1	錦織橋周辺の 定点観測					
1-2	高時川濁流の 調査(原因)					
1-3	琵琶湖の水質 に関する調査 検討資料の開 示	琵琶湖の水位 調整 プラス・マイ ナス				



シート写真

◎治水・利水

- ・流域全体を対象とした流域調査が重要。
- ・ダムと河川改修を一体としてできるかが疑問。
- ・堆砂が問題。
- ・構造的な調査はモデルを利用して対応すると有効。
- ・地元へのヒアリングが重要。
- ・地下水の流れの変化も考慮する。(湧水)
- ・大見ダム下流の瀬切れ問題も必要。
- ・H6年のデータの開示が必要。(上～下流セットで)
- ・渇水時の大阪の水利について考慮すべき。
- ・農林水産省との話し合いが重要。
- ・琵琶湖の濁水問題の原因調査。
- ・頭首口の夜間取水を検討するべき。
- ・水利権(水利用)の実態調査。(ヒアリング)

◎自然

- ・関係している問題の整合性の検討が必要。
- ・奥川並地区の山林の影響評価。
- ・ダム周辺のCG作成。
- ・琵琶湖のCG作成。
- ・水害状況マップのシミュレーション。
- ・森林保全の実態について。(事例紹介についてもしてほしい)
- ・ダム工事の発破作業についての動物への実地的な影響評価。
- ・代替案について新しい視点を入れることはできないか。
- ・流域の定点観測
- ・高時川の濁流調査。
- ・琵琶湖水位の調査状況の開示。

討論中に出た意見

- ・流況調査について、上下流全体で調査してほしい。
- ・自然の調整池も含めて、ダム上流部の調査をしてほしい
- ・流域全体の治水調査をしてほしい。
- ・高時川の堤防が低いのは田川カルバートによる砂止めの影響がでているからではないか。
- ・S46年に比べて河床が1.2mも低下している。
- ・田川カルバートにより上流は洪水をまねく恐れがある。
- ・河床が低くなったため湧水がなくなった。
- ・高時川が洪水の時、ダムの効果はどうか、上下流も含めて調査してほしい。
- ・調査の進行はどうなるのか。
- ・森林機能について、ダム事業の中で地元のアドバイスを受けるべきである。
- ・ダムは100年を対象としているが、河川改修はそうではないので、ダムだけでは不十分。
- ・河川流域の構造的調査はどの程度行っているのか。
- ・「やいた」の有効性資料を開示してほしい。
- ・ダムが完成した時、ダム湖流入口の7万t/年の堆砂をどう取り扱うのか。
- ・農業用水の実態について、取水量の管理も含めて考えてほしい。
- ・現実にどれだけの水が使われているかを調査してほしい。
- ・高時川を中心とした地下水位マップを作れば、灌用不可になっているか、排水区間になっているか分かるのでは。
- ・大見ダムの近くで起こっている瀬切れについて、関西電力との関係を調査してほしい。
- ・H6年の異常渇水時に、報告されていない実態があったのできちんと報告してほしい。
- ・丹生ダムについての京都府の態度を明らかにして欲しい。
- ・通常時以上に渇水時の地域間の連携対策が重要。
- ・通常時と渇水時を分けて考えるべき。
- ・大阪市の余った水の利用について調査してほしい。
- ・渇水の時に大阪や京都に出す水があるのかが問題。
- ・農林水産省と共同で調査をしてほしい。
- ・今迄、漁業者がダム賛成にまわることはなかった。
- ・ダムの調整機能が、危機的な状況時の魚の産卵遡上に有効な事実がある。
- ・ダム周辺の景観も含めた人と自然とのふれあいが大事。
- ・関連する事業の総合的な整合性があるのかの調査をしてほしい。
- ・奥川並地区の原生林(ブナ林)の伐採をとめることが出来なかった。
- ・濁流の調査をしてほしい。
- ・瀬切れの原因は農業水利にあるというのが全てではない。ヒアリングも含めて調査してほしい。
- ・環境容量を越えた場合どうなるのかCGで示してほしい。
- ・琵琶湖の水位の変化をCGで示してほしい。
- ・ダムを作らなかった場合と、作る場合の2つの調査の比較が重要。
- ・森林保全の調査についての実態がわからない。
- ・水害に対して住民間の関心の違いが一番の問題である。
- ・洪水の起こる場所に新しく家が建ち、その住人が苦情を言っている。
- ・ダイナマイトの発破作業の資料を示してほしい。
- ・山には、誰も住んでいないので、発破作業の動物への影響が問題である。
- ・発破作業安全性の調査はしているだろうから信頼している
- ・新しい視点も含めた代替案を出してもらいたい。
- ・錦織橋近辺の定点観測が重要である。
- ・琵琶湖の水質資料の開示をしてほしい。
- ・堤外民地の植生調査をしてほしい。
- ・琵琶湖水位の情報開示をしてほしい。

第1回 丹生ダム対話討論会(2) 第1グループ

【 討論参加者 】

・河合亮二 ・岸上広 ・轟保幸 ・鳥塚五十三 ・三國昌弘 ・村上悟

(敬称略)

グループファシリテーター：横山 葵 (有限会社 エイライン)

記録：澤田俊明

第1回完成 シート

討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに筆記したポストイットを記載したもの

はじめに

グループファシリテーターより

きちんと地域の声を作ろう
思いや感情だけでは伝わりにくい
論理的に伝えよう
このチームとして考えよう
チームの中で戦うのではない

川というものが地域を作っていく上で、根幹、背骨のようなものではないか

もともとこの地形をつくったのも川だし、人の生活を支えている、生物の生活を支えているのも川だと思う

川をどうするのかということがこの湖北地域がこれからどうなっていくのかを考えていく上で非常に大事な課題であるため、全体の中で、自分たちのまちをつかっていく中で、川作りを考えていく必要がある

第1段階対話→調査結果、時間がかかりすぎ

討論で出された意見

対話討論会の場について

意見を述べる場があること
自体いい方向

河川管理者の説明会～前の討論会での項目がだぶっている

ある程度私達の意見は河川管理者に反映されている

今までのやり方と、今後のやり方はかわってきた。時代の流れを感じている。討論会を通じて、知らなかったこともわかった

検討のスピードが遅いのは、「待ったなしの事業」なのでもっと早くする必要はある

河川改修の順位づくりが大切

調査項目の範囲が広がって時間がかかるのではないかな。もう調査項目のポイントをしぼる必要がある。考えながら検討することもできる。

治水について、9/25滋賀県川づくり会議での治水面での議論や県の方向性について、討論会で議論してはどうか

今をきっちりクリアして住民の人どうしの対話ができれば。今は生みの苦しみ

川は一つ一つちがうと思う。このような対話討論会の段階を踏むことが大切

討論会、川づくり会議、流域委員会など、みんないっしょではないか。これが遅くしている原因では

討論で出された意見

治 水

討論参加者が記載したポストイット

ダム+河道改修
県見解

河川改修のスケジュール
(高時川の)

流域住民の生命・財産を守ることが最優先

福井、新潟の降雨が高時川流域であった時の河川流量は

丁寧な治水を

地域の防災体制を整備しよう(特に子ども、女性、年寄りの関与)

ダム対応+河川改修で、河川改修は最小限にすべき

討論で出された意見

滋賀県案に賛成。9/25川づくり会議で出た案が一番いいと思う

集中豪雨がいつくるかもしれない。すぐ「進める」必要がある

本体工事のみ残していることを考えれば、「ダム案+河道改修案」が望ましい

「木を切れない」ことが、河川改修のスケジュールに影響している

流域住民としては洪水のシミュレーションがほしい。下流の人はあまり思っていないが

県の6つの代替案の評価軸、コストと河道の改変面積という2つの軸での県の説明はどうなのか

「工期」という視点でも、県の軸を考えられたらどうか

県が示した6つ以外にも代替案はあるのでは。できるだけ、よい代替案を考えてみたい。

現在の高時川は1/10～1/20くらいの能力。治水効果として、ダムが適切と思う

急激な雨1/100、2日間で440mm。この設定でよいのか、もう1度検討してほしい

流域住民の生命を守るのが第1の目的

ダム以外の代替案で、この目的が達成できるのか。他のどの代替案をとっても困難。

新潟の様な豪雨がここでも降っても安全なことが求められる

(質問) 河川改修のスケジュールを教えてほしい

環 境

討論参加者が記載した ポストイット

高時川の環境
改善
瀬切れ防止

びわ湖水位低
下防止

ダムによる新
たな自然創成

工事・事前事
後における事
前環境の取り
くみかた

瀬切れの解消
は湖北土地改
良区との対話
を通じてやっ
てみよう

河川環境。
S30年代以前
の河川状態に
もどすには何
をなすべきか

討論で出された意見

瀬切れに関し
て、水需要を
コントロール
する施設が必
要

高時川でも河
川環境の見直
しをしていく
ことが必要、
まず瀬切れ解
消

環境について
、ヤハギ川・
アキ川ダム湖
に鮎が産卵。
昔琵琶湖にい
た魚がアキ川
ダム湖にいる
。これが高時
川でできたら
すばらしい

何故ダムがた
めなのか判
らない。大半
の環境は守れ
るのでは

どちらの環境を
いたぶるか。
13kまでの環境
をいたぶるので
あれば、ダム1
カ所に影響を押
さえたほうがよ
い

河川改修を最
小にしてダム
を造ることは、
地下水の涵
養に影響する

つくったもの
を有効に活用
するためには
アロゲージ
ョンを変える
余裕があつて
もよいのでは
ないか

高時川には、
堤外民地が多
い。買収を考
えると手間暇
かかる

河川の生き物
を人間といっ
しよに考える
必要がある。
ダムができて
、生き物や水
没するもの、
これをどのよ
うに考えるか

琵琶湖の水位
低下の影響も
ある。川に水
が流れるのは
当たり前と思
う

生物の数、丹
生ダム造る造
るないという
ことに関して
、生物の対象
をどこまで考
えるのか

山、湖、川は
、みんな荒れ
ている。高時
川には、クマ
タカなどが生
息している。
湖、川が優先
されて、山が
最後となつて
いる。このこ
とを整理する
必要がある

どこかをあき
らめなくては
ならないので
はないか

山が雑木で荒
れている中で
、動物がすめ
るのか。クマ
、イノシシが
集落まで降り
てきている

ダムから上の
自然をつくっ
ていくことも
大切。ダムに
より自然を回
復することも
できるのでは

人と自然に関
して、人がい
るから環境が
あるという、
共存というこ
とが基本的な
ものではない
か

どこまでが自
然破壊なのか
。ある程度の
妥協が必要で
はないか

人間と動物と
の棲み分け〜
このような環
境をつくるこ
と

共通意見(案)
)? : 「自然
を守るために
は、放置する
だけでなく、
手を入れるこ
ともある」→
次回の宿題事
項とする

利 水

討論参加者が記載した ポストイット

生活用水、農業用水として使用後に排水としてびわ湖へ流入するがその水質は？

利水 水利用（利水）について、淀川水系全体で考える

そ の 他

討論参加者が記載した ポストイット

ダム建設本体工事直前

高時川に実態を流域で共有を

行政公共の一本化をしては！

流域委員会時間かけすぎ H13～

子供たちに川の恵みとおそろしさを伝えよう

討論で出された意見

実況が河川河川でちがう。実況を全て調べるのは、たいへん

検討のスピードが遅い。環境などへの配慮が必要

流域委員会ではダム～ストップが示された。現在、ダムの工事がストップしている

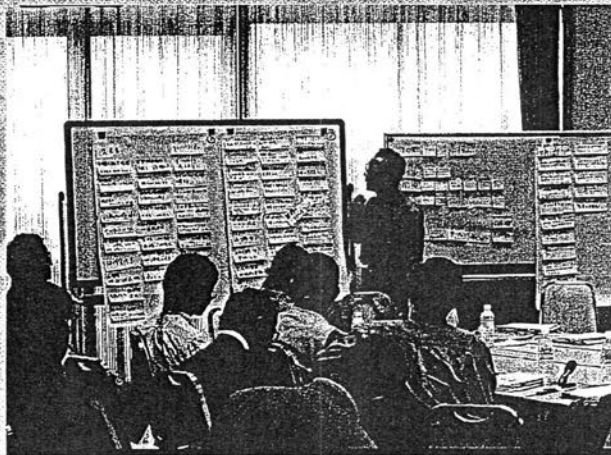
ダムと河川はひとつのもの。これらをトータルに考えて、公共機関の一体化ができないか

実際には「いつ出来るか」はわからない。したがって「何がよいか」を討論会で議論することがよい

できるだけ早くしてほしいという住民の意向に沿って、1年でも早く、着工・完成してほしい



グループ討論の様子



全体発表の様子

グループファシリテーターのコメント

様々な地域の課題や現状が、第1段階の対話討論会や他の意見発表の場で数多く報告されたかと思えます。それらの意見を踏まえ、第2段階では、この湖北地域として、川をどうするのかを具体的に議論してゆければと考えています。

第2回
丹生ダム対話討論会(2)
第1グループ

【 討論参加者 】

・河合亮二 ・岸上広 ・轟保幸 ・鳥塚五十三 ・中川泰三 ・村上悟

(敬称略)

グループファシリテーター：横山 葵 (有限会社 エイライン)

記録：澤田俊明

第2回完成 シート

討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに
筆記したポストイットを記載したもの

1. はじめに

資料の質疑の
有無の確認

前回の続きの
議論として進
行したい

□ : グループファシリテーター

■ : 討論者

= : 河川管理者

2. グループ1での議論の進め方について

前回までの議
論で、地域の
声はある程度
だされたので
は

グループ1と
して、代替案
の具体的な議
論をすすめる
か。あるいは
、もう少し深
く地域の議論
をすすめるか

深いところま
ではあまり議
論できていな
いでは。詳
しい地域の議
論が必要

地域の声をつ
みあげる、と
いう意見

現在の代替案
の中の一つで
の話。もう少
し他の代替案
があるのでは

地域のことは
今までの話の
なかでほとん
ど網羅されて
いると思う

代替案の具体
案を議論とし
て進めていく
方向、代替案
を具体的な地
域の問題とし
てとらえて進
めて行く方向
、という意見

治水について
は地域の議論
が出来たので
はないか

しかし利水に
ついては地域の
観点で議論
ができてない
のでは

代替案の話
をしてはどうか

利水について
はあまり議論
のテーブルに
のっていない

総合的に利水
面の話を進め
るのがよいの
では

具体的な部分
にふれるのが
よいと思う

各代替案の検
討やそれらの
工事前後など
に関する議論
が必要では

具体的にっ
こんだ意見を
つみあげる

河川河川、地
域地域で違い
がある。各地
域で水需要を
どうするか

代替案とい
うがその案の
提案者が一人
もいない。具
体的にどうす
るかという議
論がない

水害やその影
響の話はい
っぱいでくる
が解決のため
の意見が少な
い

解決策の討論
が必要では

具体的な解決
策の議論が必
要では

下流でのゴミ
、上流の木の
伐採、諸問題
が発生してい
る

責任ある討論
が必要

具体的な議論
を進めればど
うか

利水について
水の必要の有
無の双方の視
点で考えてお
く必要がある

利水について
も具体的な地
域の議論

具体的な形で
地域等の視点
から議論を進
める

3. 「資料」への質問

「瀬切れの資
料について」
。まだ資料以
外に瀬切れが
あるのでは
=9/30~
10/7の間の
調査資料

縦断図。阿弥
陀橋の最深河
床の値が飛び
出ているが？

H12の時の産
業廃棄物の撤
去前の高さで
は？

洪水位置図に
明治28年の
時代の被害も
是非資料にく
わえていただ
きたい

木之本町史な
ども参考にし
てほしい

「地下水瀬切
れ相関図」1
997年1月の
ところの縦線
の意味は？
=縦線の意味
はない

地下水と表層
水の関係は水
の水位が下が
れば地下水も
下がる？
=川の水位と
地下水の関係
は相関してい
る

4. 議論の新たな視点「地域振興」について

治水、利水、環境+「地域振興」の視点が必要では

深い議論が出来ていないのでは。議論の枠組みについて新たな視点が必要

地域振興を加味したダムのは是非について考える必要がある

「かわら版4」の意見のマップまとめの説明

この中に総合的な観点(いろいろな視点)からの意見が整理されている

新たな視点地域振興

治水対策について、どうしてもハード整備偏重となっている

川をいじること・きっちりと川を読むことが必要、地域の人はこれをよく知っている。

細かい川周辺の情報が抜け落ちたまま川の整備が進んでいる

地域と河川管理者との連携が必要

大雑把につくるのではなく、次の時代は地域の細かい情報が必要

取水量をどうするか、どのような水利用をするかという点で地域のなかで議論が少なかった

当時つうて作った土壌、水がきても(堤防が)切れるということを考えなかった

草野川～頭首工～瀬切れが起こるようになった

水が足りないからダムを造ろうというまえに地域の中での話し合いが必要

川でのいろいろな課題の共有が必要、少しづつ関係者に伝えていく大切さ

人間力、川を読む、川について地域の人と語る、これらの視点の大切さ

議論の間口を広げるのではなく焦点を絞る必要があると思う

地域の人の犠牲のもと、すでに20年もたっている。地域振興をどのようにするか。水没で移転した人の事を考えると何のために移転したのか

「そこにいた人」のことを考える必要がある

5. 利水(農業排水、漁業権等)・環境

今の話は、何回も議論されていたこと、水没、移転、水利権などもとは下流圏の要望

雑木の件の問題も解決していない、これを解決する予算もない。「田川へ流す」話～県が漁業権をつけてしまった

「田川」において、農業排水に漁業権をつけてしまった。県の失態では

資料で地下水位が下がってきている。砂利採取などにより河床の粒度が変わってきた、地下水の浸透率がかわってきた

洪水後などの雑木林はとりはらおうとするはらえると思う、このようなところ、できるところから実施していくべきでは

福井ではどうか?
・福井市内では左岸側で右カブのところが破堤

内部の話、平成元年内水の鮎の冷水病が収束しない。鮎は九州、四国、静岡でいっぱい、琵琶湖でよくつれる→売れていた

湖産の鮎ほど冷水病がひどい。ダム湖、和歌山、三重、九州で育つ陸封型の鮎がある、ダム湖の状況を見ると1回の薬で対応ができる

琵琶湖では、農業、畜産、畑などが多いほど水質が悪い。「環境」というがどこから議論すべきなのか

魚が脆弱→その原因裏付けのデータこれらの情報を公開してもよいかどうか

農業排水の話は今まであまりでていない

PCBおよび化学物質それ以上に近代農業は危ないと思う

そのとおりと思う

高時川は瀬切れが起こりやすい川では

頭首工自体何故出来たか



グループ討議



全体発表

6. ダムの必要性について

環境の面からダムは早期着工すべきと思う。環境について、今すでに生態系がくずれている

「自然環境の復元」にむけた取り組みが必要。これに加えて経済効果を考えた「地域振興」が大切と思う

環境問題も問題としてとらえていた、結論として下流のことを考えてダムが必要

利水問題は単なる水利権の問題、利水にたいしてダムをどう造るのか

地域の特徴をもとにしたものとなる、まずここを把握する必要がある

日本の川の特徴は、川が急で、流れた水が早く来る。この特徴を考えるとダム案になる

日本では、川の近くまで土地利用がなされている。彦根の放水量1700t、ダムサイト2600tある

琵琶湖の北と南で違う、気象・地形を利用した農業が展開され、扇状地では地下水豊富

“馬の背”のようなところは、一旦堤防が切れると危ない

ダムはどこでも造れない、地形位置からダムは治水効果が高い

高い位置で大きな容量がダムに必要と思う。将来、20年先がどのように変わるかの補償ができない

ゆっくりとした琵琶湖の水位管理がなされていない、土木構造物としての大きなダムが必要では

治水はダム+河川改修が望ましい、利水面からは、時代に合った容量を確保することが必要

川づくり会議、代替案6案の2軸について触れられている(以下割愛)

ダム+河川改修が必要不可欠、消去法できていくのでは

水を地下にためる～現実的でない、「安全」「水の必要」のためにダムが必要

7. 代替案について

これまでのグループ1の意見整理：「治水対策案」、「瀬切れ対策案」、「河川環境対策」、「チェックが必要な項目」

代替案について、具体的な検討として進める

ダム1つだけにたよるのは不安？

両側に家、どのように川を拡げるのか

川を拡げる検討は必要では

以前の資料で流木を利用するのは反対

川幅を拡げるのは一番理解協力がえられない

手順として、意見があうことあわないこと、合意出来るところもさがしていきたい

①川の通り道を拡げる、できればあまりいじらない。土地を買ってひろげる ※【川幅を拡げる】
ダムと違うところは、土地・家を提供、安全確保のため

②川を拡げても厳しいのであれば何らかの施設整備が必要、緊急用の放水路など ※【川幅+施設整備】

③流木の多さ福井の例「林業振興」の必要性 ※【林業振興】

④流下を阻害するものの除去、ソフト対策 ※【危険箇所の把握】

林業振興
合意

川を拡げるのは難しい

ダムに眼をむけたほうがよいのでは

ダムサイトの大きさを議論すべき～川の幅をひろげるより当初の15000万tとして～利水もいれて

1/100では足りないのでは→1/200ぐらい必要なのは

姉川・高時川の合流部は、非常に危険。田川のカルバートは、河床掘削時の制約となる

田川～ほりこみの川、取り付け部では高低差ができる＝基本的にほりこんで取り付け

山崩れはゼロではない、流木は流れてくる→貯水池でとめることができる

8. GF 作成の模造紙

GF 作成「模造紙1」

- 安全 a. 総合的な治水対策をいかに進めるか？
 自然環境 b. 自然環境を保全し瀬切れをいかに解消するか？
 c. 利水機能をどうとらえるか？
 農業用水、生活用水、雑用水、防火用水

治水対策案	代替案①グループ ・ 上流から合流点までのショートカット案 ・ 霞堤案 ・ 溜池、水田活用案 ・ 遊水池案 ・ 緑のダム案 ・ 堤防の強化 ・ ソフト対策
瀬切れ対策案 (河川維持用水)	・ 河川流量が減少している理由は何？ ・ 環境水の確保 代替案①グループ ・ 農業用水の効率的な取水 ・ 余呉湖補湯水の検討 ・ 地下水伏流水の利用 ・ 表流水の地下水になる量を減らす
河川環境対策案	水質の向上 土砂対策
チェックが必要な事項	広域的課題 気候変動 琵琶湖の環境保全 琵琶湖の水位調整 限りある財源 地域的課題 湖北の自然 環境保全 地域の利水への影響 地域振興 その他 イニシャルコスト、ランニングコスト 整備に要する時間

グループファシリテーターからのコメント

滋賀県が、開催する川づくり会議も先日、終了しました。

今回は、国土交通省から治水に対する新たな資料が提出されると聞いています。

今までのこと、これらのことを踏まえ、また、この対話討論会の位置付けが、先に示された『河川整備計画策定』の為に重要な地域の意見として届けられることとなっている事も踏まえ、対話討論会の成果として、皆さんが納得できる事を3回目で作って行ければと考えています。

第3回
丹生ダム対話討論会(2)
第1グループ

【 討論参加者 】

・河合亮二 ・岸上広 ・轟保幸 ・鳥塚五十三 ・三國昌弘 ・村上悟

(敬称略)

グループファシリテーター：横山 葵 (有限会社 エイライン)

記録：澤田俊明

第3回完成 シート

討論会で出された意見 討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに
筆記したポストイットを記載したもの

□ : グループファシリテーター
■ : 討論者
= : 河川管理者

1. はじめに

12月1日流域委員会ダムWGが開催予定	本日のグループ1での討論は？、対話討論会の成果は？	・本日のグループ討論での討論議題として	① “12月1日” ダムWGへの対応	② ダムの必要性に関する討論
---------------------	---------------------------	---------------------	--------------------	----------------

2. 流域委員会・ダムWGへの報告について

流域委員会と対話討論会は別個だが	討論会の討論結果→12月1日のダムWGに提示したほうがよい	対話討論会と流域委員会は別。しかし流域委員会に対話討論会の意見を知らせてほしい	とりあえず今までの討論会の結果を流域委員会に提出できればよい	討論会、流域委員会は並列討論会として本日ある程度の方向性を示すのがよい	河川管理者がどのようにまとめればよいのか？	=参加者の討論による意向を尊重したい
かわら版1～6、第3回の意見のまとめを12月1日提出でよいか	かわら版の1～6の集大成が必要	また、地域の利水についての検討が必要。高時川の水道等の上流域の水利用の情報が抜けていると思う	利水に関する情報をグループ1の参加者は打ち合わせていない	S14～S16年の異常洪水の対策→上流地域が下流地域のことを理解できるのではない	これまでの意見を網羅してまとめる方向でよい	対話討論会は3回で終わりで？
討論会の回数は参加者の皆さんで検討						

3. グループ1での意見のまとめの方向性に

グループ1では、「ダム+河道改修案」で大筋は意見がまとまっているのではない	工事前・中・後の提案をするべきではない	グループ1の中では、治水について、「ダムが必要」という共通理解ができたのではないが、これをますますまとめる必要がある	合意できること、合意できないところを項目ごとに討論すればどう	これまでの討論意見を基にして「ダムの是非」について議論を、各項目別に行えばよいのでは	少なくとも治水について「ダムの必要性」の同意がグループでとれない	大半は、「ダムは必要」、一部そうでない人もいる
流域の人の多くは、ダムを早くしてほしいという意見	増水による姉川の水位上昇と高時川での水位上昇に時間差がある	新潟などの例を見れば時間雨量をみると、とんでもないことになるという切実な問題がある	ダムが必要ということ	“意見をいえない人”のことも考えるべき	人数の少ない意見をどうするか	

4. ダム+河道改修（案）について

“ダム+河道改修”についての議論を進める

“ダム+河道改修”には反対

第1回～3回の討論会でダムの話は、グループ1では治水からは必要であった

利水の話ではグループ1ではあまり話しができていない

谷口さんは反対から必要に変わられたと思う

“治水対策が必要”には賛同

その方法としてダムがよいとは思わない、期間の話？

最もスピーディーな対策は“防災対策”～避難情報その対策

ハード対策以外に防災対策などのソフト対策が必要

5. 代替案としての遊水池+河道改修案について

河道対策としての河道改修必要

次の段階として、河道の中のみでの対策が不可ならば何らかの貯留施設が必要

遊水池が有効と考えている

田の補償のみでは田の所有者が納得しないのでは

いい耕地のところを遊水池化→所有者の立場を考慮することが大切

泥をかぶった田畑の復旧はむずかしい～現実的ではない

“川はあふれる”のが前提で、“川のあふれる箇所”があらかじめわかっていることが安全につながるのではない

“川”の範囲は洪水時には線が引けない、あふれやすいところと水を通く

現実性がないのでは

遊水池の場所を示してきつちりしたビジョンを示す必要がある

どうしても河道の中で対処できないのであれば、“あふれる場所”をつくっておいだほうがよいという考え

高時川大橋の付近で“遊水池”の昔の知恵がみられる

当時の土木事業の最大の知恵は“今”持っている話ではない

昔は、河床が低かった。今は、河床が高くなっている。50年に3～4回は田に土砂が流れている

高時川頭首工付近、昔は下流から水が入る。今は上流から水が入るので稲がたおれる

今、河床があがっているところに“遊水池”の話は理想に過ぎないのでは

“あふれる”ことを前提とした川の計画

扇状地における洪水の復旧で、元に戻ることは可能と思う

現在はあふれないことを前提にしている

6. ダム建設と自然環境の保全、遊水池

ダムを建設すると元に戻らない。予測不可能なことが起こる恐れがあるのではない

“元に戻る”“元に戻らない”とは、どういう意味か

ダムをつくるとその場所は“もとに戻らない”

生命、財産を守るためにはある程度の犠牲が必要では

日本の農業基盤が脆弱。治水と田地、田畑を守ることが優先課題。この対策としてダムがある

今“環境保全”といえるのか、保全できるものは、ほとんどなくなってしまった

水害になれば補償という考えは、直してほしい

この地域であれば、昔のように“自助”活動がもう一度できるのでは

水没地域の人～下流のことを思って納得をした。このことを考えてほしい

“被害があつてはならない”のであり“被害を想定”はしていない。ここが違う

“早い対策”が地元では優先される

遊水池の工事はまわりの堤防のみ補償に時間を要する

7. ダム案の場合の維持管理、構造物の寿命、影響

ダムは何年あるか、何年もつか、これが怖いとおもう

ダムの堆砂は、計画時に最初から考えられている

ダム堆砂は、取り出すのが大変で、ダムは“おもり”がずっといる

遊水地も“おもり”がいる

この先、子孫に大きな“おもり”を残すべきではない

<グループファシリテータの意見整理を経たのち>

ダムは風景以外に、川の影響がかわる。水質の保全は難しいのでは？

ダムができて下流に水質の影響を及ぼした例は？ 一庫ダム等の対策例がある

H9河川法で「環境」ができた。「治水・利水」が前提で「環境」ではないが

ダム反対であれば、その代替案を示す必要があるのではないか

ダム反対派の意見は少数意見扱いとして留保すればどうか

8. 論点整理 ダム+河川改修、遊水地+河道改修

<グループファシリテータの意見整理を経たのち>

川が“あふれる”“あふれない”の認識が異なる

ダムをつくっても～100%安全にはならない

“遊水地案”の、ビジョンをだす必要があるのでは

田川周辺の放水路案が現実的な代替案～これも難しい

高時川の右岸側の遊水地が望ましく、左岸側は琵琶湖との関係から望ましくない

“戦後最大の洪水”について

とりあえず戦後最大の洪水への対応が必要

戦後最大以上の対応が必要

「人」によって洪水調節のやり方がちがう

遠くに住んでる人が「風景」をするというのは理解ができない

「風景」だけでなく「環境」「水質」などについても保つ必要がある

ダムによる、自然、風景、水質などの保全は必要。このことがダムをつくらないことには直結しない

“地域振興”ということ考えた取り組みが必要

治水対策としてダム+河道改修案がベスト。反対意見もあり

ダム+河道改修の理由を確認→明文化しておく

県の川づくり会議でもすでに議論されてきた

防災対策はすでにできている“確認”が必要

利水の討論があまりなされていない

表1 討論での模造紙① (GFによるグループワーク)

●ダム+河道改修ありきか？

◇治水 治水防災は必要、川はあふれる、対策をうつほうが安全、水のある程度あふれるところに誘導する

①防災対策の期間短縮

②河道対策

③なんらかの貯留→遊水地

食料を確保するために遊水地は問題

あとは田んぼとして作付けできない

◇補償対策

1反→20万円 1.40万㎡→2.8億円(金額が下がる)

●河道改修+遊水地

ダム反対の理由、構造物の耐用年数、環境が汚染される、風景を保つためにもとにもとせる方法を、運用はスタッフによって決まる

表2 討論での模造紙② (GFによるグループワーク)

●治水対策は必要=合意

●ダム+河道改修

◇理由

- ・過去より地元は協力している。移転にも協力してきた。早くダムを作ってほしい
- ・流域住民の安全確保
- ・琵琶湖の補給水の確保
- ・ダムは環境に対して最小の影響で最大の効果
- ・圧倒的な流量が必要
- ・瀬切れ対策：農業構造改造が必要、歴史の中で河川水量配分の見直しは困難
- ・現在の川の改変が少ない
- ・天井川であることを踏まえると治水、利水、瀬切れ対策が必要→地元はダムと結論を出している
- ・時間がない

◇今後の対応についての意見

- ・ダムを作ったあとの自然を守り育てる
- ・水質の対策を十分に行うこと

●遊水地+河道改修

◇理由

◇今後の対応についての意見

- ・これからは、自然保護林などの対策を行い開発と保全の取り組みを流域全体として行う
- ・環境を破壊しない河川改修
→拡張のため地域に多大な影響がある

表3 討論での模造紙③ (GFによるグループワーク)

●合意事項

- ・治水対策は必要
- ・今後も住民対話が必要である
- ・治水・治山は重要である
- ・補償がすべてではない

●論点

- ・2つの案 ダム+河道改修 遊水地+河道改修
- ・どこまで治水の安全を見るのか?
100% (今考えられる) 我慢できる程度

●ダム+河道改修

◇この案にした理由

◇課題

- ・運用は運用スタッフによって左右される
- ・風景(環境)が保てない
- ・環境が汚染される
- ・構造物の耐用年数

●遊水地+河道改修

◇この案にした理由

- ・なんらかの貯留→(遊水地)
- ・補償対策への対応

◇今後の対応についての意見

- ・水田の回復は大変なものであり補償だけでは足りない
- ・遊水地化は地域住民の合意がとりにくい

表4 討論での模造紙④ (GFによるグループワーク)

a. 総合的な治水対策をいかに進めるか

- ・農業用水の節水案、全管バルブ付給水案などを促進するべき
- ・包括的な理解が得られれば絶対結論
- ・話し合いを続けていくことでソフトランディングできないか
- ・農業者との意見交換が必要(埒があかない)
- ・治水代替案は実現性のあるものを 地元合意が得られる(用地)
- ・丹生ダム議論早期決着が必要 早期に洪水対応必要
- ・地域住民の安全→遊水地 地元合意が得られない、現状では議論にならない

b. 自然環境を保全し、瀬切れをいかに解消するか

- ・昔、瀬切れはあったが期間が短かった。水たまりで生物は生き残ることが可能だった
- ・環境を考える場ができたことは評価している

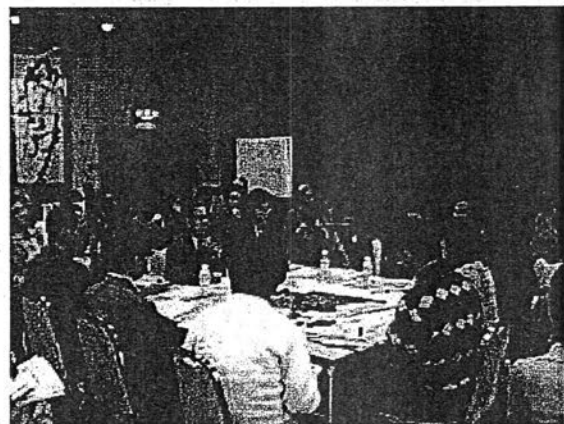
c. 利水機能をどうとらえるか

- ・地域の利水は集落の維持用水として必要
- ・ダム洪水検討淀川水系で統一年で検討必要→その上で丹生ダム必要性検討
- ・農業用水取水バルブで節水調節が必要(夜間節水)
- ・農業用水非かんがい期取水量の役割を明確にする
- ・農業濁水、農業問題と考えている
- ・農業用水の見直しは、農業者も含めて議論しないと解決しない。ここで議論する課題ではない
- ・頭首工からの取水量と河川本川への配分はいまだ結論がでない

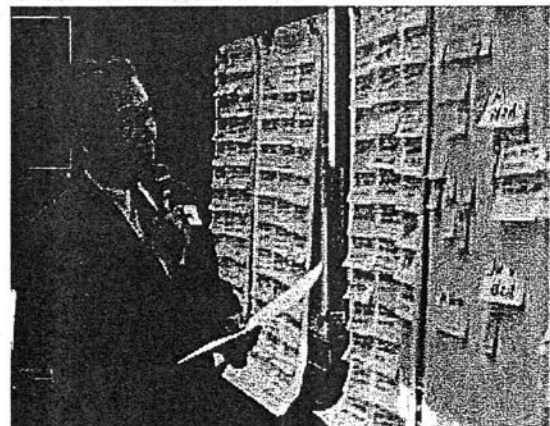
d. ダム建設の影響は何か

e. 地域の振興をいかに図るか

f. 関係機関による調整の場の設定



グループ討論



全体発表

第 2 グ ル ー プ 意 見

第 2 グループメンバー

丹生ダム対話討論会(1)参加者

浅 見	勝 也
鳩 代	利 博
兜 玉	博 之
鈴 木	秀 利
千代延	明 憲
寺 村	京 子
南 部	厚 志
丹 生	善 喜

丹生ダム対話討論会(2)参加者

浅 見	勝 也
兜 玉	博 之
鈴 木	秀 利
千代延	明 憲
寺 村	京 子
横 山	屯

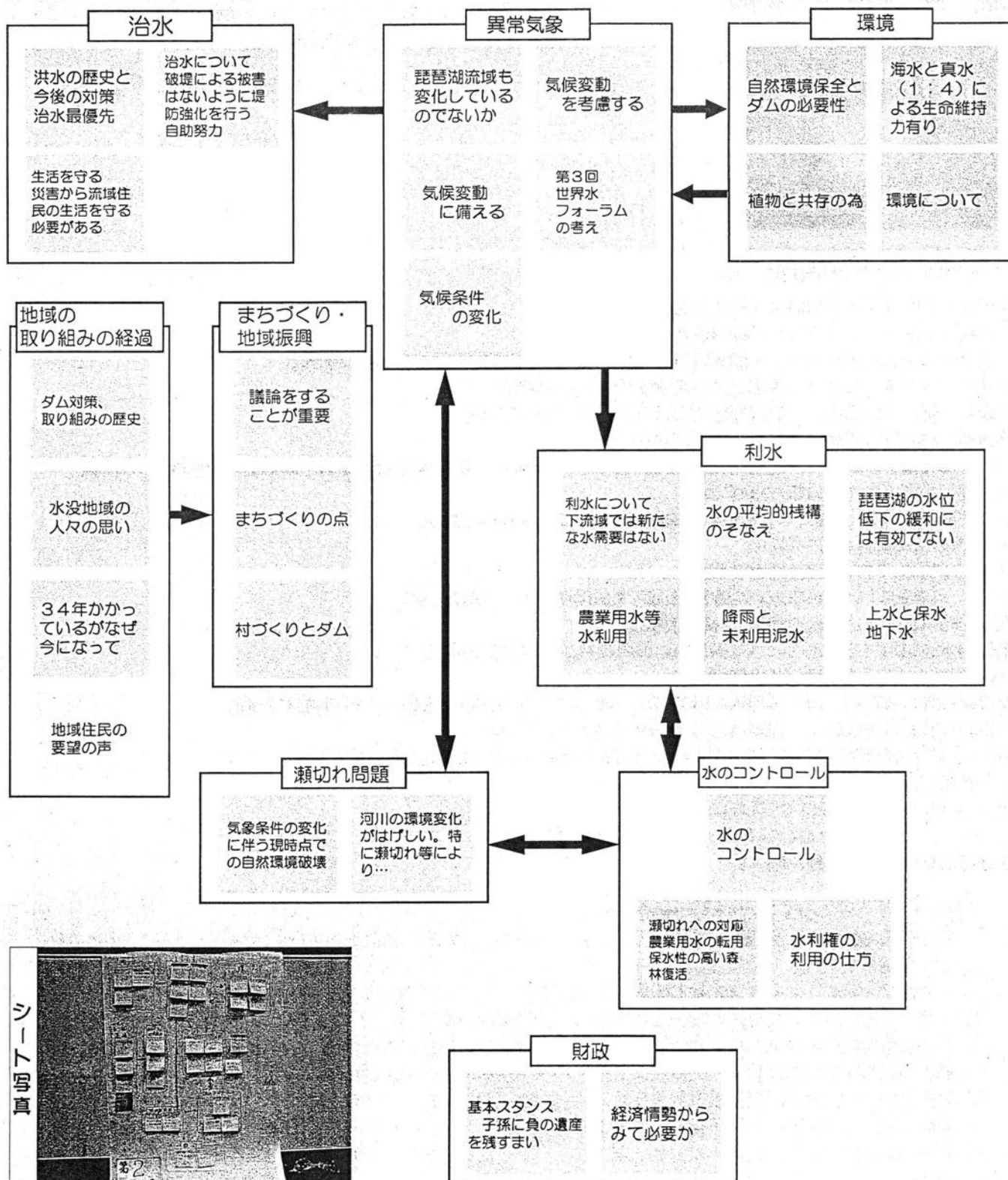
第1回
丹生ダム対話討論会(1)
第2グループ

【 討論参加者 】

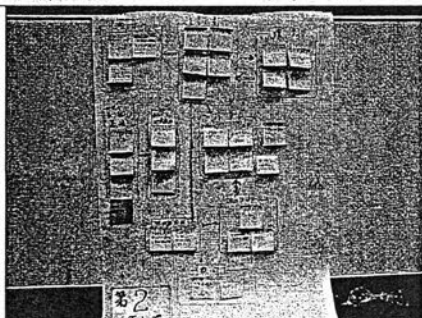
・丹生善喜・浅見勝也・寺村京子・コ玉博之・千代延明憲
・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博 (敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

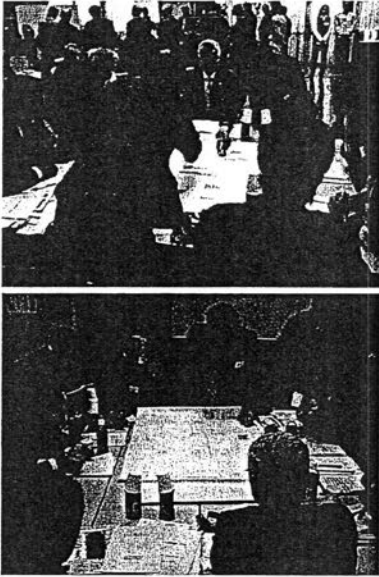
第1回完成 シート



シート写真



第1回 討論風景



第1回 全体報告

報告者 : 浅見勝也

- ◎ ダムの賛否は問わず、いつも思っていることを話し合った。
- ◎ 治水・異常気象、その関連で環境・利水についての話題が出た。
- ◎ 治水や利水、異常気象などを考慮した水のコントロールが必要。
- ◎ 生物環境としての瀬切れの話題も重要。
- ◎ 地域の取り組み等も重要であることも議論された。
- ◎ ダム完成後の地域復興、まちづくりの必要性も議論された。
- ◎ お金（財政）の話題にも議論は至った。

討論中に出た意見

- ・ 歴史の教訓から高時川の治水が必要である。
- ・ 自然環境破壊がおこっている（環境変化がいちじるしい）。
- ・ 地域住民の要望の声がある。・ 瀬切れへの対応。・ 流域の生活者を守る必要性がある。
- ・ 業者が入ってきたことで引き起こされた水質悪化による自然破壊。
- ・ 過疎化が進んでいるため、若者が住まうまちづくりが必要である。
- ・ 農業用水の利用のためにもダムは必要である。
- ・ 近年、気候変動が著しく、琵琶湖流域も影響を及ぼし、今後、渇水や洪水が増すのではないかと心配している。
- ・ 気候変動のための治水対策が必要である。
- ・ 植物と共存が必要である。・ 未利用のまま流れていく水を利用したい。
- ・ 子孫に負の遺産を残したくない。
- ・ 工業用水の転用で利水増大は必要がない。
- ・ 治水は、破堤をくいとめるための堤防強化面で転用がきくのではないか。
- ・ 森林の保水力を高める事も同時に必要である。
- ・ 農業用水を転用することによって瀬切れは、解消されるのではないか。
- ・ 地域の若者の意見を重視する必要がある。
- ・ ダム建設を行うなら、治水・利水だけでなく、まちづくりの観点も重視して行うべきである。
- ・ ダム完成が終着ではなく、出発点として考えていくべきである。
- ・ 30年も前から計画があるのにできないのは必要性が薄いからということも考えられる。
- ・ ダム建設は、現在の経済状況からやるべきではない。
- ・ 水位が増すのは台風時だけではないか。
- ・ 山の保全にもっと力をいれればよい（保水力を高める）
- ・ 水利権の見直しに組み込めばよい。

グループファシリテーターの意見

それぞれの討論者が他者の考えや思いに耳を傾けること、また、討論者8名からの発表をもとに、丹生ダムについての論点を明確にすること。以上の2点を、第1回のワークショップの目的とした。論点として、以下の点が整理できた。①大雨や渇水などの異常気象を丹生ダムではどうとらえるか、②高時川流域の治水という視点から、丹生ダムをどう考えるか、③下流域での水需要が減少するなかで、丹生ダムの必要性をどう考えるか、④自然環境の悪化や瀬切れが発生するなかで、自然環境の保全、自然環境との共存をどう考えるか、⑤瀬切れや利水などに関連して、水のコントロール（有効利用）の再考が必要ではないか、⑥地域の丹生ダムに対するこれまでの取り組みの経過をふまえることが必要ではないか、⑦まちづくりや地域振興という視点から丹生ダムをどう考えるか、⑧子孫に負の遺産（国家財政の借金）を残さないという視点から、丹生ダムの建設をどう考えるか。第2回のワークショップでは、こうした論点の一つひとつについて、議論を深めたいと考えている。

第2回 丹生ダム対話討論会(1) 第2グループ

【 討論参加者 】

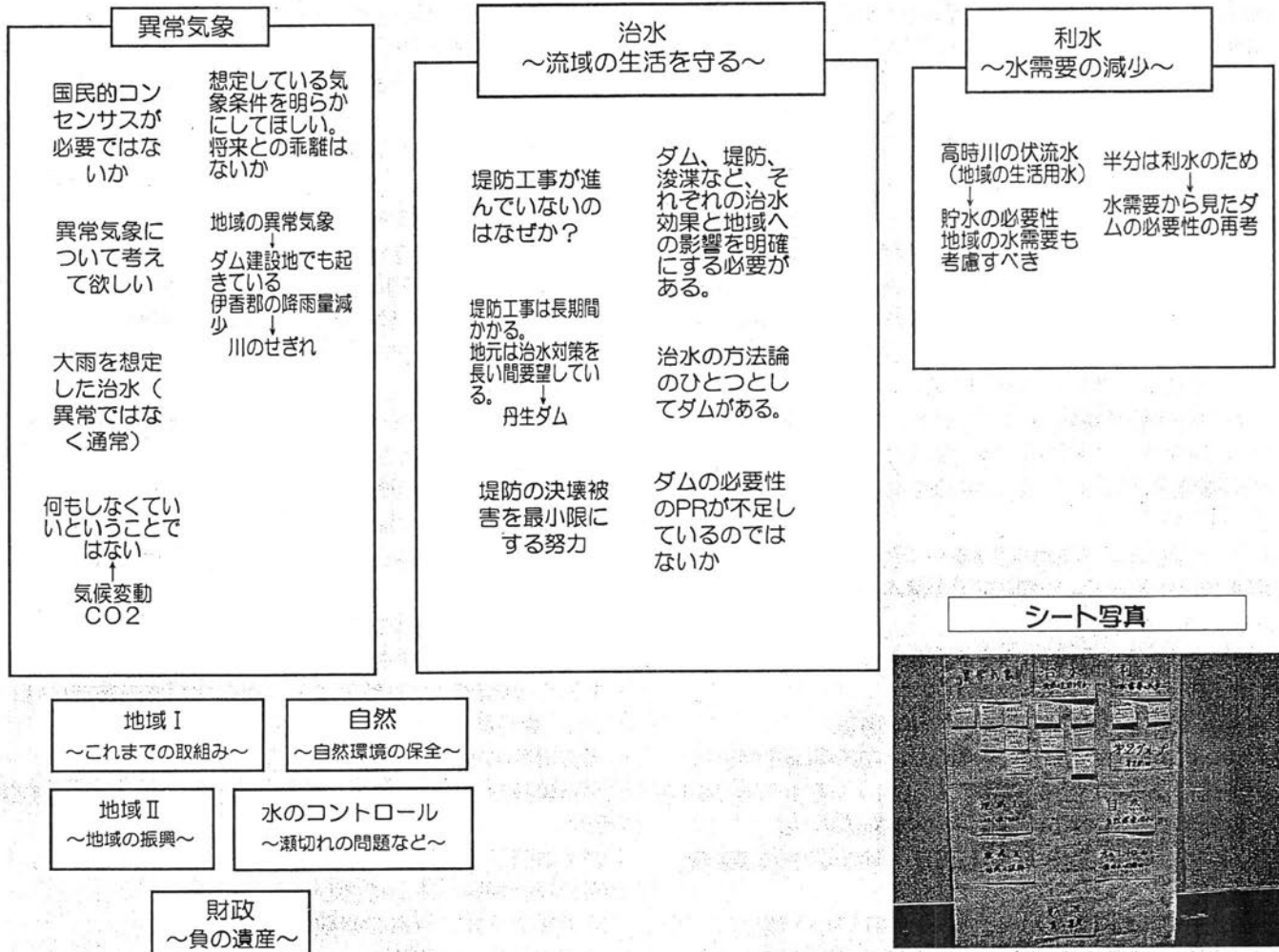
・丹生善喜・浅見勝也・コ玉博之・千代延明憲

・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博

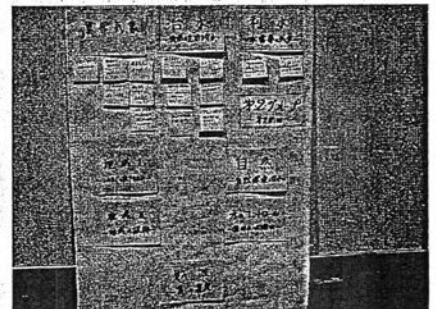
(敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第2回完成 シート



シート写真



第2回 討論風景



第2回 全体報告

報告者： 南部厚志

○異常気象について

- ・異常気象について考えてほしい。
- ・何もしなくてもいいということではない。
- ・対応していくには国民的なコンセンサスが必要である。

○治水について

- ・堤防工事はなぜ行われないのか?
- ・治水対策事業の効果を明確にする必要がある。

○利水について

- ・水需要から見たダムの必要性を再考する必要がある。
- ・地元から見た水需要も考える必要がある。

討論中に出た意見

- ・ 異常気象は現在世界的な問題になっている。
- ・ 異常気象への対応については、国民のコンセンサスがなければ、実施には結びつかないのではないか。
- ・ 異常気象の原因は、都会での人間活動にある。
- ・ 人と環境がどのようにかわっていくべきか（環境倫理、環境道德の観点）を考えなければならない。
- ・ 田舎の人は、環境倫理、環境道德を大切にしている。
- ・ 異常気象は人間のエゴで起こっている。人間はもっと謙虚になるべきだ。
- ・ 高月町では過去に降雪量は2～3mあった。現在では、降雪量、降雨量ともに減っている。このせいで、高時川に異変（瀬切れなど）が起こっているはずだ。
- ・ ダムを建設して水を貯水することで、川の環境の向上であったり、利水の向上であったりを実現できるはずだ。
- ・ 今後、今までに経験したことのない異常気象による大規模な災害が起こることもありうるのではないだろうか。それについて専門的な意見を加味して、ダム建設の是非について検討していくべきである。
- ・ ダム建設を異常気象対策のためとして作るのは、国民の新たなコンセンサスを得てやらないと、地域のエゴになる。
- ・ 国民は健全に暮らす保障（法のもとの平等）が憲法で明記されている。
- ・ 地方に住む弱者の生活を保障すべきだ。
- ・ 利水や治水のように現実に近い問題を議論していくべきじゃないだろうか。
- ・ 異常渇水時にある量を確保するための貯水量は計画されている。
- ・ 治水は第一に考えられるべきことである。
- ・ 高時川は大雨があったら、洪水が起こる可能性が高い。
- ・ 堤防強化するという案もある。しかし、それを全ての川岸で実現するには長い年月がかかり困難である。
- ・ 地元は堤防強化を求めているのに、なかなか国は実現してくれない。
- ・ 結論として、水量調節がいいのではないかと思う。
- ・ ダム建設と堤防強化両方やられていくべきである。
- ・ ダム建設・堤防強化などの効果を明確にして、取り決めをしていくべきだ。
- ・ 流域委員会では、堤防決壊した場合の被害をできるだけなくそうと考えている。対策許容量以上の水量で洪水が起こるなら仕方ない。
- ・ 400年前の堤防を現在もついている。
- ・ 国は地元の要望を聞いてくれない。
- ・ ダムに替わる代替案は、地元の要望を満たすのだろうか。
- ・ ダムの予算をまわせないのだろうか。
- ・ 堤防の方が予算がかかる。
- ・ ダム建設は過去短絡的に決定されてきたのではないだろうか。
- ・ 対策事業の治水効果の明確化が必要。
- ・ 堤防強化事業が行われない理由の明確化が必要である。
- ・ 日本の地形（急な勾配な土地柄）を考える。
- ・ ダムの建設が容易な地形である。
- ・ ダム建設がもたらす弊害についても明確にする必要がある。
- ・ ダムに対する水の需要は減っているのは間違いない。
- ・ 工場で循環水を利用するようになった。
- ・ 水需要は減るだろう。
- ・ 利水にかかる費用が大きい。（琵琶湖にたまる泥水を循環して利用しているから）
- ・ 大都会の思いで、田舎が振り回されている。
- ・ 田舎の人は、下流にきれいな水を流したいと思っている。
- ・ 水需要は、湖北では工業用水ではなく生活用水がメインである。
- ・ 高月町は地下水を上水として使う。
- ・ 湖北の水需要のためには、貯水が必要。
- ・ 大阪の人は琵琶湖があるから、水の大切さをあまり感じてはいないのではないだろうか。
- ・ 下流域民の水需要は足りている。
- ・ ダム建設が20年30年以上先の批判にも耐えられるのかどうか。
- ・ 減反政策で、農家離れが進んだ。
- ・ 元の方針が通っていくのがよいと思う。
- ・ 水需要から見たダムの必要性の明確化。
- ・ 地域の水需要の明確化。
- ・ ダムの必要性について、役所のPRが不足しているのではないか。
- ・ 地域の将来を考えた価値判断も取り入れるべきだ。

グループファシリテーターの意見

第1回討論会で抽出した8つの論点について、順に討論を進めた。「異常気象」については、予想される変動を十分に認識して対応を行っていくべきだ、との意見が出された。これに対して、異常気象は日本全体で起こっており、丹生ダムでの対応には国民的コンセンサスが必要だとの意見があった。「治水」については、洪水で苦しんできた流域の状況や今日なお脆弱な堤防のもとでの不安な生活、堤防改修に対する地元の強い要望にもかかわらず対応がなされなかった不満が語られ、その経過のなかでダム建設が選択されたことが述べられた。ダムは治水対策のひとつであり、ダム、堤防、浚渫などの治水対策事業のそれぞれの効果を明確にする必要性について合意された。また、堤防決壊した場合には、その被害を最小限にする取り組みが必要との意見があった。「利水」については、下流域での水需要が減少しているなかで、利水からみたダムの必要性について再考すべきだとの合意がなされた。また、長期的な水需要や地元の水需要という点から、ダムの必要性について意見があった。進行のまずさもあって、以上の3つの論点で時間切れとなってしまった。「これまであまり議論されなかった残りの論点についての討論が重要である」との意見も最後に出された。次回も活発な討論を期待したい。

第3回
丹生ダム対話討論会(1)
第2グループ

【 討論参加者 】

・丹生善喜・浅見勝也・寺村京子・コ玉博之・千代延明憲
・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博 (敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第3回完成 シート

- H.8移転
地域の苦しみ
転居の苦しみを
考えるべきだ
- ・経緯の
再確認
明らかに
すべき
- ・地域振興策と
して、地元は
ダムを活用
したい
- ・上下流の連携
ができないか
- ・ダムを生かした
観光は可能な
か？
・事例を知りたい
・インフラ整備
(道路)は若者の流出
を促進させる

異常気象

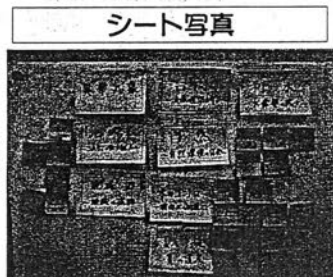
治水
～流域の生活を守る～

地域Ⅰ
～これまでの取り組み～

自然
～自然環境の保全～

地域Ⅱ
～地域の振興～

水のコントロール
～瀬切れの問題など～



財政
～負の遺産～

第3回 全体報告

報告者：鳩代利博

- 5つのテーマについて議論をした。
- 「地域Ⅰ～これまでの取り組み～」
- 「地域Ⅱ～地域振興～」
- ・地元の大きな犠牲の上に成り立っていることを理解する必要がある。
 - ・地元の人にも分かっているということもある。
- 「自然」
- ・自然とはどのような自然なのか。自然の定義は？
 - ・ダム建設による自然環境への功罪を明らかにする。
 - ・民間の乱開発が防げるということもある。
- 「水のコントロール～瀬切れ～」
- ・瀬切れの原因と影響(特に生態系)を明確にしていく。
 - ・原因は、雨・雪の量の減少、地下水の低下、農業用水としてとられる、などが考えられる。
- 「財政」
- ・逼迫している。
 - ・予算を圧縮する代替案の検討が必要である。
 - ・費用対効果を考える。

討論中に出的意見

- ・安全性についての議論は特におこなってきた。
- ・水没地域の方々が平成8年には移転された。生まれ育った地域を離れた人は大変な苦しみを感している。
- ・ダム建設によって土地を離れた人たちの心情を理解しよう。
- ・利水は今の状況では必要ない。
- ・移転者の中の年寄りは大変である。
- ・今まで取り組みをしてきたことを皆が認識すべきだ。
- ・現在は財政や景気など時代は変わってきている。
- ・現状を正確に把握すべきではないか？
- ・過去までの取り組みは、将来のために必要だ。
- ・土地はすでに買収されている。(ダム建設のために)
- ・ほったらかしになる土地は、今後の取り組みで考えていくべきではないか？
- ・ダム周辺の住民の協力が今までの取り組みにはあった。
- ・人口はどんどん減っている。
- ・高齢化が進む。
- ・地域振興を考えて、今までの取り組みがあった。
- ・ダムを作って、補助金をもらおうという考えがおかしいのではないか？
- ・取り組みの経緯を明らかにしていくべきだ。
- ・ダム建設で水特法によって、福祉の向上がはかられる。
- ・36くらいの事業がおこなわれてきた。主にインフラ整備。

利 水 ～水需要の減少～

自然への功罪を明らかにすべきである

ダム建設が地元の自然を見直すきっかけになる

どのような「自然」を考えているのか？

民間の乱開発を防げるのではないが

ダムによる人工的自然いかなものか？



- ・過疎化地域において、ダム建設は観光資源になる。
- ・先行工事で道路建設がすすんでいる。ダムが建設されようがされまいが関係ないのでは？
- ・観光としてダムを使うのがよくわからない。琵琶湖もあるのに、観光として成立するのか？
- ・人口がどんどん減っている。
- ・地域は過疎化を防ぎたいという思いがある。
- ・過疎地域になにか拠点をつくらなければ。
- ・自然を楽しむ、釣りを楽しむなどソフト面での方策を考えている。
- ・成功事例をふまえないといけない。
- ・道路ができれば、過疎地域から若者が流出してしまう。
- ・インフラができればできるだけ、過疎化は進行する。
- ・大企業を誘致でもしなければ無理ではないか。
- ・観光のためにダムを作るわけではない。
- ・部外者が議論するのはナンセンス。
- ・皆の認識が必要。
- ・余呉町だけで「観光」など考えていくべきではない。
- ・下流とどのようなやりとりができるのかを考えていくべきだ。
- ・明らかにすべきことは、上流と下流でうまく取り組めることはないだろうか。
- ・水特法にもとづく事業が展開されたことは明らかにすべきだ。余呉町はダム建設に伴う将来ビジョンがあった。
- ・成功事例は参考資料として必要ではないか。
- ・ダムがあるから、地域振興をするという考えがおかしい。
- ・地域自身が努力すべきだ。

自然環境

- ・ダム建設の議論が、破壊だけでなく、維持していくことを考えるきっかけになる。
- ・ダムは琵琶湖の水位低下を抑制する。
- ・水は自然に流れるべきだ。
- ・植生はきれいな水によって育まれる。

- ・すべては利点、欠点である。バランスを考えていくべきだ。
- ・土砂のどのくらいの量を下流に流れるようになっているのかは不明である。
- ・ダム建設に民間企業が入ってきている。民間の営利目的のために活動している。
- ・個人の山が民間の手に渡らないよう補償金等使って守っていくべきだ。
- ・自然は人との関わりでできる。
- ・自然にはすでに人の手が加えられている。
- ・自然に対しての利点と欠点をより明確にして示されるべきだ。
- ・ダムに頼らない取り組みを行うべきだ。
- ・今まで補助金を出してやせた山に手入れをしてきたが、山は荒れている。
- ・自然との共生をもっと考えていくべきだ。
- ・ダムがつくられた後の新たな環境を考えていくのも大切だ。
- ・動物に対しての環境を考えるべき。データがないから議論できない。

水のコントロール

- ・堰のコントロールを考えていくべきだ。
- ・瀬切れは何が原因で起こったのか？
- ・丹生ダムは水のコントロールの観点で不必要だ。
- ・瀬切れは部分的に連続的におこっている。
- ・S60年代はじめ頃におこってきた。
- ・降水量、降雨量の減少。
- ・瀬切れによって、川の生態系が破壊されている。
- ・琵琶湖の水位低下も生態系を破壊している。
- ・自然現象にまかせては瀬切れは解決できない。人工的な取り組みが必要。
- ・川には瀬切れをおこさないために水量が必要だから、丹生ダムが必要。
- ・農業用水をとりすぎではないかという点については、実際農業用水は足りていない。琵琶湖から水を引き上げている。
- ・地下水の低下が瀬切れを引き起こしている。
- ・高時川は天井川だから、水が地下に流れていく。
- ・農業用水の量はどのくらいかを明確にしてほしい。
- ・発生した時の影響をはっきりしてほしい。

財政

- ・現状は最低限の取り組みしかできない。
- ・今までやってきたからといって、やってしまうのは問題。
- ・予算を圧縮できるのでは？
- ・ほんとに負の遺産なのか？
- ・ダムはどんどん劣化していく。
- ・昔のような成長をしている現状ではない。
- ・琵琶湖計画当初に丹生ダムはあった。
- ・丹生ダムは洪水対策(治水)が第一であった。その後下流域の需要で、利水の観点が増えられた。
- ・金の問題ではない。地域住民の意志を尊重すべきだ。
- ・費用対効果は見込める。
- ・ダムによって、どうして洪水がおこらなくなるのか？
- ・堤防の決壊の方があふれるより被害が甚大。

議論を終えて

- ・ダムには反対。
- ・財政の点で反対。
- ・いろんな視点がダム建設には必要。
- ・堤防強化をしていこう。
- ・指標となるデータがほしい。
- ・楽しい議論ができた。そして、その大切を感じられた。
- ・ダムに頼らない町づくりをしていきたいと思う。
- ・住民の生活を守っていく大切さを実感した。
- ・もっと関心を集める必要性。
- ・丹生ダムは過去、現在、未来において正しいと思う。
- ・現在の問題は、ダム建設で解決できるだろう。

第4回
丹生ダム対話討論会(1)
第2グループ

【 討論参加者 】

・丹生 善喜 ・コ玉 博之
・千代延 明憲 ・寺村 京子 (敬称略)

グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第4回 全体報告

報告者：千代延 明憲

本日、河川管理者が提示した、“丹生ダムの調査検討項目とその内容（資料④）”
に対して、下記の6項目の追加があった。

① 逆水による余呉湖への影響の調査。

② 調査結果を、メリット・デメリットを含めてわかりやすく。

③ 瀬切れについて、他の河川についての実状とその対策。

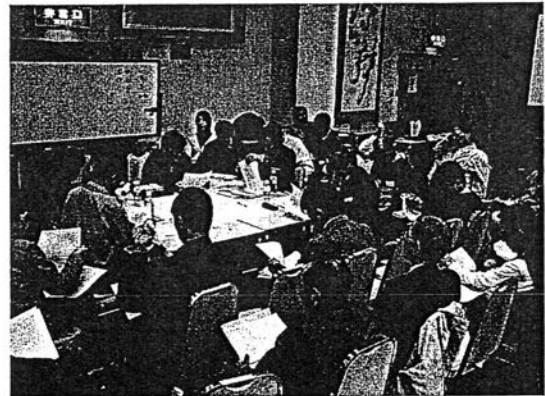
④ 丹生ダム総事業費の明確化。

⑤ 水源税について、どのように活用されているのか他地区の実状を調査。

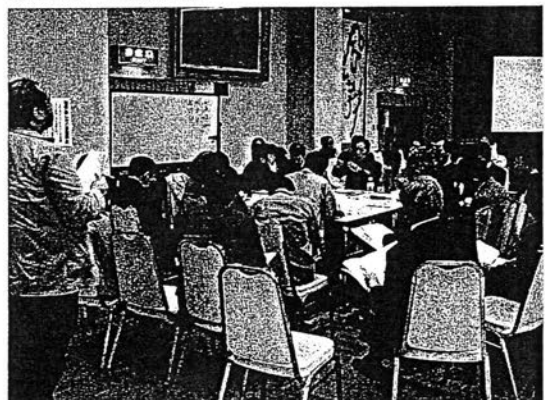
⑥ 高時川流域のここ30年の変化を知りたい。

討論中に出た意見

- ・調査費用について、NGOの資料を加えていくのかを検討してほしい。
- ・直下の人間という立場から、ダムが中止になったらどうなるのかを話して考えていきたい。
- ・ダム建設を中止しないほうがよい。
- ・今後の村作りはどうなるのか。
- ・ダムは地域の環境にどう影響するのかが問題。
- ・気象変動、温暖化は丹生ダムについて討論してどうなるのか。どう関係してくるのか。
- ・30年たってもデータが出てこなかったのに、1~2年で出てくるのか？
- ・今までに集めたデータを順をおって出してほしい。
- ・今まで議論をしてきて、きちっと答えが出てきているのだから、資料はたくさんあるのではないか。
- ・気象の調査は国の調査項目であってここだけに経費をかけるのか。
- ・ダムの問題があるから気象の問題を考えるのは順番が間違っている。
- ・水源涵養林について教えてほしい。
- ・水源涵養林は大雨には抵抗できない。何mmがリミットなのかという資料がほしい。
- ・農業水利状況について、量のことだけでなく使い方の改善をしたい。
- ・余呉湖に外来魚が入ってくるという調査をしているのか。
- ・余呉湖に琵琶湖から水をあげすぎると、汚れてダメになるのではないか。
- ・水路の漏水を防ぐと、琵琶湖からの逆水が1/10になる。そこを考えてほしい。
- ・農業水利は農業機関と関連して考えていくべき。
- ・余呉湖への環境影響も論じられている。
- ・農業機関と関連して考えていく。
- ・治水バランスの関係。
- ・上流部の漏水の調査資料がほしい。
- ・瀬切れが起きそうになったら、試薬を流すと、その漏水はどこを通っているのかということがわかる試薬がほしい。
- ・完全に堤防を覆ってしまったり水を遮断してしまったり自然を破壊してしまう。
- ・水路がわかれば、そこはどうかしたい。
- ・瀬切れの問題はダムでない代替案を調査してほしい。
- ・瀬切れについて、こういった調査をしているのかを話してほしい。
- ・河川の河床を下げるだけで20~30年かかるのではないか。
- ・昔は土砂を売却し、それで道路や堤防を作ってきた。
- ・河床にたまった土砂を売ることは可能か。
- ・途中に水を溜める低い土地がある。しかし、そこには既存の財産があり、そこに住む人達に迷惑にならない方法がある。
- ・ダム事業を多面的な効果、影響を考えてやってきたことはありがたい。
- ・ダムによる経済効果、保水の効果について、メリット、デメリットを示してほしい。メリットが多ければ納得できる。
- ・高時川の流域にどれだけの人が住んでいるのかを知りたい。30年前とは状況が違ってきていると思う。
- ・瀬切れの問題は、他の河川ではどうしているのかを知りたい。
- ・瀬切れが起きた時に、土壌がどうなるのかというマップが作られている。
- ・この流入には何haの面積があって、その河口にどれだけの流量があるか知りたい。
- ・ダムを作った時と、作らなかった時の森林保全策は違うのではないか。
- ・森林破壊が進んでいる。
- ・森林に、経済的な理由によって民間企業が入る。公共的な援助によって守るべきではないか。
- ・現実に森林保全をやっている所を調べてほしい。
- ・高時川流域の人口の変化をふまえて治水が必要かを検討する資料がほしい。
- ・調査資料を、メリットデメリットをふまえて、分かりやすくしてほしい。
- ・ダムの水位を下げるという話はあるのか。
- ・破堤を避けるために堤防を高くすれば、エネルギー的にも問題が出てくる。
- ・H6年の異常渇水時に、報告されていない実態があったのできちんと報告してほしい。



第2グループ討論風景



第2グループ討論風景

第1回
丹生ダム対話討論会(2)
第2グループ

【 討論参加者 】

・浅見勝也 ・兜玉博之 ・鈴木秀利 ・千代延明憲 ・寺村京子 ・横山屯
(敬称略)

グループファシリテーター：森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)
記録：花岡史恵

第1回完成 シート

討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに
筆記したポストイットを記載したもの

1. 今回の対話討論会で検討する項目の確認

治水	流水の正常な機能の維持(環境)	琵琶湖の水位低下抑制(環境)	異常湧水時の緊急水の補給	利水
----	-----------------	----------------	--------------	----

2. 対話討論会で検討を要する課題の抽出

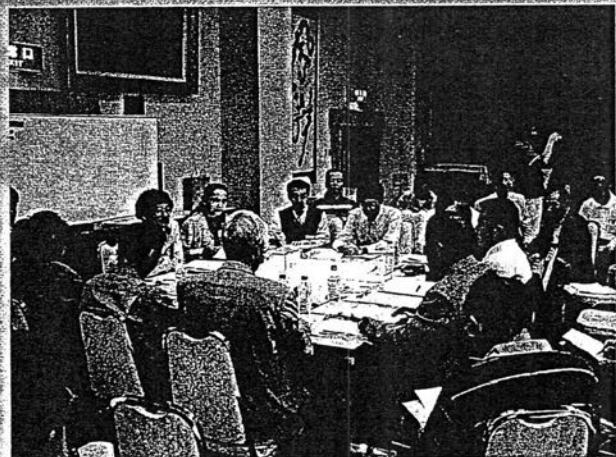
世界規模の地球温暖化が進んでいる →考えられない雨が降っているこれを今回のダム建設とどう絡めるのか	人口減少に関する利水の問題も考える必要がある	河道の確保が必要、ダム運用のシステム等基礎がないのではないのか →河床を永続的に確保(保護)される方策がない	今回ラウンドはダムの是非を問うのであれば、ダムは治水利水が中心ではないのか →それがない段階で議論は困難	治水に対してのダム有効性は？ →その観点を抜きにして、ダム建設の有無は検討できない →客観的データのないまま「論拠に基づいた議論」は	ダムは必要か必要でないかを議論する上において、治水利水なしでは、論拠に基づいた議論ができない	ダム賛成で来ているが、対話討論会では賛成反対に関係なく、悔いの残らない関わり方がしたい →慎重に進めたい	論拠に基づくダムの是非 →治水利水のデータがないと困難 →治水利水のデータを出してほしい
--	------------------------	---	---	--	--	---	--

3. 河川管理者からの返答

今回は、治水利水以外の議論が可能なデータを提示している	治水に関して9/25県が代替案を出しているし、国も検討をしている	治水の議論は滋賀県の「川づくり会議」でも行う →治水の観点における河川改修は「川づくり会議」「淡水の川づくり検討委員会」にて策定	利水に関しては現在確認中である →利水に関しては出来るだけ早急に答えを出す	追加情報が必要な場合は次回以降に提示する →他事例による提示は可能
-----------------------------	----------------------------------	---	--	--------------------------------------

4. 第1回対話討論会の【進め方】

議論の中から新しい議論も生まれる
→それを次回につなげる形で進めるしかない
→とりあえず、今ある資料で話をすめてみる



グループ討論の様子

5. 瀬切れについてのダムの是非

【ダム建設への疑問】

瀬切れの原因は農業用水のとりすぎではないのか

→本来川に残すものまでとりにすぎている

→瀬切れと言いつつ、農業用水の不足対策の問題である

→川から根こそぎ水をとっている

→これを「瀬切れ」として、その対策にダムを考えるのはおかしくないか？

資料4-1のP2「瀬切れ」の4つの要因の寄与率は？

→取水施設からの取水が大きいのではないか？

→これを責めているのではない。地域で水が必要であればそれでよい。瀬切れしても仕方ない

→しかし、それをダムでかさねる必要があるのか？

P9「河道特性に関する変化」で、河道の砂の移動や、河床が変わった前と後を調べてほしい

→水が流れているところから堆砂がどのくらいあるのか

→水の流れる河道を確保できれば良いのではないのか

頭首工までの雨水をためる面積→取水面積を上げれば、洪水期の水は確保される

→一反の田には約7tの保水能力がある

高月町、余呉町、びわ町、湖北町では、高時川の水を必要としているかもしれないが、木之本の一部では、高時川の水に頼っていない

【河川管理者の返答】

堆砂を掘ったから水が流れるかどうかは調べてみないとわからない

→現在あるデータとしては提示する

【ダム建設賛成の意見】

高時川流域では、水需要・都市基盤の整備が進んでいる

→防火用水、貯水槽などに、高時川の伏流水が利用されている

→水量安定のためには水を流す必要がある(貯水池が必要となる)

→現実には、農業プランに基づいた水量確保をしているので必要な水は川から取るべきである

将来的に地元では水不足になることが見越されている

→伏流水を高時川流域の生活用水として使用している

水の利用量は各町データがある

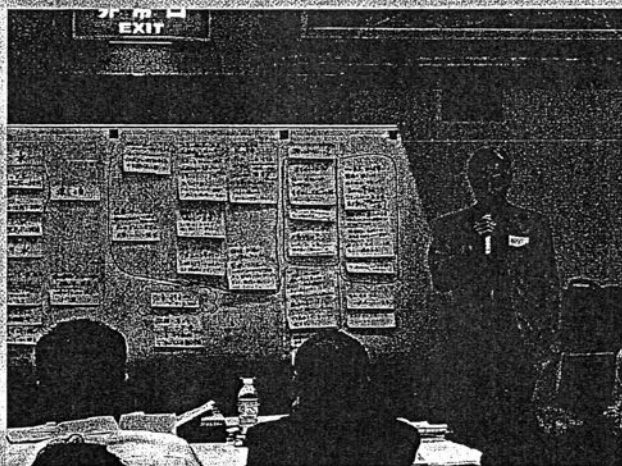
→高月町、余呉町、びわ町、湖北町は水の利用量が増えている→高月町、余呉町、びわ町、湖北町は高時川の水が必要である

6. その他

資料4-2のp14「何故風景が変わったのか」については、以下のようなことが考えられる

→管理が行き届いていないのも一つの要因、洪水調節としての丹生ダムに期待があったというのも要因の一つである

→ダム建設を行うというのを前提で考えていたから、管理がおろそかになっていると考えられる



全体発表の様子

グループファシリテーターのコメント

討論者5名は第1段階からの参加者である。これまでの討論会を通じて、立場や意見の違いは互いに概ね把握している。今回取り上げた瀬切れや地下水の問題、さらに治水の問題などについて、意見の相違点をさらに掘り下げ、明確にするとともに、それをダムの是非論につなげていければ、と思う。

第2回
丹生ダム対話討論会(2)
第2グループ

【 討論参加者 】

・浅見勝也 ・兜玉博之 ・鈴木秀利 ・千代延明憲 ・寺村京子 ・横山屯
(敬称略)

グループファシリテーター：森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)
記録：花岡史恵

第2回完成 シート

討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに
筆記したポストイットを記載したもの

1. 【瀬切れの捉え方について】

瀬切れ解消は 不要である	・瀬切れの とらえ方に 問題がある 。農業、生 活用水とし て水が必要 だからおこ っている	不足してい るから根こ そぎ水をと っている	根こそぎと って川の水 がなくなっ ている。だ からといっ て、このた めにダムで 水をためて よいのか	どんなに水 がほしくて も根こそぎ とすることが 許されるのか	昔からやっ てきたのだ から今もや るという時 代ではない	取水して瀬 切れが起こ るはそれで よいことでは ないのか(や むをえない)	その対処の ためにダム を作るとい うのは、ダ ムの必要 性とはいえ ない
瀬切れ解消は 必要である	・歴史的に高 時川は水不足 という経緯が ある	元々水不足の ところに農業 プランがある	自然的要因、 人工的要因が あるが、ここ では、自然的 要因が大きい	2.7m ³ /s、 琵琶湖から水 をすいあげて いる	地下水位も下 がっている →これは、要 因として自然 的なものの方 が大きい	扇状地でしみ こんでいて いる上に、農 業プランの中 で利水対応し ている	今までの歴史 を繰り返さ ないように頭 首工がつくら れている
	また、ダム目 的は多目的で あり、瀬切れ 問題だけでは ないので、ダ ム建設は、原 則としてくず せない	また、瀬切れ は、環境問題 でもある	・地下水位を 安定させるた めには、高時 川に水が流れ ることが必要 である	瀬切れを解消 すると、地下 水位、環境、 地元の経済安 定へとつなが る	・流水の正常 な機能の維持 と水を安定的 に取水する必 要がある	水を取ったと しても、川に は常に水があ るようにすべ きである	農業用水の取 水により、瀬 切れがおこる というのは、 昔から水が必 要なときには 、川から導水 路を引いてい た
	水を取るとい うのは今まで に一生懸命や ってきたこと 。これは普通 の行為である	・頭首工がで きる前、でき てから、瀬切 れに対して2 つの意見があ る	H8.9~12、 S40.50~山 材の伐採保水 力の低下によ り、流量が不 足している	昔は、7月ご ろまで残雪が あったが今は 5月ごろまで になっ ていない →水が不足し ている。地球 温暖化の影響 も出てきてい る	・非かんがい 期の取水につ いて地元の意 見は？	雪解け水を川 に流している →それを生活 の手段の一部 としている。 また、川の水 を堰き止めて 火災時に備 えている	
瀬切れ対策よ り農業プラン 見直しが必要	・農業用水が 足りない、と いっているが 、田んぼをや すめている状 態で水はそん なに必要ない のではないか	農業プランが 今の時代にあ っているのか ？それを調べ ずに、水が足 りないという 議論は出来な いのではない か		その他意見	・漁業人口が 減っているが 、水を増やし て、魚を増や して、漁業の 人を増やせる のか	・まちづくり の観点から、 川に水を流し ているのでは ないのか (景観配慮の 視点)	
瀬切れ対策 より水管理 が重要	・出る方と入 る方との理論 が必要。高い ところから低 いところまで 排水のおとし が少なかった	農業について は、水の管理 がきちんとで きれば水の量 は関係ない	1反・5畝の 収穫といわれ るが、水の管 理次第では、 1反・10畝 の収穫になる	高時川より低 い田、川の地 位→これが地 下水位に関係 している	入る水と出る 水を分離しな ければいけない というのが 昭和30年代 からの農業政 策である	・入ったもの がすべて吸収 されるのであ れば、瀬切れ 防止のために 河床断面が確 保できればよ いのではない か？	農業用として は、土地の高 低差で給水で きるよう暗渠 排水が敷かれ ている。最初 から、35cm ~40cm下げ て計画されて いる

2. 【瀬切れ解消についての質疑】

・3 t水を流して瀬切れは解消されるのか

農業の給水がらわれているが、排水路の水位を今のものと昔のもの比べないといけないのではないか

管理者返答 概ね3 t流れていれば瀬切れが解消されている。とった程度をめやすとして、3 tという数値をあげている

3 t以下だと瀬切れがおこっているのが現状である

許可水利権 2.49 tはとる（取水）、かんがい期（8～9月）11 tとる、といったように、水利権上水を取る量が決まっている

・節水の取り組みは？

管理者返答 農業用水になるのでここでは答えられない、数値としては出しにくい、地形を利用して工夫はしている

3. 【琵琶湖の水位低下について】

琵琶湖の健全な環境維持に丹生ダムが必要

・琵琶湖は、1600万人に潤いをあたえている広大な水資源であり、古代湖である。この琵琶湖の水により、近畿の人々の生活が支えられている

そのためには、健全な琵琶湖の維持が必要である

環境的に指摘をうけている沿岸帯の復元が大切である。それが琵琶湖の保全につながる

・ダムによる水深調節が10数cmでも水の量は、1億 tになる

琵琶湖に水を補給する手段として水深調節が必要であり、6/15～生物の繁殖能力があがるといったことへの配慮も必要である

12～14 cmであっても、丹生ダムからの水深調整が生物に与える影響は大きく重要になる。生物（貝類）が沿岸帯に生息、稚魚なども生息している

・異常渇水期にダムで水をためて、琵琶湖に給水するだけの能力を持つのは、丹生ダムである

生物生息、景観安定した環境を次世代につなぐ。また、憩いの場など琵琶湖の健全な環境を維持することができる

琵琶湖の健全な環境を維持するためには、流入してくる水を浄化するために、高いところに内湖があつて水量調節することが必要であると思われる

その内湖の役割を丹生ダムが担える

疎通能力を上げれば丹生ダムは不要

・堰をコントロールして疎通能力を上げる、というので良いのではないか

上流から水を補給しなくてもよいと思う

水位低下に対して、高額なお金をつぎ込みすぎている

渇水だから、水を貯めるといふものではない。10数cmのためのダム建設では評価できない

4. 【統括的なダム建設の是非】

ダム建設へ疑問あり

・ダムは環境も悪くするし、お金もかかる

足りないからもっとほしいというのはおかしい

借金の大きい、負の遺産を子孫に残してよいのか？

ダム建設は必要

・今が良かったらよいというのではない

子孫に安定した環境を残したい流域住民の意見を聞き入れてほしい

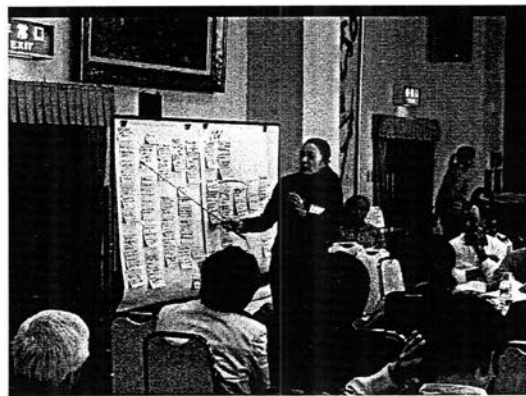
地域住民の生活保証は必要である

得るものもあれば失うものもある。得るものを大きく、失うものを小さくする努力が必要である

流域住民に総合的にプラスになることを考えるべきである



グループ討議



全体発表

グループファシリテーターからのコメント

瀬切れの発生状況とその原因、頭首工での農業用水及び生活用水の取水、地下水位の変動などの相互関連を整理したうえで討論に入った。

まず、瀬切れ対策は、ダムの多目的のなかのひとつ、ないし副次的な機能である、ということでは合意がなされた。また、瀬切れの発生要因は、自然的なものか人工的なもので議論になり、とくに農業取水の現状と取水量について、意見が分かれた。

続いて、琵琶湖の環境を保全していくうえで、その水位を保つことが必要であり、とくに渇水期に水の補給機能を有する丹生ダムの重要性が主張された。これに対して、渇水期にダムからの給水による10数センチの水位上昇は評価できない

(そのために巨額な投資を行うことは納得できない)との意見が出された。

第3回 丹生ダム対話討論会(2) 第2グループ

【 討論参加者 】

・ 兜玉博之 ・ 鈴木秀利 ・ 千代延明憲 ・ 寺村京子 ・ 横山屯

(敬称略)

グループファシリテーター：森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

記録：工藤徳人

第3回完成 シート

討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに筆記したポストイットを記載したもの

1. 【治水対策】

新たな調査検討内容に関する質疑

一般論ではなく、丹生の特性を踏まえた検討が必要

治水容量、利水容量が決定する前にコストをつめた比較をすべきではないか

治水対策は工期・予算のつけ方で変わる。草津川放水路、県→国の例もあり短期対応可能

ダム+河道改修アクション(時点調整)必要

コストが明確でない状況で治水対策の優先検討をするのは望ましくない

第2回の継続検討

国交省丹生ダム建設重要(繰り返し説明)

一日も早いダム建設を水没地権者のひとりとして発言

(早期実現)地元住民は治水にたいして不安、安心できる生活を求める

代替案、ダムの必要性

ダム代替案、5案(滋賀県)工期短縮の工夫、検討し議論(草津川放水路)
二堤防強化を最優先して実施する

地域が望む治水対策を早期に実現してほしい

今までにない大きな台風、数の増加→治水対策 ぜひとダム

治水効果の早期実現・気候変動に対応した治水対策

既設ダムの情報を有効活用

集中豪雨(ダム下流)に対してもダムは有効か?堤防強化が重要なものでは

河道改修費用はどの程度か?(実費)
=これまでは十分ではない、これからは適正配分

これまで堤防強化に使用したお金
=災害対策費用のみ。これからは防止対策を予定

： 討論者

= ： 河川管理者からの回答

2. 【瀬切れ】

高時川の瀬切れ→田川の改修影響があるのでは?
=確認していない

地域は利用できる水を求めている

瀬切れ対策現状は努力不足と思う

3. 【環境対策】

ダム建設にともなう河川環境変化検討が不十分(例えば水生昆虫、濁度、水温など、そう簡単ではない)

地域用水は適正量を確保(多いのでは)現状過大・節水・工夫が必要

瀬切れの防止は生物にとって重要

ダムの影響は通年。琵琶湖水位は期間限定



グループ討議



全体発表

4. 【異常渇水対策】

瀬田川洗堰からの放流量
1500tアップ 琵琶湖
洪水期制限水位を
-20cm→
-10cmに
変動してほしい

節水（ダム補給削減）上水道等に対する
取水制限ルールを設定してほしい

渇水対策のルール化をお願いしたい

取水制限の頻度3～4年に一回

ダム補給の削減。フラッシュ放流の踏み込んだ検討をお願いしたい
＝フラッシュ放流は渇水時削減実施済みである

琵琶湖が大変なとき、大川への放流を削減できないか

5. 【討論会の成果】

意見まとめたものを国交省に伝える。これが一番の目的

成果・手続き
流域委員会（12/1）
には討論意見を国交省を通して提出してもらう

意見書 内容
精査→国交省へ提出→次流域委員会（12/1）

意見書の内容
12/1分はファシリテーターにまかせる 最終国交省分は文案を送ってもらい討論参加者がチェックする

最終意見のチェック、
12/1→配信→参加者チェック→ファシリテーターが判断→国土交通省に提出



グループ討議

第 3 グ ル ー プ 意 見

第3グループメンバー

丹生ダム対話討論会(1)参加者

井 口	賢 一
泉	良 之
小 梶	猛
川 地	勲
近 藤	斉 伸
澤 村	繁
澤 村	宗一郎
立 見	安 弘
西 尾	新 治

丹生ダム対話討論会(2)参加者

赤 井	昭
近 藤	斉 伸
杉 田	信 男
寺 田	英 明
西 尾	新 治

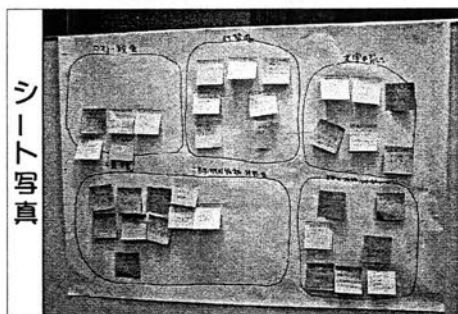
第1回 丹生ダム対話討論会(1) 第3グループ

【 討論参加者 】
・澤村宗一郎・近藤齊伸・西尾新治・立見安弘・泉良之
・澤村繁・川地勲・井口賢一・小梶猛（敬称略）
グループファシリテーター： 中村伸之（ランド・デザイン）

第1回完成 シート

コスト・税金	代替案	水害の恐ろしさ
生命力の大切さ、移転集落、新しい家・新しい街→高齢者の環境対応が心配 琵琶湖環境保全 源流から淀川水系マクロ視点整合性、治水、利水（伏流水・農業水） 医療・年金・介護など福祉の向上にこそ税金は使われるべきダムは環境破壊のダムに国民の税金を浪費するのは問題。 行政財政面から利害対立は問題 住民負担はどうか？	ダムに代る治水対策は何か ダムに頼らない治水対策をこれ迄どのように講じてきたか？ なぜ全国でダム等の大型公共事業の見直しが叫ばれるのか？を考えた ダムの代替案、どのような方法があるのか、検討が必要 工事に着手しているのに何故見直しか 地震対策？断層	伊勢湾台風の状態災害の体験、立地条件、治水の立場 水害や土砂流の恐ろしさは 水に対する不安解消（差別との戦い・治水の必要性） 異常気象と治水・防災対策に関して 治水ダムの必要性、水に対する生活不安 洪水時の河川の水位の上昇は数分以内に1mくらいは増水する、上流域では何トンもの岩が流れる。その恐ろしさは忘れない

環境・渇水・河川維持・生態系	河川改修・浚渫について
森林の大きな保水力 琵琶湖（下流）をみるより山（上流）をみる生命の大切さ なぜ今？なら環境？ 昔の内湖のよさをもたせる 山をみるどんな水が流れてくるか 本当にダムは環境破壊なのか 遺跡の保護 伏流水利用（地下水）上水道 瀬切れ（渇水）7～8月高時川砂漠（洪水）生態系→子供の遊び場 農業用水とのバランスに不都合はないのか	治水代替案としての河川改修は高価なものと、又時間を要する 放水路と余呉川→丁野木川→早崎干拓（もとにもどす）→田川→姉川放水路 びわこをぐるっとつないで 河川改修水利権がじゃまする 集落移転は下流にもあった 浚渫がS40年頃より実施されない ダムの安全弁のため放水路を作って下さい琵琶湖の環境 かすみ堤二重堤遊水地の設定堤防強化河床掘削を優先すべき



シート写真

第1回 討論風景



第1回 全体報告

報告者：西尾新治

サブ報告者：小梶猛

5つのテーマで議論。

- ◎河川改修の困難性→ダムの必要性（高時川は天井川で流域も開発されていて、災害が起こりやすい）→水利権など。流下能力を考えて、ショートカットやかすみ堤の指摘も。
- ◎水害の恐ろしさ →ダムによって不安解消 ◎ダムにかわるものはないかそれが行われていないとの批判。
- ◎渇水対策（生態系への影響） ◎コスト面での提案（住民負担）、税の考慮→他事業との関連。

討論中に出た意見

- ・丹生川と鷲見川の近く、水利、高時川の支川としての水の重要さと高時川の水を半分とって水のあそびが起った所からの水の大切さを考えるべきである。
- ・姉川、高時川の下流1kmの所に位置する場所では、S50年の災害に遭遇した際には、200mの川幅に膨れ上がり、堤外民地であるため（1/3が川の中にある）危険を感じた。
- ・治水、地域を守る中でダムに頼らない方法をどのように取りくんできたのかまた、今まで責任をもって行ってきたのか疑問である。
- ・世界的な異常気象が大雨を発生させている。100mm/時の豪雨が発生したこともある。
- ・一方、渇水もある。高時川の現状は沿川の高度利用。
- ・流下能力が低い所の河川改修は、面・点・線での取り組みが必要である。
- ・ダムの安全弁のために放水路を作してほしい。
- ・水のにこりが早い。
- ・高時川の下、大津放水路のような感じにしてほしい。
- ・森林の保水力自然林の保水力のすごさをわかってほしい。
- ・治水・利水のコンセンサスはもうついているのでは？
- ・環境との中で調整をするのが大事であると考えている
- ・堤防の決壊も何度かあり、自分の集落に水がたまる状態になっている。
- ・堤防そのものが軟弱で何度も決壊している。
- ・下にある山田川は堤防左右で10cm違う。
- ・水に対する差別をすっとうけている。
- ・利害関係の調整が一番の問題。
- ・治水・天井川・治水・渇水の状態が増えてきている感がある。
- ・農業用水は、水が必要な時にうまく必要な量の水が流れる性能になっていない。
- ・川にはいつも水が流れているという状態をつくらなければいけない。
- ・この地域のブナ林が、もし残っていたら世界遺産になっていただろう。
- ・またアメニティ環境も必要である。
- ・用地買収も進んだのに中止の話しができるのはおかしい。（見直しの話）
- ・高時川の沿川の方は雨が降るといつも大変である。
- ・流域の方はダムが出来ることによって安心感があると思う。
- ・大雨の際には、地下水の伏流もあり大変である。
- ・ダムに頼らない治水対策が必要である。
- ・過去の歴史を知っているのかと言われたこともあるが丹生にブナ林を植える会もある。
- ・ダムを作らなくても河川改修でなんとかなるという事例もある。
- ・流量の制限が大きく見限りされている可能性もある
- ・魚の生態系への影響などの調査をしないとわからない
- ・ダムができる所には遺跡がある。調査する必要があるのではないか。
- ・原生林の保護の話は今までとりあげてくれなかった。
- ・命と財産を守るという話はあるが、全く別の環境になってしまっている可能性がある。
- ・水利権の問題が残っている。
- ・川幅が3m→60cmになっている所がある。
- ・水があればあるほどいいと思う。
- ・利水も治水も河川もダムも一緒に考えなければいけない。
- ・40戸あまりが移転して、堤防の内側にひっこした。集落が2つに分かれた所もある。
- ・人間の文化は流域と共に発展してきた。下流の洪水に対してみんな考えてほしい。
- ・水の逃げ道をつくらねばいけない

グループファシリテーターの意見

かわら版と言う性格上、まず参加者に自他を含めて論点を思い出してもらい、自分の発言を確認する、言い足りなかった、理解されにくかったという自己評価をしてもらい、ことが重要と思います。

このまとめは、その役割を果たすのではないのでしょうか。わかりにくい意見（ポストイットのコメント）はそのままにしておいて、次回への教訓にいただき、テーマ分類のまずいところはそれを考えることで、論点の整理がより深まるのでは・・・また、事情に詳しい人は、これらの断片的なコメントを見るだけでどのような話し合いが行われたかを、容易に理解するでしょう。いずれにせよ、与えられた枚数と時間ではワークショップの完全な復元は不可能です。

1つ1つが不完全でも、語られたほぼすべてを網羅することが、次回につなげる上で重要と考えます。それらを深化させるために、次回のワークショップをするのですから。

第2回 丹生ダム対話討論会(1) 第3グループ

【 討論参加者 】

・澤村宗一郎・近藤齊伸・西尾新治・立見安弘・泉良之
・澤村繁・川地勲・井口賢一・小梶猛(敬称略)

グループファシリテーター： 中村伸之(ランドデザイン)

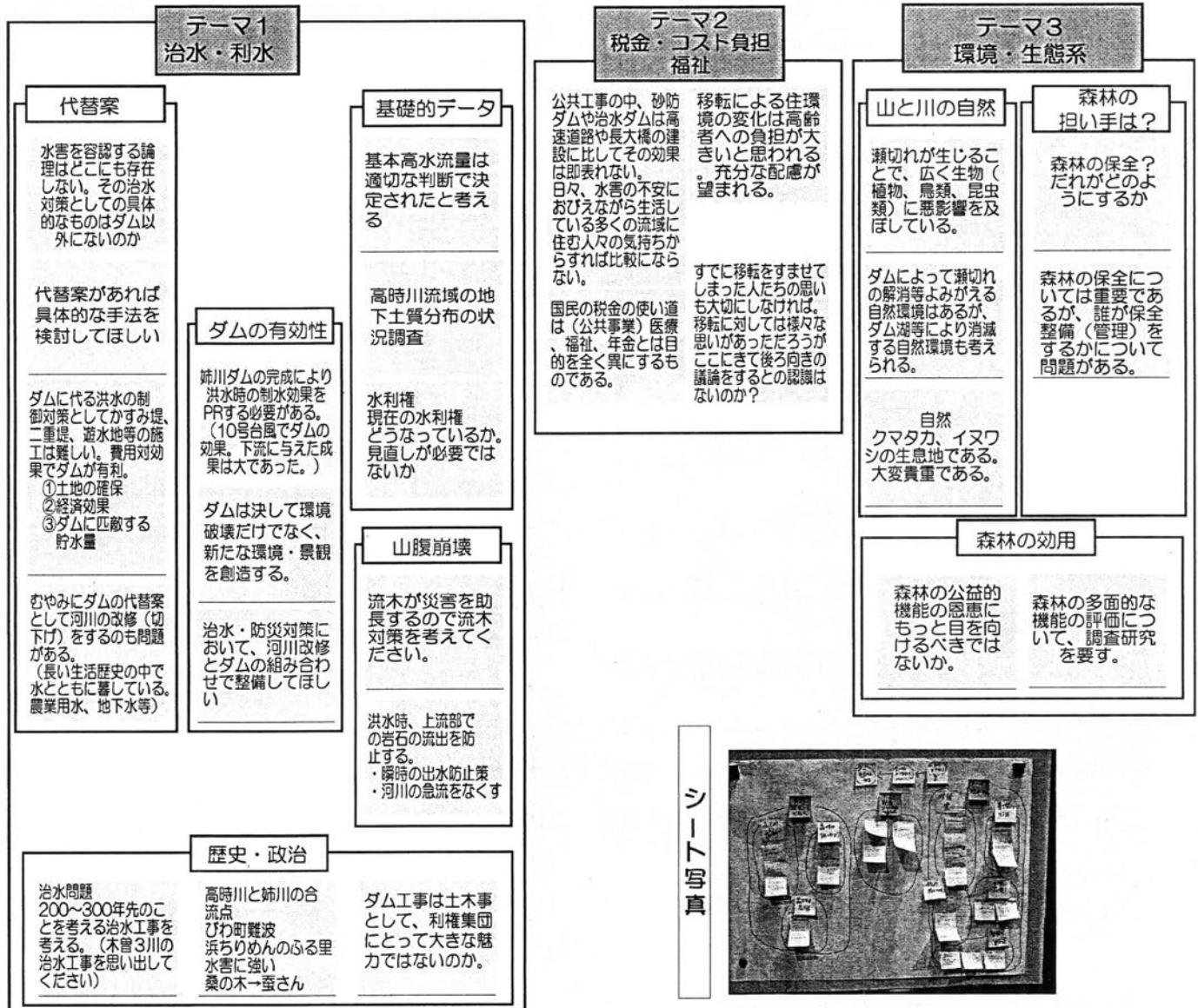
第2回完成 シート

●話し合いの流れ

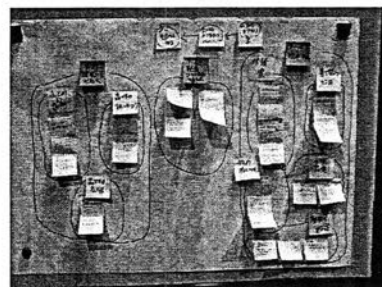
前回の
おさらい

気になる項
目をピック
アップ

少し
深めてみる



シート写真



第2回 全体報告

報告者：西尾新治・小梶猛

5つのテーマで議論。

◎河川改修の困難性→ダムの必要性(高時川は天井川で流域も開発されていて、災害が起こりやすい)
→水利権など。流下能力を考えて、ショートカットやかすみ堤の指摘も。

◎水害の恐ろしさ →ダムによって不安解消 ◎ダムにかわるものはないかそれが行われていないとの批判。

◎渇水対策(生態系への影響)

◎コスト面での提案(住民負担)、税の考慮→他事業との関連。

第2回 討論風景



討論中に出た意見

- ・治水代替案とも関連するが、かすみ堤については、十分調査検討されたのか。
- ・堤防のかさ上げについて、洪水時に高い水位が続き、万一堤防が決壊したときの浸水域が広い。全てをかさ上げすると非常に費用がかかるが他の代替案に比べると安価である。
- ・遊水池については330万m³の治水を考えると1km²で深さ5、6m規模で6箇所ほど必要になってくる。1箇所では2.5km×2.5km(深さ5、6m)必要になってくる。高時川、河川周辺の高度利用を考えると遊水池の設置は難しいのではないかと。(用地取得を考えると)膨大な費用がかかる。
- ・堤防強化について、現状の堤防は材質がいいかげんなものが多い、また良質でできていても地盤が弱いので意味をなさないのである。また地盤改良にしても費用がかかりすぎると思う。
- ・河床掘削については天井川をなくするという点で有効であると考えられるが、残土処分の問題もある。今の河川改修は小規模にしてダムを作るべきであると思う。
- ・かすみ堤は戦国時代からの手法である。堤防の左右の高さが違うのは、用地争いから起こったことである。片側から水を逃がす役割があったが、今の時代に周辺住民はこれを納得するのか。
- ・ダムの安全弁・放水路を作ってください。
- ・公園が行なったものには水路があるので、それとつなげたいのではないかと。
- ・水質は姉川にダムができてから汚れているだろう。
- ・下流域に住んでいる者にとっては、豪雨の時は三日間くらいすごい悲惨な環境になっていた。
- ・毎年水害で悩まされている。
- ・ダムが治水のため一番有効な手段であるか疑問である。
- ・自然がつくったものをダムでコントロールできるのか。
- ・雨の時はいつも川を眺めている。
- ・姉川をみるとダムで水位が調整できているのは確かである。雨の時も川の水位が荒れない。
- ・ダムに替わるほかのものはあるが、天井川の暮らしの中で、いろんな影響があるのでダムはすごい。
- ・上流で石が流され、橋脚にあたったこともある。そのときの音はすごい音である。土石流を流さないようにしなければいけない。
- ・代替案には具体的にはどんな物があるのか。
- ・治水の立場から考えるとダムが全て悪ではない。
- ・全て環境問題を起こしているわけではない。
- ・高時川の堤防構造(地質)を調査して、本当に治水効果があるのか調査してもらいたい。
- ・ダムをつくる方向で考えてほしい。
- ・どういうメカニズムで湧水が発生しているのか調査してほしい。(天井川周辺地域)
- ・堤防決壊の要因は3つある。(越流・洗掘・漏水)
- ・堤防強化に関してはスーパー堤防(下流域)、洗掘されない被覆を行なうなどがあるだろう。
- ・姉川ダムの効果をもっと報道してほしい。いつも被害があった時だけである。どれだけ被害を間違ったのか。
- ・ダムの耐久年数はどれくらいなのか。
- ・ダム本体、堆砂、地耐力、それとも全てなのか。
- ・すごい自然林が残っていたのに、間違ったスギ・ヒノキが植林されている。全て雪で曲がったり折れたりした。
- ・森林の公益的思想をもっと認識すべきである。
- ・河川を掘り下げる時には、琵琶湖との関連もあり、どれくらい効果があるか調査しなければいけない。
- ・河川改修とダムの両立が必要であろう。
- ・ダムで全てを守ることはできない、ただし(治水)全てを河川改修でやるというのはむずかしい。
- ・治水対策から考えたときには河川改修(掘削)は必要であると思う。
- ・流量の設定が大きく見積もりされているという発言が前回あったがどういうことか聞いたかった。
- ・移転集落について、かなり抵抗があったと思うが話を元に戻すのはどうか。
- ・環境がかわったことによる(移転住民の)ケアを考えなければいけない。
- ・住民負担は国民負担である。(一般会計でおこなっている)税金である。
- ・治水以外の目的と比べたときの評価の仕方について(医療・介護)問題である。
- ・ここの議論と国・県との関係がよくわからない。
- ・知事はダムでいくと発言しているので、ここの議論の意味がなくなるのでは。
- ・利水容量の改定、湧水対策容量の規模の設定によってはダムを変えることもある。
- ・環境改善においては帯状の裸地を可能な限りなくすることが重要になってくると思う。
- ・国土交通省の検討項目になる。
- ・そのときは土木的な調査にとどまらないだろう。
- ・瀬切れ防止は重要である。魚だけでなく動植物に対しても必要であろう。
- ・環境悪化を考えていかなければいけない。
- ・森林の保水機能だけでは、ダムでコントロールするようなことはできない。
- ・ある段階までは森林の保水力は認められるが、洪水対策までではない。
- ・湧水時において、森林は蒸発散するために流量が少なくなる。
- ・農水省の多面的機能について答申として出している。
- ・現時点でどれくらい森林保全をしているのか。
- ・森林の要素はわかる。これを誰が管理していくかが重要である。
- ・クマタカ、イヌワシの生息地であるので調査が必要。
- ・河川改修の水利権について、政治家が利権を握っているという。

グループファシリテーターの意見

今回の作業で、皆さんが関心をもたれているテーマがかなり絞り込まれたのではないかと思います。

今回はこれらを材料に、テーマどうしの関連・関係を探ってはいかがでしょうか。

「治水・利水」については、ある程度話が出尽くしたかと思いますが、治水と利水の関係がどうなっているのかを、さらに深めてはいかがでしょうか。「税金・コスト負担・福祉」のテーマでは、あまり意見が出ませんでした。移転住民も含めた地元へのケアは「福祉や地域振興」として考えられます。また、「誰のための治水・利水なのか」が「コスト負担」のテーマに関わってくるでしょうし、「山と川の自然」のバランスをいかに保つか、適正な治水事業を考える鍵になるような気がします。このように、各問題にその場で決着をつけるのではなく、相互の関係性やバランスを考えることで、今後、国土交通省がどのような調査検討を行なうべきかが見えてくるのではないのでしょうか。

第3回 丹生ダム対話討論会(1) 第3グループ

【 討論参加者 】

・澤村宗一郎・近藤齊伸・西尾新治・泉良之

・澤村繁・川地勲・井口賢一・立見安弘・小梶猛

グループファシリテーター： 中村伸之(ランドデザイン)

第3回完成 シート

テーマ1

「治水・利水」

総合的な治水

→バランスはどこにあるか

キーワード

ダム計画条件 の再チェック (治水・利水)	河床林の 伐採も必要	地域が必要と するダムとは 治水と利水の 再チェック	河床林が水の 流れを悪く する(県の管理)	ダム計画条件 の基本データ の再チェック
荒れた山を 何とかする (治山)	自然の山ならば 荒れない	ダムと河川 整備のバラ ンス	洪水の危機 びわ町	計画高水流量 農業や農業用 水のデータは 本当か?
ハザード マップつくる	1月11日の 発表(毎日新聞) 治水ダム ならばOKか チェックする		山崩れ	洪水の不安

キーワード

水と生活の
かわり(農業、
防火、遊び)

産業よりも
生活用水と
しての地下水

文化、歴史、
民俗を調査
し残す

	洪水のピーク が早くなる よくにこる	二次林 原生林が 荒れてない山	台風10号 350mm 217mm 下流は危険 350mmでもOK	渇水
びわ湖の水位 漁業関係者	ピークの遅れ 12時間 ↓ 6時間 スキー場開発	製紙会社 が撤退	洪水対策の ダム	総合的な治水 ダムー河川 (バランス)
水位調整の シミュレー ション	無理のない 植林	植林によって 荒れた	新たな利水 ダムはつくら ない	利水 田んぼの水が なくなる
			ソフト面、 洪水ハザード マップを早急 に作成する	
	水源の 荒れよう	姉川 夏では泳いだ 農村下水 小石に藻がつく	1/11の発表 治水ダムの 否定ではない	浸水被害を 想定し、避 難計画を立 てる

びわ町も
地下水

防火用水
的機能

総合的な
生活用水

第3回 全体報告

報告者： 泉良之、立見安弘

総合的な治水・利水

- 治水・利水。
ダム計画再チェック。
国交省→やらない。
丹生ダムは残せるのでは？
山荒れ→植林に問題。
ブナの植林。(民間が小規模に行う)
・河川林の伐採。
集中豪雨→水が一気に増水。
川の本を切ったらダメだけど、流れの問題もある
・汚れた水が流れてくる。
スキー場の開発。
ダムの必要性。
→ハザードマップ作り。

- 水と生活の関わり。
農用水、防災用水に使われている。
高月町→地下水利用。

移転した地域の文化を残すべきである

- コスト負担
今あるダムが有効に使われているのか
検討が必要。

テーマ2

「環境・文化・生活」

土地を放棄している人にもいろいろな立場がある

水の歴史は米づくりだけではなく……地域の水として集落の利活用

水利権
農業用水だけでなく生活の水

農業用水
慣行水利権
水不足

開発による濁水地域用水
農業用水BOD

藻の繁殖
農業用水

家庭ポンプ
家庭の水
高時川の水

堤防の高さの不公平がある

水質のみならず河川の全環境

子どもの遊び

高月町では水源は地下水

企業の地下水利用
水としてのかわり

町の水道は全部地下水

テーマ3

「コスト負担、税金」

今までのダムの評価
利水、治水、環境

他府県の水需要のチェック

流域の人が一体になっていることを示す

一般会計
(多目的ダム)
ユーザー負担

水資源機構

岐阜県徳山ダム

文化、歴史を残す

生活の変化
対応できる

文化、民俗を調査する

地域の中でも議論する機会をつくる。地域がもっと関心をもつべき

討論中に出た意見

1. 総合的な治水とは

- ・11日新聞で、国交省が新ダム×、水需要必要性なし、新計画プランとあったが、関係有るのかないのか？我々の気持ちはどこへ？
- ・水需要必要性なし。
- ・源流から淀川に流れる事情が違う。
- ・河川改修だけでクリアできるという考え方もある。
- ・水質の問題だけでなく、川環境（子供の遊び、ホタルなど）の指標化を考えていくべきではないか。
- ・ダムと河川整備のバランスはどうするのか。
- ・洪水の危惧をどうにかしたい。
- ・ダムは必要。
- ・移転までしたのに整備をやめるとはどういうことか？
- ・洪水の不安。
- ・濁水との関係。治水と利水の両面でダムは必要。
- ・コントロールの面で丹生ダムは必要。
- ・田んぼには1日おきにしか水がまわってこない。
- ・高時川の濁水。
- ・ポンプは2、3日でなくなる。
- ・農業用水が必要なときに水不足。
- ・社会は変化した地域の水をうまく使っているところもある。
- ・農業用水をとりいれたことで、住民は利活用している。
- ・水利権は農業用水のためのみでない。
- ・現在の容量の中で、濁水対策で下流も負担できないのか？
- ・水利権は建前。
- ・丹生ダムは多目的ダムだから、利水・治水・水力発電、総合的に作るべき。

2 環境とのバランス。

- ・高時川の上流の荒れようはすごい。
- ・ブナ林すこかった→植林した。
- ・計画的な植林すべきだった。
- ・今見に行くと、雪とかで使いものにならない。
- ・荒れてない山のイメージは原生林。自然林なら山は荒れない。
- ・場所や手入れが適切ならば植林も良いが……
- ・製紙会社（今は撤退）。
- ・住民レベルでブナ林植えた。→規模小
- ・山が荒れると山崩れが起きる。
- ・スキー場の開発は集落としては重要（現金収入）。
- ・砂防ダム作っても効果なし。
- ・ダム放流によってどれだけの効果があるのか（シミュレーション）
- ・琵琶湖の水位調査という話は、一般の人は深刻に受け止められない（漁業関係者のみ）。
- ・森林は生産林だけでなく環境を守る森林。
- ・開発一本やりの政治のツケがきている。
- ・大手企業がやってもふみこまなかった。企業の開発は荒廃を残した？
- ・田中知事の脱ダム→全国へ。
- ・ダムに変わる代替案。
- ・姉川ダムには基準がある。
- ・ダムに頼らない治水（堤防の強化など）。
- ・国でシミュレーションして、データ出すべき。ダムの規模が分かるし、ダム以外でもいけるかもしれない。
- ・高水流量と農業用水の取水量がこれでいいのかを再検討。国交省だけでなく農水省も関わるべき。
- ・開発による濁水（BODの懸念）で田んぼに水があるピークに藻が発生、富栄養化現象。
- ・膨大な財政負担。
- ・琵琶湖から水をポンプアップするお金が地元負担となる。
- ・地域用水＝農用水。
- ・藻のせいで洗濯もできない。
- ・昔は姉川で泳げた。
- ・農村下水ができて沈殿ができる。
- ・ダムは造る位置によって変わってくる。
- ・流れをよくする→木を切る（河床から生えている）。
- ・河床が上がってきている。
- ・県の管理だ！
- ・ふだん流水がないから河床に木が生えてくる。
- ・洪水ハザードマップの作成。
- ・洪水発生時の人命救助。
- ・避難対策の整備も必要（ソフト面）

3 福祉、地域振興

- ・移転された方のケアをどうするか（町内も町外もある）。
- ・保証もケアも。
- ・気持ちの問題も大事。
- ・いろんな立場の人がいるから（自然のまま残して欲しい人もいる）。
- ・水没予定地については、調査して文化・歴史を残す。（生活文化も）
- ・集落ごとの文化は異なるから調査すべき。
- ・水の差別を受けている人がいる（堤防が一部分に低いなど）堤防の高さの不公平。
- ・山田川→高時川せきとめられる。
- ・安心した状態にすべき。
- ・高月町では地下水が各住宅へ。
- ・濁水期影響が大きい。
- ・高時川は天井川に近い。

- ・工業の発達の水と関係している。
- ・高時川の流量が大事。
- ・川に水がきちんと流れている状況が不可欠。
- ・高時川の伏流水が影響。
- ・防火用水的な利用は見逃していけないのではないか？
- ・昔からの防火目的を失ってはいけない。

4 コスト負担、税金

- ・事業費の上積み(岐阜県のダムの場合)
- ・水資源機構が全部金出すのか？結局は税金。
- ・ダムの費用は治山治水特別会計。
- ・ダムの建設はユーザー負担と国民負担。
- ・高月町では議論対象にはならない。
- ・国税と県民税で負担される。
- ・ユーザーも払うべきだが大阪府は拒む。
- ・大きな公共事業をどうにかしてくれ。(国民の見る目は厳しい)
- ・余った水は戻すべき。
- ・今まで作ってきた施設の効果を評価すべき。

第4回 丹生ダム対話討論会(1) 第3グループ

【 討論参加者 】

・西尾 新治 ・澤村 繁 ・立見 安弘 (敬称略)

グループファシリテーター： 中村伸之(ランドデザイン)

第4回完成 シート

1. 自然

森林と保水

気象データ

琵琶湖の水質

瀬切れの基礎データ

流水ピークが
早くなること
についての調
査

気象データ収
集の範囲

丹生ダムによ
る水位調整能
力
→水質、にこ
り

瀬切れのデー
タ

針葉樹、広葉
樹の分析。育
林状況

にこりがひど
い
木を切ったか
ら

過去の降雨量
のデータを調
査

琵琶湖の汚れ
、マイナス水
位、汚れ、に
おい

瀬切れの原因

森林の保水機
能との関係

具体的な
・森林保全活
動は？
・保全策

地形・地質

ダムの景観

ダムの水質

流域の地形、
地質、崩壊箇
所、地すべり
調査

ダム完成後の環
境、景観、帯状
の裸地、裸地対
策→ダムの運用
も含めて

ダムの水質予
測調査はどう
するのか？

2. 治水

ハザードマップ

瀬切れと農業利水

琵琶湖の水質

ハザードマッ
プづくりが必
要

高時川は狭い

井明神堰を開
放して瀬切れ
解消を調査す
る(利水)

100mm超す豪
雨→高時川の堤
防
水量、被害のシ
ミュレーション

高時川流下能
力低い
情報を開示
ハザードマッ
プ

滋賀県がハザ
ードマップの
基礎調査を準
備中

1年間くらい
堰を開放して
調査しては…

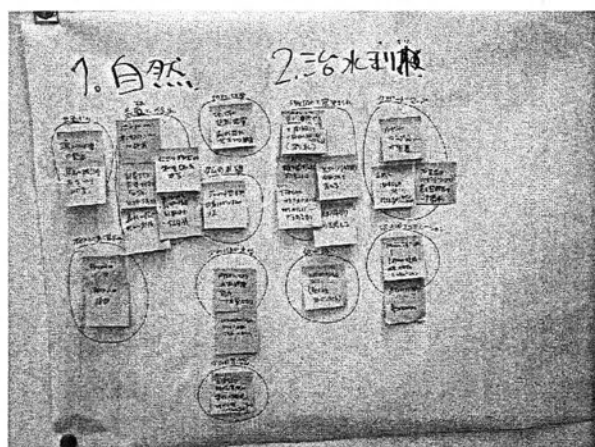
米づくり(水
利用)のあり
方を考える

瀬切れ
地下水の水位
地下水計で
調査する

水の再利用を
考える

放水路

川の放水路を
つくる…(桑
畑を越流させ
る)



シート写真

第4回 全体報告

報告者：西尾新治、澤村繁、立見安弘

◎期限をきって調査してほしい。

- ・森林保全の調査。
- ・洪水のピークが早くなることへの調査。
- ・森林の保水機能との関係。
- ・ブナ林の植樹の実態。
- ・高時川の水質調査。

◎瀬切れ

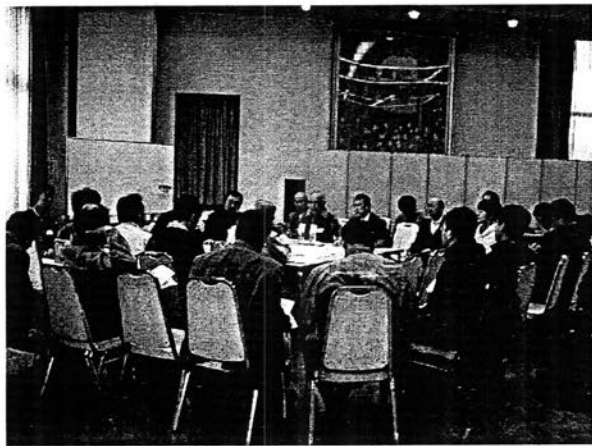
- ・井明神堰を何ヶ月か開放して、水が足りるか足りないか判断。
- ・農業も考えていくべき。
- ・水の再利用を考えるべき。
- ・桑畑にのった越流で水を流す。

◎ハザードマップの作成

- ・全国的な異常気象発生。→高時川の流下能力は？



第3グループ討論風景



第3グループ討論風景

討論中に出た意見

- ・琵琶湖、高時川周辺の長期的な気候変動の調査が必要ではないか。
- ・異常気象の発生のしやすさがあるのではないか。
- ・気象状況は自然相手に難しいが、頑張って活動していると思う。
- ・検討調査をいつまでにやるのかが危惧される。期限を決めるべきではないか。
- ・今まではどのような調査をしてきたのか。
- ・ブナを今から植えると何年かかるのか。
- ・高時川と姉川を比べると、姉川は高時川の2倍の水量がある。
- ・高時川、姉川の合流地点で濁りがひどい。
- ・山が荒れている。
- ・水は年々早くなり、濁っている。
- ・富山の川と比べると、高時川の濁りはマシなほうではないか。
- ・ダムがあるのとないのでは合流地点の濁りは違ってくるのか。
- ・濁りの調査はあるのか。
- ・崩壊箇所、地滑り箇所はどこにあるのか調査してほしい。
- ・独断で調査するより、意見をふまえて調査してほしい。
- ・調査検討に1~2年は長いのではないか。
- ・瀬切れのデータはあるのか。
- ・水質低下についての予測手法はどう考えているのか。
- ・ダムができることによる環境破壊についての調査。
- ・ダム完成による自然環境、景観創造は期待。
- ・琵琶湖の汚れ、マイナス水位は当たり前になっている。
- ・琵琶湖水位と臭いの関係のデータはあるのか。
- ・丹生ダムによって琵琶湖の水位を保てるのではないか。
- ・水の絶対量があれば臭いはカバーできる。
- ・丹生ダムが水位安定機能を発揮する程度をデータに示してほしい。
- ・雨が降った時の高時川の堤防決壊のデータはあるのか。
- ・過去の降水量のデータと結びつけた調査をしてほしい。
- ・高時川流下能力のシミュレーションが不可欠ではないか。
- ・ハザードマップを作成し、人命の安全確保をしてほしい。
- ・地下水位調査はやっているのか。
- ・川に水を流すことを前提にしてほしい。
- ・NGOがブナを植える活動がある。
- ・森林保全策の具体的イメージはあるのか。
- ・森林対策は徹底的にやるには莫大な資金がかかる。
- ・間伐材の利用を促進すれば、保全に役立つのではないか。
- ・H6年の異常渇水時に、報告されていない実態があったのできちんと報告してほしい。

第1回
丹生ダム対話討論会(2)
第3グループ

【 討論参加者 】

・近藤齊伸 ・杉田信男 ・西尾新治 (敬称略)

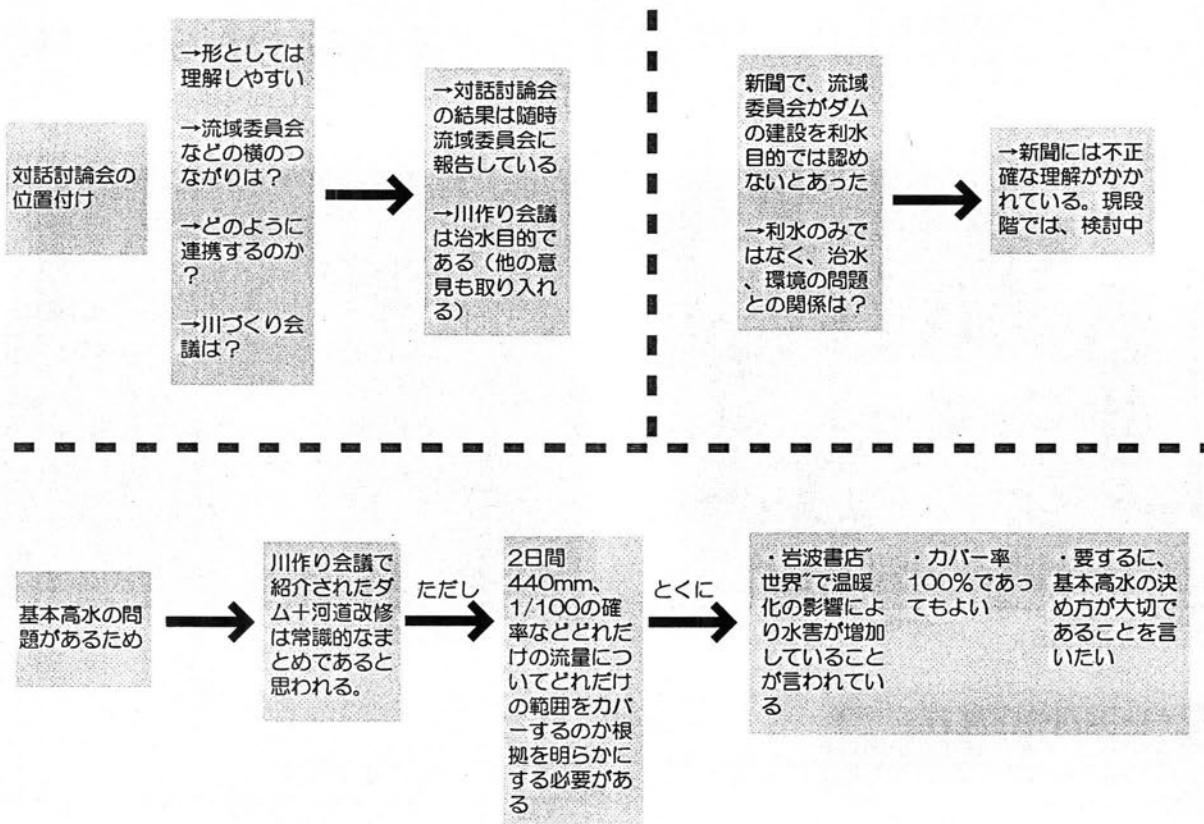
グループファシリテーター：中村伸之(ランドデザイン)

記録：水谷香織

第1回完成 シート

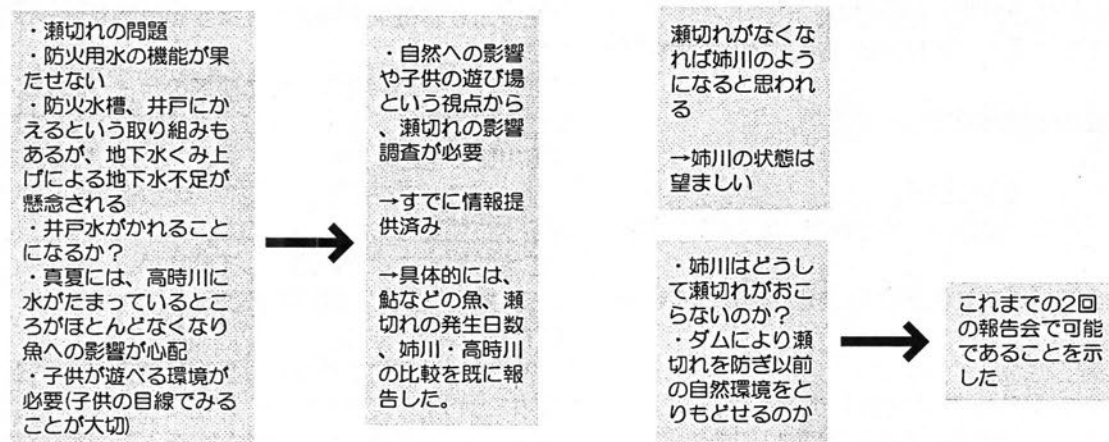
討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに筆記したポストイットを記載したもの

1. 全体の流れについて



2. 今回のデータに基づいた討論

2-1 瀬切れ



・資4-1 頭
首工で制限し
ても洪水時に
は水不足にな
る
・農業用水不
足



この問題を解
消するために
、一方では、
土地改良区
の整備(新たな
水の確保)に
より農業用水
の開発を行い
、一方では、
ダム計画があ
る。この関係
は？



・要調査 ダ
ム建設と土地
改良区の整備
の両方を考え
ているか？
・琵琶湖の水
もきれいでは
ないので藻が
発生する



グループ討論の様子

2-2 水質

ダムで水量の
調節が可能に
なる



1. 高時川の
瀬切れ解消に
つながる
2. 洪水緊急
時の水位上昇
につながる

一方、琵琶湖
の水質も大切



既に調査済み
である (p65
選択取水設備
p67曝気循
環装置など)

しかし

・ダムの水は
2年ほどでた
まる。切った
木の根がくさ
り水質が悪く
なるのではない
か？



1. 富栄養化
の影響と
2. 樹木の根
腐れとの影響
について要調
査

3. ダムの位置づけ(環境面での影響)

資料5p60 湯
水対策用の流
量で、利水の
分を環境分にか
え、水の改善
を図るととも
に費用配分も
考えなおす
べきではない
か

つまり、治水
、利水、環境
とあるが、と
くに水環境の
改善を言いた
い

水系全体の水
の改善が必要

上流、下流み
んなで考えよ
う、という姿
勢が大切

このような枠
組みができな
いか？(検討
項目になるか
？)

4. その他

・地震による
誘発災害
・地震により
ダムが壊れる
のではない
かなどと誘発さ
れる災害が心配



既に検討公表
済み

グループファシリテーターのコメント

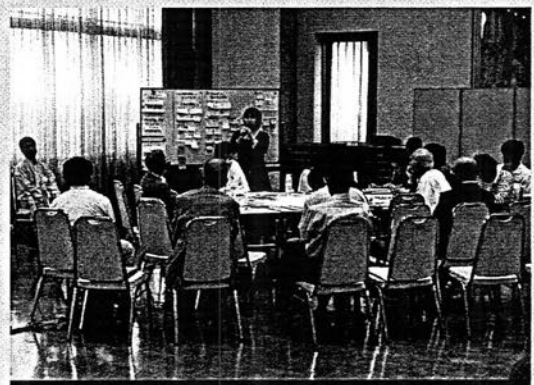
最近「地域個性」という言葉をよく耳にします。全国一律ではなく地域の特性を生かした街づくりや自然再生をしようというときに使われる言葉です。

皆様のお話を伺っていて、まさに地域個性について語られていると思いました。

瀬切れ、地下水、井戸水、防火用水、農業用水などが絡み合って、高時川流域の地域個性が生まれたのだと思います。川それぞれに個性があり、地域の生活のあり様と密接につながっていることが分かりました。

また、子どもの川遊びの大切さを指摘する意見もありましたが、世代を超えて川に関心を持ち、川と付き合うことが豊かな地域個性を未来へと受け継いでゆくことになるでしょう。

今後とも貴重なご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



全体発表の様子

第2回 丹生ダム対話討論会(2) 第3グループ

【 討論参加者 】

・近藤斉伸 ・杉田信男 ・西尾新治

(敬称略)

グループファシリテーター：中村伸之(ランドデザイン)

記録：水谷香織

第2回完成 シート

討論会で出された意見：討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに筆記したポストイットを記載したもの

はじめに

大きな声で討論しましょう。

資料準備状況と今後のスケジュール。

一生涯準備をしているが11/3にはまにあわないかもしれない。滋賀県、本省との調整も必要なため11月中旬以降に提出させていただきたい

本日の議論を終えて11/3、それ以降のスケジュールを考える。資料の説明は概略にとどめる詳細はグループ内で説明できる

1 前回のつみ残し(ふりかえる)

前回までのふりかえり かわらばん5にまとめている

まずこの討論会は住民が対話をしながら意見をまとめ国土交通省にいく場。滋賀県の川づくり会議は姉川・高時川の治水を中心に議論

役割分担をしている。おもに環境面(瀬切れ、地下水)について議論した。瀬切れをなくすためにもダムは有効というデータを紹介した

よご湖の水は田で利用するため、高時川には流れないとのことだった。瀬切れなど身近な問題からダムの是非を議論した

1-A. 流域全体の河川環境改善について (上流下流の交流)

ダムの費用負担

新規利水水分を県、国としてどう考え決定しようとしているのか？

ユーザー(大阪府、京都府などの下流の方)と調整はどうなっているのか？

この利水水分の量があり現在のダムの規模が決まっている

そもそも論がベースになっていないと瀬切れの話にもいかない

国として、総合的に考え調整はしている

ユーザーが費用負担できなければ、治水目的のダムになる。県の対応になる

現在の計画での利水容量で行くのか？減らすのであれば規模が変わってくる

利水以外の問題もあり国が対応している。特に異常渇水時

流域全体の河川環境改善

流域全体(上下)での議論が必要

水量が確保されれば水質もよくなる。

昔は保水能力があったが今は心配。ダムがいらない面もある

流域全体からのダムの必要性をいえた部分的、流域的な視点からはどうか？

琵琶湖の水位低下は魚への影響のみだけでなく臭いも酷くなる。当然水もよくなる

瀬切れがなくなることが1つ。その他この前の台風がきたときに堤防が決壊しそうになった

濁水、水温(クリアできると説明をうけた)、赤潮(大丈夫だろうという説明)はやはり心配

160mm降って300t流れた。これまではないこと。これは、伏流水がたぐさんあったため

環境面で必要であれば応分の費用負担が必要。建設的、定量的な意見がほしい。ダムは長期的にみたら環境と調和するはず



グループ討議

1-B. 水道の水

水道の水質

下流の人に水道をつかってもらいたい？

当然、水は命の源でありきれいな水を使ってもらいたい。

水量があるからこそ水質が保てるということもある

琵琶湖水位調整下流の水質向上からも規模は大きい方がよいかもしれない

30年前は琵琶湖の水が飲めた。ここ10年くらいで急速によくなった。琵琶湖の水質がよく保てたら滋賀も嬉しい下流の人も嬉しい

開発と保全の共生はあると思う。接点を見つけることが大切

最近水道水は飲まない

滋賀県、京都府で下水処理したものを大阪に送っている。濁水の水は水質は悪くなる

水道の水はそのまま飲む。上水道、浄化技術は発達したが下流は飲みにくい

下流のニーズを考えるとダムの規模は大きくなるこれについてはどうか？

2. 今回の資料について

資料に関する
質問・コメント

瀬切れがある
ときは地下水
が低いという
データがでて
いる

横軸、縦軸を
説明してほしい

横軸は通年。
柏原地区が上
流で順に下流
の地区になっ
ている

“西暦”と“
平成”で表現
しているが統
一したほうが
よい。

井戸、地下水
の利用

井戸、地下水
はどう利用し
ているか？

護岸整備で河
川に矢板をう
ってから井戸
水は枯れた

上水道が発達
したので地下
水を利用して
いない。

瀬切れの
データに対す
る疑問

瀬切れのおき
た日はわかる
のか5～6月
に多い

データはすべ
てあるこれま
での説明会資
料に示した

季節的な変動
はあるとおも
うが、条件的
に良い時期に
測量したので
はないか？

位置関係がわ
かりやすいよ
う便宜的に横
断測量時のデ
ータをグラフ
に記入した。
河川水位の季
節変動は当然
ある

漁業

漁業はどこで
行っているの
ですか？

鮎を捕りやす
いところ（下
流）で行って
いる。漁業権
がある

落合橋～美浜
橋は漁業が成
り立たない

護岸整備により魚は減っている。

護岸整備、河川改修には生物への影響を
考えなくてはならない

3. 代替案について

現在のところ
滋賀県の代替
案は6種類あ
る。

国土交通省は
現在検討中の
ため滋賀県案
をベースに討
論したい



全体発表

①平地河川化
の影響

①平地河川化
は今の川を掘
り下げてしま
う他とは違う
案

問題としては
魚類の産卵育
成環境、地下
水位に影響が
でる

地下水低下は
イメージでき
る。ダム建設
の濁水は短期
間だったがこ
の場合はどれ
くらいかかる
のか？

デメリットと
して琵琶湖の
水質悪化を入
れるべき

工事中の配慮
によって防止
できる範囲

行政の方がお
っしゃる許容
範囲は住民の
死活問題だっ
たりするので
要注意

河床が下がっ
たら地下水が
川に流れ、よ
り少なくなっ
てしまうので
はないか

防災の視点か
らは平地河川
化が良いが、
他の視点を考
えるとダム＋
河道改修

濁水の処理は
県の財政から
いうとたえら
れるか

フェンスをは
って少し流速
が上がると流
れてくる。
その対策は不
十分である

②河川付け替
え（十河道改
修）の影響

方針：②河川
付け替え（十
河道改修）に
ついてはどう
か？

洪水のときの
み水をカット
されるのであ
れば良いが、
そうでないと
漁業ができな
い。

遠浅、急激に深い湖の地
形が異なるので新しい川
をつくっても魚が遡上し
にくいのではないか。廃
川する川の漁業権の問題
も発生する

グループファシリテーターからのコメント

前回の対話討論会の後に、台風23号と新潟県中越地震の災害が
立て続けに起こり、改めて自然の猛威を実感するとともに、ハード
とソフトにわたる災害に強い地域づくりの必要を痛感いたしました。

今回の対話討論会に対して、進展の遅さにご不満を感じる方もお
られると思いますが、防災を人任せにせず、多くの人たちが自分た
ちの問題として捉え、考え、意見を言うことが、広い合意を生み、
社会を鍛えてゆくという面があると思います。

このような時期であればこそ、ダムや河川の整備を総合的に捉え
慎重に進めてきた、今回の試みは大きな意味を持つのではないでしょ
うか。

次回もよろしくお願ひいたします。

第3回
丹生ダム対話討論会(2)
第3グループ

【 討論参加者 】

・赤井昭 ・近藤斉伸 ・寺田英明 ・西尾新治 (敬称略)

グループファシリテーター : 中村伸之(ランドデザイン)

記録 : 水谷香織

第3回完成 シート

討論会で出された意見 : 討論参加者の発言を「記録者」がリアルタイムに筆記したポストイットを記載したもの

1 遊水地の是非を検討

水位を下げるための遊水地対策で、コスト、規模、効果を教えてほしいその位置づけは？
三川に隣接して土地が確保できるところを検討している

移転が必要なのは？
＝地図から拾って想定している 阿弥陀橋左岸で20軒 14ha 901億円

水田へ洪水を誘導するという意見は？
＝洪水時はやむをえず水田へ流す(という案もある) 地元の方の合意が必要で、合意が得られるかは別の話

現在、遊水地になっているところをもっと必要になるということか？
＝そういうことで 遊水地は戦後最大洪水には対応できるが既往最大には対応できない

遊水地はむずかしい

： 討論者

= : 河川管理者からの回答

2 河道改修と河床の保護

漁業者の立場として聞きたい。上流で河床を掘削すると下流の河床はどれくらい変化するか？

河床が下がると治水面ではよいが、取水面では厳しい
＝河床は基本的に変化しないようにする

3 渇水対策

渇水対策についてはどうか？

地下水の確保、田んぼの用水確保など渇水対策を切実に望む

漁業関係者にも切実な問題だ

節水ではなく必要な水の確保をするにはどうしたらよいかを考えるべき

琵琶湖の水位を下げると地下水もとりにくくなる

琵琶湖の水位は-150cmまで下がる

-2mに下がると補償の対象になる 水質は考慮していない

1.5m以下にはしないことが前提。水位が下がる回数も極力下げる。そうしないと話が違ってくる

琵琶湖総合開発のときにダム建設を想定していた

-1.5mの水位を守るためのダム建設でもある

4 その他の意見

橋の架け替えは必要な観点である

ダムを早く作ってほしい
ダム+河道改修に賛成 国を治めるものは水を治める

今回の資料について、客観的データに基づいているので一定の評価はしている



グループ討議



全体発表

5 強調したいこと

意見の一覧表
を作成したい

強調したいこ
とは？

5.1 治水、利水、環境の バランスのとれた議論

環境も大切だ
が人命が一番
大切なのでは
ないか？

異常な水害が
発生している
ので、治水、
防災の点から
ダム＋河道改
修に賛成

流域委員会は
環境を重んじ
た委員が多い
。環境破壊と
は定量的にと
ういうことか
？ 治水、利
水に対する正
統な評価がさ
れるべき

5.3 次世代への継承

水辺利用、安
全で生物を知
る環境教育、
防災教育水辺
利用は、子供
の教育にもな
る

子供の時から
川の恩恵を体
験して感じて
身につけるこ
とが大切

5.4 水質の重視

渇水時には、
漁業ができな
くなるし水質
が目に見えて
悪くなる

国交省と農水
省のかかわり
が見えてこな
い、農業用水
の問題

河川の水質問題など一体となっ
て考えるべきではないのか

5.2 異常気象への対応

異常気象に伴
う災害に対応
するためにも
ダムは必要

異常気象の際
の降水量に対
応できるデー
タはみあたら
ない。どう考
えるかは議論
するべき

百年確率の雨
に対する対策
はどうするか
という新しい
議論になる

ハードだけで
はなくソフト
な施策も必要
。人命が第一
、そのつぎは
財産

＝被害を最小
限にするよう
に実践してい
る（ハザード
マップなど）
（滋賀県）

6 これ以上議論を続けるか？

本日で終える

なんらかの形
で12/1の
流域委員会へ
意見書を出せ
るようにする



グループ討議

住民対話討論会の結果報告について

平成16年12月1日

近畿地方整備局

<目次>

1. 河川敷保全と利用に関する対話討論会
 1. 1 淀川河川事務所管内
 1. 1. 1 円卓会議アンケート
 1. 1. 2 円卓会議総括報告（淀川河川事務所管内実施分）
 1. 1. 3 ファシリテータとの検討会資料
 1. 2 琵琶湖河川事務所管内
 1. 2. 1 対話討論会（円卓会議）について
 1. 2. 2 ファシリテータとの検討会資料
河川敷ニュース 1
河川敷ニュース 2
 1. 3 猪名川河川事務所管内
 1. 3. 1 住民対話討論会について
 1. 3. 2 ファシリテータとの検討会資料
2. ダムに関する対話討論会
 2. 1 大戸川ダム（大戸川ダム工事事務所）
 2. 1. 1 対話討論会（円卓会議）について
 2. 2 余野川ダム（猪名川総合開発工事事務所）
 2. 2. 1 対話討論会（円卓会議）について
 2. 2. 2 ファシリテータとの検討会資料
 2. 2. 3 余野川ダムについての住民対話討論会 総括報告
 2. 3 川上ダム（木津川上流河川事務所）
 2. 3. 1 住民対話討論会について
 2. 3. 2 ファシリテータとの検討会資料
 2. 3. 3 木津川上流住民対話集会 提案書
 2. 4 天ヶ瀬ダム再開発（琵琶湖河川事務所）
 2. 4. 1 住民対話討論会について
 2. 4. 2 ファシリテータとの検討会資料
天ヶ瀬ダムワーク（1）にゆーす第1号
天ヶ瀬ダムワーク（1）にゆーす第2号
天ヶ瀬ダムワーク（1）にゆーす第3号
天ヶ瀬ダムワーク（1）にゆーす第4号
 2. 4. 3 天ヶ瀬ダムワーク 意見書
 2. 5 丹生ダム（琵琶湖河川事務所）
 2. 5. 1 住民対話討論会について
 2. 5. 2 ファシリテータとの検討会資料
丹生ダムかわら版 1
丹生ダムかわら版 2
丹生ダムかわら版 3
丹生ダムかわら版 4
 2. 5. 3 丹生ダム対話討論会 報告書

流域委員会への住民対話討論会結果報告一覧

報告会議名	報告日	資料番号	関係河川
第27回委員会	H15.12.9	参考資料2-1	淀川
		参考資料2-2	淀川
第28回委員会	H16.2.26	資料4-3	琵琶湖、大戸川、余野川
		河川敷ニュース1	琵琶湖
		天ヶ瀬ダムワーク(1)にゆーす第1号	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		天ヶ瀬ダムワーク(1)にゆーす第2号	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		丹生ダムかわら版1	姉川・高時川(丹生ダム)
		丹生ダムかわら版2	姉川・高時川(丹生ダム)
		丹生ダムかわら版3	姉川・高時川(丹生ダム)
第29回委員会	H16.5.8	資料5	猪名川、木津川上流、 宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)、 姉川・高時川(丹生ダム)
ファシリテーターとの検討会	H16.5.15	資料2	淀川
		資料3	猪名川
		資料4	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		資料5-1～5-5	木津川上流
		資料6	余野川(余野川ダム)
		資料7	姉川・高時川(丹生ダム)
		河川敷ニュース1	琵琶湖
		河川敷ニュース2	琵琶湖
		天ヶ瀬ダムワーク(1)にゆーす第1号	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		天ヶ瀬ダムワーク(1)にゆーす第2号	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		天ヶ瀬ダムワーク(1)にゆーす第3号	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		天ヶ瀬ダムワーク(1)にゆーす第4号	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		丹生ダムかわら版1	姉川・高時川(丹生ダム)
		丹生ダムかわら版2	姉川・高時川(丹生ダム)
		丹生ダムかわら版3	姉川・高時川(丹生ダム)
		丹生ダムかわら版4	姉川・高時川(丹生ダム)
木津川上流住民対話集会 提案書	H16.9.25		木津川上流
第9回ダムWG	H16.12.1	余野川ダムについての住民対話討論会	余野川(余野川ダム)
		天ヶ瀬ダムワーク 意見書	宇治川(天ヶ瀬ダム再開発)
		丹生ダム対話討論会 報告書	姉川・高時川(丹生ダム)

住民対話討論会について

	開催日時		ファシリテーター	河川名	会場		テーマ
淀川河川事務所	15/11/2	13:30～16:30	綾 史郎 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科教授	淀川下流	大阪市	大阪マーチャンダイズマートビル	河川敷保全と利用の方向性について
	15/11/9	13:30～16:30	片寄 俊秀 関西学院大学 総合政策学部 都市政策コース教授	木津川	京田辺市	京田辺市立中部住民センター	河川敷保全と利用の方向性について
	15/11/16	13:30～16:30	片寄 俊秀 関西学院大学 総合政策学部 都市政策コース教授	桂川・宇治川	京都市	京都市勤業館みやこめッセ	河川敷保全と利用の方向性について
	15/11/16	13:30～16:30	綾 史郎 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科教授	淀川中流	枚方市	大阪歯科大学	河川敷保全と利用の方向性について
琵琶湖河川事務所	15/11/24	13:00～15:30	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	彦根市	彦根商工会議所 大ホール	丹生ダムについて
	15/12/7	13:00～16:00	竺 文彦 龍谷大学理工学部 環境ソリューション工学科 教授	琵琶湖管内	守山市	守山商工会議所2F大ホール	河川敷保全と利用について
	15/12/20	13:00～15:30	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	彦根市	ひこね燦(さん)ばれす 多目的ホール	丹生ダムについて
	15/12/21	13:00～16:00	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	宇治市	宇治市産業会館 多目的ホール	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/1/17	13:00～15:30	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	長浜市	長浜ロイヤルホテル ロイヤルホール	丹生ダムについて
	16/1/25	13:00～16:00	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	大津市	大津市民会館 小ホール	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/2/7	13:00～16:00	竺 文彦 龍谷大学理工学部 環境ソリューション工学科 教授	琵琶湖管内	守山市	守山商工会議所	河川敷保全と利用について
	16/2/8	13:00～16:00	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	宇治市	宇治市産業会館 多目的ホール	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/3/27	13:00～16:00	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	大津市	ピアザ淡海	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/4/4	13:00～16:30	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	彦根市	彦根商工会議所 大ホール	丹生ダムについて
	16/9/18	13:00～16:00	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	大津市	ピアザ淡海 大会議室	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/10/3	13:00～16:00	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	彦根市	彦根商工会議所 大ホール	丹生ダムについて
	16/10/9	13:30～16:30	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	宇治市	宇治市民会館 ホール	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/10/16	13:00～16:00	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	彦根市	彦根商工会議所 大ホール	丹生ダムについて
	16/10/31	13:00～16:00	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	宇治川	大津市	ピアザ淡海 大会議室	天ヶ瀬ダム再開発について
	16/11/23	13:00～16:00	久 隆浩 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授	姉川・高時川	彦根市	彦根商工会議所 大ホール	丹生ダムについて
	16/11/28	13:00～16:00	久保田 洋一 (株)関西総合研究所 研究フェロー	宇治川	宇治市	宇治市民会館 大ホール	天ヶ瀬ダム再開発について

住民対話討論会について

	開催日時		ファシリテーター	河川名	会場		テーマ
猪名川河川事務所	15/12/7	13:30～16:30	片寄 俊秀 関西学院大学 総合政策学部 都市政策コース教授	猪名川	川西市	川西市商工会館経済交流センター	河川敷の保全と堤防天端や高水敷の利用について
	16/3/7	15:30～16:30	片寄 俊秀 関西学院大学 総合政策学部 都市政策コース教授	猪名川	豊中市	猪名川流域下水道原田処理場	河川敷の保全と堤防天端・河川敷の利用について
猪名川総合開発工事事務所	16/1/25	13:30～16:30	澤井 健二 摂南大学 工学部 都市環境システム工学科 教授	余野川	箕面市	箕面市立箕面文化センター 8F 大会議室	余野川ダムについて
	16/2/14	13:30～16:30	澤井 健二 摂南大学 工学部 都市環境システム工学科 教授	余野川	箕面市	箕面市立箕面文化センター 8F 大会議室	余野川ダムについて
大戸川ダム工事事務所	15/12/7	14:00～17:00	見上 崇洋 立命館大学 政策科学部教授	大戸川	京都市	京都リサーチパーク	大戸川ダムの計画見直し案について
	15/12/14	14:00～17:00	見上 崇洋 立命館大学 政策科学部教授	大戸川	大津市	大津商工会議所	大戸川ダムの計画見直し案について
	16/1/31	14:00～17:00	見上 崇洋 立命館大学 政策科学部教授	大戸川	大津市	大津商工会議所	大戸川ダムの計画見直し案について
木津川上流河川事務所	16/3/20	13:00～16:30	桑子 敏雄 NPO法人合意形成マネジメント協会理事長 東京工業大学教授兼	木津川上流	上野市	ゆめドーム上野第2競技場	川上ダムを含む木津川上流域の将来について
	16/6/5	10:30～16:30	桑子 敏雄 NPO法人合意形成マネジメント協会理事長 東京工業大学教授兼	木津川上流	上野市	ウェルサンピア伊賀 4階白鳳	川上ダムを含む木津川上流域の将来について
	16/7/18	10:00～16:30	桑子 敏雄 NPO法人合意形成マネジメント協会理事長 東京工業大学教授兼	木津川上流	上野市	上野フレックスホテル 2階 会議室	川上ダムを含む木津川上流域の将来について
	16/9/4	10:00～16:30	桑子 敏雄 NPO法人合意形成マネジメント協会理事長 東京工業大学教授兼	木津川上流	上野市	上野フレックスホテル 萩の間	川上ダムを含む木津川上流域の将来について
	16/9/25	10:00～15:30	桑子 敏雄 NPO法人合意形成マネジメント協会理事長 東京工業大学教授兼	木津川上流	上野市	ウェルサンピア伊賀 4階白鳳	川上ダムを含む木津川上流域の将来について